

シ ラ バ ス

令 和 2 年 度

学校法人 新潟科学技術学園

新潟工業短期大学

〒950-2076 新潟市西区上新栄町5丁目13番7号

T E L 025 (269) 3174

F A X 025 (268) 1222

<http://www.niigata-ct.ac.jp>

建学の精神

学生の皆さんへ

——「実学一体」を修得し、 地域社会に貢献しよう——

本学の建学の精神は「実学一体」です。

「実学一体」の「実」は、実用のことです。本学で学んだ知識と技術を実際に用いて、社会に役立つ人になって欲しいという願いが込められています。

「実学一体」の「学」は、学問のことです。社会がダイナミックに変化し、技術が急速に進化している現代にあっては、日々の勉学が必要であり、学問をおろそかにしてはならないという思いが述べられています。

「実学一体」の「一体」は、「実」と「学」の単なる合体ではありません。それは「学問を実際に活かし、実際からまた学ぶ」という姿勢を表しています。

「実学一体」を修得し、積極的に地域社会に貢献する、そのような技術者になってもらいたいと新潟工業短期大学は願っています。

ディプロマ・カリキュラム・アドミッション・ポリシー

○ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学の建学の精神は「実学一体」です。これには「実用」と「学問」を一体として身につけ地域社会に貢献して欲しいという、建学者の願いが込められています。本学ではこの建学の精神を踏まえ、「自動車工学に関する知識・技術を修得し、学問的情熱と実践力に富み、地域社会に貢献する技術者を育成する」を教育目的として定め、以下の項目を満たす学生に学位を授与します。

- (1) 幅広い教養に基づいた豊かな人間性を有していること。
- (2) 自動車整備士や電子制御技術者として活躍するために必要な知識・技能を有していること。
- (3) 自己の専門性を高める努力を行い、修得した知識・技能を基に様々な問題の解決にあたる能力を有していること。
- (4) 社会人としての倫理観と責任感を備え、地域社会に貢献できる熱意と素養を有していること。
- (5) 他人の意見に耳を傾け、自分の考えを口頭や文章によって的確に伝えることができる、コミュニケーション能力を有していること。

○ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

ディプロマ・ポリシーで述べた教育目的を実現するために、次のことを意図してカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- (1) 社会人としての基礎を築くことを目指して、「自然科学」や「社会科学」などの教養教育科目を設置しています。
これらを通して学習方法の習得を行うとともにコミュニケーション能力を養い、広い視野と豊かな人間性を兼ね備え、積極的に地域社会に貢献する人材の育成を図っています。
- (2) 自動車工学や自動車整備技術・電子制御技術の修得には、基礎からの積み上げが大切です。

そのため、機械工学や電気電子工学を基礎から学びます。

また、演習や実験・実習科目も基礎から応用まで段階的に学習できるようにしています。

- (3) 知識を基にした応用力と実践力のある技術者の育成を目指し、実験・実習を重視しています。

レポートの作成を通して表現力と考察力を養います。

- (4) これらの学修成果として、自動車技術コースでは2級自動車整備士、電子制御コースでは機械保全技能士と電気機器組立て技能士の資格取得があります。

また、希望した職種への就職や進学があります。全員が資格を取得し希望した進路に進めるように学習支援を行い、自己の能力が最大限発揮できるように指導を行います。

○ アドミッション・ポリシー（大学入学者受入方針）

本学は、「実学一体」という建学の精神のもと、自動車工学に関する知識・技術を修得し、学問的情熱と実践力に富み、地域社会に貢献する技術者の育成を目指しています。

このため、本学では次のような人に入学して欲しいと考えています。

〈求める学生像〉

- ・大学での学習に必要な基礎学力を有し、自動車及び電子制御に関する知識・技術を積極的に学べる人
- ・自動車整備士や機械保全技能士・電気機器組立て技能士の資格取得に意欲的な人
- ・社会人としての知識・教養を身につけ、自動車工学や自動車整備技術・電子制御技術を活かし社会での活躍を目指す人

目 次

シラバス

1. 自動車工業科	3
2. 専攻科自動車工学専攻	63

資 料

3. クラス担任等名簿	(1)
4. 履修登録の時期と方法	(2)
5. 教員別授業担当科目	(3)
6. 学年暦	(5)
7. 授業時間割表	(7)

自動車工業科 1年生対象授業科目

	授業科目名	担当教員名	ページ
教養教育科目	数学Ⅰ	武石文雄	3
	数学Ⅱ	武石文雄	4
	物理学Ⅰ	岡田龍哉／ 佐藤 孝	5
	物理学Ⅱ	岡田龍哉	6
	情報リテラシー	佐藤雅尚	7
	キャリアデザイン	木村昌彦	8
	英語Ⅰ	吉田広子	9
	英語Ⅱ	吉田広子	10
	体育実技A	阿部裕孝	11
	体育実技B	阿部裕孝	12
	日本語表現法Ⅰ(※)	渡邊有紀恵／ 高井麻衣子	13
	日本語表現法Ⅱ(※)	渡邊有紀恵／ 高井麻衣子	14
	日本事情(※)	渡邊有紀恵／ 高井麻衣子	15
	キャリア形成プログラム(※)	鈴木真人 他	16
	インターンシップ研修(※)	鈴木真人 他	17
専門教育科目	基礎自動車工学	高野 剛	18
	ガソリンエンジン	高野 剛	19
	シャシ構造Ⅰ	鈴木真人	20
	シャシ構造Ⅱ	高野 剛	21
	故障探究・整備Ⅰ	近藤克哉	22
	自動車実験・実習A	高野 剛 他	23
	自動車実験・実習B	高野 �剛 他	24
	自動車工学入門(※)	高野 剛	25
	自動車の力学入門(※)	鈴木真人	26
	電気電子工学Ⅰ	斎藤公世	27
	電気電子工学Ⅱ	斎藤公世	28
	電子制御概論	脇田喜之／ 佐藤 孝	29
	自動車電装Ⅰ	脇田喜之	30
	力学の基礎と機械のしくみ	鈴木真人	31
	機械製図	岡田龍哉	32

自動車工業科 2年生対象授業科目

	授業科目名	担当教員名	ページ
教養科目	経済学	渡辺芳久	33
	インターンシップ研修(※)	鈴木真人 他	17
	ジーゼルエンジン	高野 剛	34
	自動車検査・法規Ⅰ	渡部 賢	35
	自動車検査・法規Ⅱ	渡部 賢	36
	故障探究・整備Ⅱ	坂井 淳	37
	故障探究・整備Ⅲ	北原成倫	38
	自動車工学演習Ⅰ	高野 剛／ 川崎信隆	39
	自動車工学演習Ⅱ	鈴木真人／ 北原成倫	40
	自動車安全技術・新技術	高野 剛	41
	ビジネス実務	池井 豊	42
	自動車実験・実習C	高野 剛 他	43
	自動車実験・実習D	高野 剛 他	44
	自動車電装Ⅱ	脇田喜之	45
	HV・EV・FCV	脇田喜之	46
専門教育科目	電子制御工学Ⅰ	脇田喜之	47
	電子制御工学Ⅱ	斎藤 博	48
	電子制御実験・実習A	村山健一	49
	電子制御実験・実習B	村山健一	50
	基礎制御実習Ⅰ	脇田喜之	51
	基礎制御実習Ⅱ	脇田喜之	52
	電子制御工学演習Ⅰ	斎藤 博	53
	電子制御工学演習Ⅱ	斎藤 博	54
	材料の強さと機械要素設計	鈴木真人	55
	流体の力学と熱エネルギー	牛田晃臣／ 佐藤大祐	56
	機械材料と加工概論	岡田龍哉	57
	計測工学	斎藤 博	58
	保全工学	斎藤 博	59
	品質工学	斎藤 博	60

科目名の末尾に(※)、(*)のある科目は、卒業要件には含めない。

専攻科自動車工学専攻

授業科目名	担当教員名	ページ
自動車システム工学Ⅰ	吉田勝哉	63
自動車システム工学Ⅱ	高野 剛	64
自動車電気電子工学	脇田喜之	65
自動車応用力学	鈴木真人	66
エンジン制御工学Ⅰ	高橋和夫	67
エンジン制御工学Ⅱ	坂井 淳	68
シャシ制御工学Ⅰ	脇田喜之	69
シャシ制御工学Ⅱ	坂井 淳	70
高度総合診断Ⅰ	市野瀬和正	71
高度総合診断Ⅱ	渡部 賢	72
環境・安全管理	市野瀬和正	73
自動車整備情報システム	脇田喜之	74
自動車品質管理	市野瀬和正	75
高度自動車実験・実習	市野瀬和正 他	76
自動車実務実習	市野瀬和正 他	77
(インターンシップ)		

1. 自動車工業科

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
数学 I	LE-NTS001	必修	2	1	前期	武石 文雄			
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1			
授業の概要									
<p>理工系分野の学習において、特に必要と思われる基本的な数学的概念や計算法則について解説し、演習を行います。なかでも、関数の概念とその応用は幅広く他の教科目でも必要とされています。</p> <p>まず、基礎となる式や数の計算、方程式・不等式の解法、指數・対数法則、三角比などの理解と技能の習熟を図ります。</p> <p>次に、2次関数、指數関数、対数関数などの具体的な関数について、その性質や応用を学びます。</p>									
授業の目的									
<p>専門科目や数学IIなどで必要とされる数や式の計算、方程式・不等式の解法、2次関数、指數、対数、三角関数などについて、公式や定理の意味を理解するとともに、基礎的な計算技術の習得や様々な問題に応用できる力を養うことを目的としています。</p> <p>併せて、数学を学習する過程を通じて、論理的に物事を思考する力を養うとともに、背景にある数学的なものの見方・考え方を理解することも目的としています。</p>									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
<p>授業は講義を中心に進めます。予習、復習用のプリントを配布しますので、それにより計算技術の習得や授業内容を深めてください。また、課題提出や小テストを適宜実施し、目標到達度の確認をします。</p>									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	整式、実数、複素数	単位の変換や比例の考えについて復習する。 整式の展開やその逆の因数分解などの計算ができる。 実数計算、特に根号計算ができる。 複素数の概念を理解し計算ができる。			2	2			
2		実数計算、特に根号計算ができる。 複素数の概念を理解し計算ができる。			2	2			
3	2次方程式、不等式	方程式と恒等式の違いを理解し、因数分解や解の公式を用いて2次方程式が解ける。 連立方程式等いろいろな方程式が解ける。 1次不等式や連立不等式が解ける。			2	2			
4		1次不等式や連立不等式が解ける。			2	2			
5	点と直線 2次関数とその応用	点や傾きをもとに直線の方程式が求められる。 直線の平行、垂直を傾きであらわすことができる。 2次関数の概念を理解し、グラフがかけるとともにそれを利用し、2次関数の最大値、最小値が求められる。 2次不等式が解ける。			2	2			
6		2次関数の概念を理解し、グラフがかけるとともにそれを利用し、2次関数の最大値、最小値が求められる。			2	2			
7		2次不等式が解ける。			2	2			
8	指數関数、対数関数	指數の拡張の意味と拡張した指數法則を理解し、拡張された指數の計算ができる。 指數関数の逆関数としての対数関数を理解する。 対数の性質や計算法則を理解し簡単な計算ができる。 対数関数を利用し、簡単な対数不等式が解ける。			2	2			
9		対数の性質や計算法則を理解し簡単な計算ができる。 対数関数を利用し、簡単な対数不等式が解ける。			2	2			
10		対数の性質や計算法則を理解し簡単な計算ができる。			2	2			
11	三角比、三角関数	一般角や弧度法を理解し、弧度法の使用に慣れる。 三角比、三角関数を理解し、特別な角の三角関数を求め、三角関数のグラフがかける。 正弦定理、余弦定理、三角形の面積公式を理解し。簡単な三角形の解法ができる。 加法定理を理解し、それを使った簡単な問題が解ける。			2	2			
12		三角比、三角関数			2	2			
13		正弦定理、余弦定理、三角形の面積公式を理解し。簡単な三角形の解法ができる。			2	2			
14		加法定理を理解し、それを使った簡単な問題が解ける。			2	2			
15	まとめと総合演習	これまで学習してきたことをまとめ、ステップアップした演習問題が解けるようにする。			2	2			
事前学習	毎回、レジメを配布します。レジメをよく読むとともに単元に関連する例題等を解いて授業に出席して下さい。								
事後学習	授業ノートの整理を行うとともに、復習用の問題演習や補足事項をよく読み、理解を深めて下さい。								
教科書	使用しません。毎回配布するプリントにそって講義を行います。								
参考書	新「基礎数学」、高遠節夫ほか5名、大日本図書								
成績評価の基準	定期試験(70%)、小テスト・課題(20%)、受講態度・状況(10%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、疑問点等は次回までに質問してください。 必要な場合、補習の実施やレポート課題を提出してもらうことがあります。								
備考									

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
数学Ⅱ	LE-NTS002	選択	2	1	後期	武石 文雄
		関連するディプロマポリシー番号	1	関連するカリキュラムポリシー番号	1	

授業の概要

数学Ⅰで学習したことを前提にして授業を進めます。

事象の変化を細かく分析するために用いられる微分と、その逆に、物事を統合的に処理する方法としての積分を学びます。

微分・積分は、自動車工学を含む工学全般や自然科学に現れる現象を解析するための道具となっており、この分野を目指す学生にとって、欠かすことのできない重要な内容です。

授業の目的

微分・積分の考え方を理解することから始め、グラフ等を利用して見方・考え方を深め、微分法と積分法に関する基本的な計算技術を習得します。

次にそれらを使って図形の面積や体積、速度と距離などの簡単な応用例を解決できる力を養うことを目的としています。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

講義を中心に進めますが、計算技術を習得するには問題演習が大切です。プリントによって問題演習を行うとともに、課題提出や小テストを適宜行い、習熟度を深め目標到達度の確認を行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	関数の極限、 平均変化率、微分係数	関数の極限の意味を理解し、極限の計算ができる。 平均変化率、微分係数の意味を理解し、具体的な関数でそれらを計算することができる。	2	2	
2			2	2	
3	初等的な関数の導関数	導関数の意味とその性質を理解する。 整式や分数式、三角関数、指數・対数関数などの導関数の求め方を理解し、公式等を使って簡単な導関数の計算ができる。	2	2	
4			2	2	
5	いろいろな関数の導関数	合成関数や逆関数の導関数、さらに陰関数であらわされた関数の導関数を求めることができる。 それらの考えを用い、対数関数や逆三角関数の導関数が計算できる。	2	2	
6			2	2	
7	微分の応用	微分の応用として接線の方程式を求めることができる。 簡単な関数の増減を調べ、そのグラフを描くことができる。 また、速度や加速度を求めることができる。 平均値の定理を理解し、その応用として、ロピタルの定理、テイラー展開を理解する。	2	2	
8			2	2	
9			2	2	
10	不定積分、定積分 (置換積分、部分積分)	不積分や定積分の意味を理解する。 簡単な関数の不定積分や定積分の計算ができる。 簡単な関数で囲まれた図形の面積や体積を求めることができる。 いろいろな積分計算の方法を理解し、様々な積分の計算ができる。 変数分離形の微分方程式が解ける。	2	2	
11			2	2	
12			2	2	
13	多変数関数の微積分	偏微分、累次積分、重積分の考え方を理解し、簡単な偏微分、累次積分、重積分の計算ができる。	2	2	
14			2	2	
15	まとめと総合演習	これまで学習してきたことをまとめ、ステップアップした演習問題が解けるようにする。	2	2	

事前学習 毎回プリントを配布しますので、事前学習としてそれを十分に予習して授業に出席して下さい。

事後学習 授業ノートの整理を行うとともに、毎回演習問題を配布しますので、それを解いて理解を深めて下さい。

教科書	使用しません。毎回配布するプリントにそって講義を行います。
参考書	新「微分積分Ⅰ」、高遠節夫ほか5名、大日本図書
成績評価の基準	定期試験(70%)、小テスト・課題(20%)、出席や受講の状況(10%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、分からぬところは次回までに質問してください。 必要な場合、補講の実施やレポート課題を提出してもらうことがあります。
備考	

授業科目名	ナンバリング LE-NTS003	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
物理学 I		必修	2	1	前期	岡田 龍哉/佐藤 孝
		関連するディプロマポリシー番号		1,2	関連するカリキュラムポリシー番号	1
授業の概要						
自動車工学や整備技術を学ぶにあたり、必要な知識のひとつとして力学や電気に関する事柄があります。本講義では、高校で物理学を履修していない者を対象にして、速度・加速度、力(荷重)などの力学の基礎を学びます。また、電気の基礎についても学び、これらがもたらす実際の現象を参考に、物理的な理解とともに基本的な計算力を養う授業を行います。						
授業の目的						
工学では長さや質量の単位だけでなく、それらを組み合わせて別の単位記号を用いて物理量を表します。力学と電気に関する基本的な事項を学びながらさまざまな単位を理解するとともに、その現象を理解するためのモデルを自分で創ることが大切です。実際に起こっている現象を参考に、物体の運動や力、仕事量や仕事率を計算します。また、電圧・電流・抵抗や電力などの計算ができ、自己の理解した過程を他者に分かりやすく説明できるようになることを目的としています。						
授業の進め方と学習成果のフィードバック						
講義形式で行います。講義に関連した演習問題の報告書提出も随時行います。多くの演習問題を解くことによって講義の理解を深めます。報告書は次回授業時に返却して解説します。これらを通じて各单元における学生各自の目標到達度の測定を行っていきます。						
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名/項目名)
		事前	事後			
1	物理量と単位 (基本単位と組立単位)	身近な物理量を参考に、それらの量が基本単位や組立単位で示されることを理解し、単位記号に付く接頭語の意味が説明できる。			1	1 力学の基礎と機械のしくみ
2	等速度運動	物体の持つ速度が位置の変位量と時間の変位量の比であることを理解し、速度や移動距離が計算できる。			1	3 基礎自動車工学 (走行性能)
3	等加速度運動(1)	自動車の加速や減速による速度変化が加速度によって量的に計算できることを理解し、速度や移動距離が計算できる。			1	3
4	等加速度運動(2)	落下運動における重力加速度を理解し、自由落下、投げ上げ運動における速度や位置が計算できる。			1	4 力学の基礎と機械のしくみ(運動の基本)
5	力のつり合い(1)	力のつり合いを理解して、自動車の重心位置や軸荷重が計算できる。			1	3
6	力のつり合い(2)	三角比を理解して、斜面上の物体の力が分解・合成できる。摩擦力を理解して、斜面上に置かれた物体の運動が計算できる。			1	3
7	運動の法則(1)	運動に関する三つの法則を理解し、運動の第一法則(慣性の法則)、運動の第二法則、運動の第三法則(作用・反作用の法則)が説明できる。			1	4
8	運動の法則(2)	運動の第二法則(運動方程式)を理解し、加速度や力が計算できる。自動車の加速時、減速時に感じる力が説明できる。			1	3
9	仕事と仕事率	仕事と仕事率を理解して、斜面を走行する自動車の仕事量、仕事率が計算できる。			1	3 力学の基礎と機械のしくみ(仕事と動力)
10	エネルギー	位置エネルギーや運動エネルギー、力学的エネルギー保存則を理解して、運動エネルギーや速度の変化が説明できる。			1	3
11	電気の性質	電気の性質を理解して電気固有の単位(アンペア[A]、ボルト[V]、オーム[Ω])の関係が説明できる。			1	3 電気電子工学 I 自動車電装 I (電気の基礎)
12	オームの法則	電流・電圧・抵抗の関係をオームの法則から理解して、簡単な電気回路について、これらの値が計算でき、適切な単位を用いることができる。			1	3
13	抵抗の直列接続と並列接続	簡単な電気回路について合成抵抗を求め、電圧降下や各抵抗を流れる電流量が計算できる。			1	3
14	電力	電気のする仕事を理解して電力が計算できる。消費電力から負荷の抵抗値が計算できる。			1	3
15	まとめ	力学および電気に関する演習問題を解き、それらの説明ができる。			1	3
事前学習	授業の最後に次回の授業テーマを示します。事前に教科書を読み、質問事項などを整理して出席してください。					
事後学習	ノートを整理し、演習問題の報告書作成を行ってください。演習問題を解きながら理解を深め、次回の疑問点を整理しましょう。					
教科書	物理入門、高橋正雄、栗田泰生、姫本宣朗、東京教学社、電装品構造、全国自動車大学校・整備専門学校協会;参考資料等のプリント配付					
参考書	大学の物理、木下紀、裳華房					
成績評価の基準	定期試験(70%)、演習課題提出(15%)、授業への積極的参加状況など(15%)を総合的に評価します。					
欠席の取り扱い	欠席した場合にも演習問題の報告書提出を求めます。必要に応じて補習等も実施します。わからないところは、次回授業までに質間に来てください。					
備考	各单元の終了時に関連した演習問題のプリントを配付します。授業時、計算して確かめてもらいますので関数電卓を持参してください。					

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
物理学 II	LE-NTS004	選択	2	1	後期	岡田 龍哉
						関連するディプロマポリシー番号 1,2

授業の概要

物理学 I で学習した力学や運動の性質、電気の基礎の理解を基に、自動車に用いられている技術を「例題」として取り扱い、それらの理解を深めます。また、流体の運動や熱(ボイル・シャルルの法則など)とエネルギー、電流と磁気について基本的な事項を学び、自然と人間との関わりについての理解を深める内容で講義します。

授業の目的

物理学 II では、自動車を考察の対象として演習問題を解いて計算力を身につけるとともに、流体(気体、液体)の運動、熱とエネルギー、電流と磁気の関係について、身近な現象を説明できるようになることを目的としています。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

講義形式で行います。講義に関連した演習問題の報告書提出も随時行います。多くの演習問題を解くことによって講義の理解を深めます。報告書は次回授業時に返却して解説します。これらを通じて各単元における学生各自の目標達成度の測定を行っていきます。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	質量と荷重	力のつり合いを理解して、自動車に作用する複数の集中荷重から軸荷重や重心位置が説明できる。	1	3	力学の基礎と機械のしくみ (運動の基礎)
2	力の分解・合成	斜面に置かれた物体の荷重の作用方向を理解し、三角比を用いて各方向の成分を説明することができる。	1	3	
3	車軸に作用する力	自動車に固有の用語(荷台中心、リヤオーバーハング、荷台オフセットなど)を理解して、荷重の計算ができる。	1	3	
4	等速度運動	等速度直線運動を理解して、時間と位置の関係が説明できる。	1	3	基礎自動車工学 シャシ構造 (車の走行性能)
5	等加速度運動	等加速度直線運動を理解し、運動する物体の加速度を求めて、位置および速度の時間変化を、グラフを用いて説明できる。	1	3	
6	力学的エネルギー	位置エネルギー、運動エネルギーを理解して、力学的エネルギー保存の法則から斜面を移動する運動と垂直に移動する運動が説明できる。	1	3	
7	走行抵抗	ころがり抵抗、空気抵抗、登坂抵抗(勾配抵抗)が説明できる。	1	3	
8	流体の運動	静止流体の圧力が説明できる。液体の運動を理解し、ベルヌーイの式を用いて流体の速度や圧力の変化を説明できる。	1	3	
9	気体の状態	気体の性質を理解し、温度、圧力と体積との関係が説明できる。	1	3	流体の力学と熱エネルギー
10	熱とエネルギー	熱量と仕事量が等価であることを理解し、燃料の発熱量が仕事をしていることが説明できる。エンジンの出力が計算できる。	1	3	
11	熱サイクル	閉ざされた空間への熱の出入りを考えて、圧力-体積のグラフからエネルギーの取り出しについて説明できる(カルノーサイクル)。	1	3	
12	電気と磁気	物質の電気的性質を理解し、金属の電気伝導性の概要を電荷(伝導電子-自由電子)の移動状態から説明できる。	1	3	
13	オームの法則	オームの法則を理解し、簡単な電気回路の電流、電圧、抵抗について、その値を適正な単位を用いて求めることができる。	1	3	電気電子工学 (電気の基礎)
14	合成抵抗	複数の抵抗の直列接続や並列接続の合成抵抗を求め、電流や電圧が計算できる。	1	3	
15	電気のする仕事(電力)	電流によってなされる仕事を理解し、電流、電圧、負荷(抵抗)の関係を用いて電力の計算ができる。	1	3	

事前学習 授業の最後に次回の授業テーマを示します。事前に教科書を読み、質問事項などを整理して出席してください。

事後学習 ノートを整理し、演習問題の報告書作成を行ってください。演習問題を解きながら理解を深め、次回の疑問点を整理しましょう。

教科書	計算問題を解くノウハウ、整研出版社、その他に参考資料のプリント配付
参考書	大学の物理、木下紀、裳華房
成績評価の基準	定期試験(70%)、演習課題提出(15%)、授業への積極的参加状況(15%)を総合して評価します。
欠席の取り扱い	欠席した場合にも演習問題の報告書提出を求めます。必要に応じて補習等も実施します。わからないところは、次回授業までに質問に来てください。
備考	関数電卓を持参してください。各単元の終了時に関連した演習問題のプリントを配付します。この課題の報告書は次回授業時に提出してください。解説をします。

授業科目名	ナンバリング LE-HMS001	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
情報リテラシー		必修	2	1	前期	佐藤 雅尚			
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1			
授業の概要									
現代の社会人には、オフィスソフト(ワードプロセッサ、表計算ソフト)やインターネット活用(電子メール、インターネット検索、クラウドサービス)の知識は欠かせません。この演習では次の4つを学びます。(1)パソコンの基本操作およびタッチタイピング、(2)インターネット検索やクラウドサービスなどの活用、(3)電子メールの送受信、(4)ワードプロセッサと表計算ソフトによる文書作成。									
授業の目的									
この授業では、社会人に必要な以下のスキルを習得することが目的です。まずは、基本操作とタッチタイピング練習で、より手際良いパソコン操作を習得します。さらに、文書作成、表計算、グラフ作成、インターネット検索、電子メールの機能を理解し、これらを総合的に活用できる技術を修得します。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
演習形式で授業を行います。7回までの単元では演習課題を提出し、その評価結果で学生各自の目標到達の確認を行います。表計算ソフトの単元は実技テスト、セキュリティと情報モラルの単元はeラーニングの成果で目標到達を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	演習室の利用方法 パソコンの基本操作	演習室の利用ルールを理解し、正しく利用できる。 フォルダによる文書の管理ができる。			4				
2	タッチタイピング(毎回実施)	基本的なタッチタイピングができ、自ら技能を向上できる。			4				
3	ワードプロセッサ (第7回まで継続)	文書の編集、図の貼り付けなど、ワードプロセッサを利用して、基本的な文書作成ができる。			4				
4	eラーニング(継続学習) インターネット活用	セキュリティと情報モラルについてeラーニングで学習できる。 求める情報についてインターネットを利用して検索できる。			4				
5	クラウドサービス	文書をクラウドへアップロードし、クラウド上で、フォルダ管理、編集などができる。			4				
6	電子メール	メールの送受信を正しく行うことができる。 フォルダによるメール文書の管理ができる。			4				
7		メールに文書ファイルを正しく添付し、送信することができる。 メールに添付された文書ファイルを正しく扱うことができる。			4				
8	表計算ソフトによる 表の作成・編集・整形	表に手際よくデータを入力、編集ができる。 オートフィル機能を活用することができる。			4				
9		データが入力された表を整形、書式設定し、読みやすい表を作成することができる。			4				
10	表計算ソフトによる 関数の活用	関数を用い、各種計算式を入力することができる。 ビジネスで使われる計算式を理解し、計算することができる。			4				
11		絶対参照と相対参照を理解し、数式をコピーしても正しい計算を行うように設定することができる。			4				
12	表計算ソフトによる グラフの作成	グラフを手際よく作成・編集・整形することができる。 多系列のグラフを作成することができる。			4				
13	表計算ソフトまとめ	一般的な文書、表、グラフを指示通りに作成できる。			4				
14	表計算ソフト実技テスト	一般的な文書、表、グラフを手際よく作成できる。			4				
15	セキュリティと情報モラル (eラーニングテスト)	インターネットにおけるセキュリティと情報モラルについて、理解し説明できる。			4				
事前学習	放課後は演習室を自由に利用できます。届出は不要です。積極的に活用してください。 また、セキュリティと情報モラルの学習は、スマートフォン等でeラーニングにアクセスして自主的に学習してください。								
事後学習	課題が授業中に終わらなかった場合、放課後を利用して次回までに終わらせてください。								
教科書	イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル、noa出版								
参考書	インターネット検索で各種ソフトの使い方を紹介したホームページを調べてください。								
成績評価の基準	タッチタイピング、演習課題、実技テスト、eラーニングテスト、授業態度の5項目を各20%で総合評価します。 但し、提出物が未提出および各テストが未受験の場合は不合格とします。								
欠席の取り扱い	欠席をした場合は、翌登校時に担当教員より課題の指示を受け、放課後を利用して、次の授業までに欠席時の課題や演習を行う必要です。								
備考	演習室は卒業まで利用し続けることが出来ます。積極的に活用して下さい。								

授業科目名	ナンバリング LE-HMS901	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
キャリアデザイン		必修	2	1	後期	木村 昌彦*			
		関連するディプロマポリシー番号	2,4,5	関連するカリキュラムポリシー番号		1			
授業の概要									
<p>将来への生活基盤を確保し自立していくために、どのような職業生活を構築するかは重要な課題です。</p> <p>この授業科目は、本学卒業後に社会に通用する人材として成長していくための準備として『就業への意識』、及び『将来へのキャリア形成』を高めるとともに、就職活動のあり方について演習を含んだ授業を行います。</p>									
授業の目的									
<p>この授業科目は、人生におけるキャリア形成を主目的に多様な視点から就業意識を高め、問題点を個々に見極めながら自己分析や自己理解を通して職業観を身に付け、意欲的な就職活動を支援するものです。</p>									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
<p>テーマごとに、解説や板書を中心とした講義形式や、アクティブ・ラーニング手法を用いたグループディスカッション・課題発表など、いろいろな方法で授業を行います。また、授業の要所ごとに課題の提出・返却を行い、学生各自の学習理解度の確認を行います。</p>									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	キャリア形成	就業への意識を身に付けるため、進学目的を再認識し、キャリア形成の必要性を理解することができる。			事前 1	事後 3			
2	学生と社会人	現状と社会人になるための心構えを理解し、自立に向けて自身をどう変革する必要があるかを理解できる。			1	3			
3					1	3			
4	自立	働くを通じて自立し、自身を成長させ社会の一員として社会に貢献することを理解できる。			1	3			
5	企業研究	企業の形態や自動車の流通経路を説明できる。就職活動に向けた企業の絞り込みができる。			1	3			
6	企業の成立	事業別売上構成を学び、サービス収益の占める割合と重要性を理解する。固定費と変動費を理解し説明できる。			1	3			
7	就職活動	就職活動の意義、流れ、報連相及び企業接触方法を理解できる。			1	3			
8	自己分析	職業・職務探究に向け、自身の傾向を知るとともに新しい『気付き』を見つけることができる。			1	3			
9	就職活動準備	就業に向けた社会常識、ビジネスマナーが理解できる。情報収集の手段、会社説明会や会社訪問、業種や職種について理解することができる。			1	3			
10					1	3			
11	トレーニング	自己紹介書、履歴書の作成の意図を理解することができる。			1	3			
12	自己紹介書・履歴書作成	自己紹介書、履歴書を作成することができる。			1	3			
13	就職活動トレーニング	身だしなみを含め、挨拶から礼儀作法を訓練。また企業研究の進め方や企業訪問時のポイントを理解できる。			1	3			
14	面接のポイント	グループ討議や集団面接及び個人面接の具体的なポイントを理解し実践することができる。			1	3			
15	まとめ	就業意識を高め、迅速かつ有意義な就職活動ができる。			1	3			
事前学習	テキストの関連する項目を確認し、質問事項をまとめてください。								
事後学習	週ごとの配付資料や授業内容をノートに整理し、卒業後に向けて自身の進路を考察してください。								
教科書	資料を配布します。								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(60%)、受講状況及び課題・態度(40%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	必要に応じて欠席時の授業課題についてのレポートを提出してもらいます。								
備考	受講時の服装ではリクルートスーツ着用を義務付けることがあります。リクルート（会社説明会や訪問・採用試験）用にスース・ワイシャツ・ネクタイ・靴を用意ください。 *人材採用の実務経験あり								

授業科目名	ナンパリング LE-ENG001	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
英語 I		必修	2	1	前期	吉田 広子			
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1			
授業の概要									
授業では英語でのコミュニケーションが求められる海外旅行で、自分の意思を伝える能力の習得を目指します。読む、聞く、話す場面を想定し表現能力を身につけていきます。「自動車整備士の英語」をサブ教材に、基本表現やカー・メカニックのための英会話の応用を身に着けていきます。									
授業の目的									
「英語は習得する事が最終的な目的ではなく、世の中を理解し、世界中の人々とコミュニケーションをとるための道具である」これからは情報を受け取るにも発信するにも英語が大切です。 授業の初めには「Tongue Twister」でよりネイティブに近い音、イントネーションに慣れるためのトレーニングをします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
映像を使い毎回ひとつの単語を取り上げ、よく使う表現を確認します。テキストは chapter ごとにリスニングを中心に学習します。重要語彙、表現を習得できたかチェックし、応用表現へ展開していきます。課題、試験等に対するフィードバックを実施し学習内容の到達度を測ります。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	授業の進め方の説明				4				
2	In-Flight Announcements (機内アナウンス)	機内アナウンスを理解できる。			1				
3		カー・メカニックのための英会話の基本			3				
4	At Immigration and Customs (入国審査と税関)	入国審査、税関通過の仕方を理解し、表現できる。			1				
5		カー・メカニックのための英会話の応用 1~2			3				
6	Getting to a Hotel (ホテルへ移動)	公共交通機関を利用してホテルまでの行き方を理解し、表現できる			1				
7		カー・メカニックのための英会話の応用 3~4			3				
8	Checking into a Hotel (ホテルにチェックイン)	ホテルにチェックインの仕方を理解し、表現できる			1				
9		カー・メカニックのための英会話の応用 5			3				
10	At a Restaurant (レストランで食事)	レストランで料理のオーダーの仕方を理解し、表現できる			1				
11		カー・メカニックのための英会話の応用 6~7			3				
12	Taking a Subway (地下鉄に乗る)	地下鉄の乗り方を理解し、表現できる			1				
13		カー・メカニックのための英会話の応用 8~9			3				
14	At Fast-Food Restaurant ファーストフードレストラン	ファーストフード店でオーダーの仕方を理解し、表現できる。・ カー・メカニックのための英会話の応用 10~11			1				
15	まとめと補習	ノートの整理の確認、ポイントの確認			3				
事前学習	New Words の確認、単語の意味を調べておいてください。								
事後学習	ノートを整理して、既習の Sentence の内容を理解しておいてください。								
教科書	Travel English at Your Fingertips 実用観光英語-改訂新版— Takuji Shimada, Bill Benfield, 成美堂 サブ教材「自動車整備士と英語」公論出版								
参考書									
成績評価の基準	筆記試験(50%)、課題(20%)および受講態度(30%)を基準に総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	既習の教材、内容をノートも含めて補充しておいてください。								
備考	英和辞書及びそれに準ずる物を忘れずに持参してください。								

授業科目名	ナンバリング LE-ENG002	必・選	単位数 1	学年 1	学期 後期	担当教員名 吉田 広子			
英語 II	選択	1	1						
	関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号		1			
授業の概要									
授業では英語でのコミュニケーションが求められる海外旅行で、自分の意思を伝える能力の習得を目指します。読む、聞く、話す場面を想定し表現能力を身につけていきます。「自動車整備士の英語」をサブ教材にカー・メカニックのための「セイビ用語、実践用語、ショートストーリー」を読み進めます。									
授業の目的									
「英語は習得する事が最終的な目的ではなく、世の中を理解し、世界中の人々とコミュニケーションをとるための道具である」と考えます。これからは情報を受け取るにも発信するにも英語が大切です。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
映像を使い毎回ひとつの単語を取り上げ、よく使う表現を確認します。テキストは chapter ごとにリスニングを中心に学習します。重要語彙、表現を習得できたかチェックし、応用表現へ展開していきます。課題、試験等に対するフィードバックを実施し学習内容の到達度を測ります。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	授業の進め方の説明				4				
2	Hotel Service (ホテルサービス)	ルームサービス、ランドリーサービス等の利用を表現できる。 カー・メカニックのための「セイビ用語」			1	3			
3					1				
4	Booking Tour (ツアーの予約)	ツアーチの選択とオーダーを表現できる カー・メカニックのための「実践用語」			1	3			
5					1				
6	Health Care (体調管理)	海外で体調をくずした時、症状を相手に伝えられる 「FUN TO READ」			1	3			
7					1				
8	Shopping (ショッピング)	みやげ物店での買い物の仕方を理解し、表現できる 「FUN TO READ」			1	3			
9					1				
10	Making Complaints (苦情申し立て)	ホテル、レストラン等で要望、苦情を表現できる 「FUN TO READ」			1	3			
11					1				
12	Dealing with Problems (問題対処)	紛失物等の対処を表現できる 「FUN TO READ」			1	3			
13					1				
14	At the Airport (空港で)	遅延、欠航等の対処を表現できる 「FUN TO READ」			1	3			
15	まとめと補習	ノートの整理の確認、ポイントの確認			1	3			
事前学習	New Words の確認、単語の意味を調べておいてください。								
事後学習	ノートを整理して、既習の Sentence の内容を理解しておいてください。								
教科書	Travel English at Your Fingertips 実用観光英語—改訂新版—, Takuji Shimada, Bill Benfield, 成美堂 サブ教材 「自動車整備士と英語」 公論出版								
参考書									
成績評価の基準	筆記試験(50%)、課題(20%)および受講態度(30%)を基準に総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	既習の教材、内容をノートも含めて補充しておいてください。								
備考	英和辞書及びそれに準ずる物を忘れずに持参してください。								

授業科目名 体育実技 A	ナンバリング LE-PHE002	必・選 必修	単位数 0.5	学年 1	学期 前期	担当教員名 阿部 裕孝			
授業の概要									
前期にバドミントンについて、後期にバスケットボールについて授業を行います。									
バドミントン競技には、①シャトルとラケットの運動をマッチングし、②体の移動運動と①の運動を融合するという特徴があります。この二つをゲームに応用することができるようになることを目標とします。バドミントン競技の特性にあったコンディショニングの方法を学び、実践できるようになることも大切です。 バ									
授業の目的									
教養として、スポーツへの知的な関わり方を学ぶことに意味があります。生涯、スポーツに向かう態度やスポーツの学習方法、トレーニングの基礎などをバドミントンとバスケットボールを主な教材として学習します。あわせて、競技を楽しめるように学習をすすめながら、プレイヤーとしての資質だけでなく、スペクテーター（観戦者）、コーディネーター（調整者）としての資質についても体験し学習することを目的とします。積極的かつ協力的に授業に参加することにより、自らの能力の進化、参加態度などを正当に評価できるようになることを目的とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業の最初に基本事項を説明した後は、実技を通じて目標到達度を確認しながら学習します。									
単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間	関連科目						
事前	事後	(短縮名／項目名)							
基本事項の説明・ウォーミングアップの方法と筋力トレーニング	基本事項を理解する。								
ダブルスゲームの学習 競技規則、審判法 打撃運動の理論と実習 クリア、ドロップショット、ヘアピンショット等	ダブルスゲームの競技規則、審判法を理解し、説明できる。 ゲームを行う中で各種の技術を使えるようになる。								
試合の運営実習	戦法を学習し実践できる。								
事前学習	最初の授業に対しては小・中・高校の体育の授業で学習したことを復習しておくこと。								
事後学習	授業内容について復習し、次回の授業までに完全に理解しておくこと。理解できない内容については次回の授業で質問できるように整理しておくこと。								
教科書									
参考書									
成績評価の基準	受講態度・学習態度を重視(55%)、技能・知識・学習意欲等(45%)を含めて総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	90%以上の出席を必要とします。必要に応じて補習を行います。								
備考									

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
体育実技 B	LE-PHE003	必修	0.5	1	後期	阿部 裕孝

授業の概要

前期にバドミントンについて、後期にバスケットボールについて授業を行います。

バスケットボールは、人間の身体運動の基本である走・跳・投を含んだ理想的な運動で、チームゲームでありながら、個人の技能が重要な要素となっています。はじめにショットの技術を学習し、それらをゲームに応用することができることを目標とします。バスケットボール競技の特性にあつたコンディショニングの方法を学び、実践できるようになることも大切です。

授業の目的

教養として、スポーツへの知的な関わり方を学ぶことに意味があります。生涯、スポーツに向かう態度やスポーツの学習方法、トレーニングの基礎などをバドミントンとバスケットボールを主な教材として学習します。あわせて、競技を楽しめるように学習をすすめながら、プレイヤーとしての資質だけでなく、スペクター（観戦者）、コーディネーター（調整者）としての資質についても体験し学習することを目的とします。積極的かつ協力的に授業に参加することにより、自らの能力の進化、参加態度などを正に評価できるようになることを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業の最初に基本事項を説明した後は、実技を通じて目標到達度を確認しながら学習します。

単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後	
基本事項の説明・ウォーミングアップの方法と筋力トレーニング	基本事項を理解する。			
基本動作				
ランニングショット、 フリースロー、 ジャンプショット、 パス、ドリブル等、 スリーメン、 オールコート 3 対 2 等、 ゲーム	個人技能を習得する。 正しい姿勢、ショット、パス、ドリブル、リバウンド集団技能を習得する。 チームプレイ、オフェンス・ディフェンスの基本プレイ。			
試合の運営実習 ゲーム、審判法	互いにコミュニケーションをはかり、審判、プレイする人を分担し、尚、ゲームに参加する順番も自分たちで決定することができる。			
事前学習	最初の授業に対しては小・中・高校の体育の授業で学習したことを復習しておくこと。			
事後学習	授業内容について復習し、次回の授業までに完全に理解しておくこと。理解できない内容については次回の授業で質問できるように整理しておくこと。			
教科書				
参考書				
成績評価の基準	受講態度・学習態度を重視(55%)、技能・知識・学習意欲等(45%)を含めて総合的に評価します。			
欠席の取り扱い	90%以上の出席を必要とします。必要に応じて補習を行います。			
備考				

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
日本語表現法 I	LE-JPN801	選択	1	1	前期	渡邊 有紀恵／高井 麻衣子
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1
授業の概要						
本授業では、専門的な文章を書くために必要な表現、文法を、作文の基礎知識とともに学びます。第1回から第4回まででは文章作成に必要な基本事項を学習し、第5課から第13課では専門性の高い文章を書くために必要な表現を学びます。						
授業の目的						
①日本語での文章作成に必要な基本事項を理解する。 ②論文やレポートの作成に必要な日本語表現が運用できる。 ③展開について意識し、論理的に考える力を身につける。						
授業の進め方と学習成果のフィードバック						
各課で作文技術を学んだあと、運用能力を高めるために問題を解いていく。その後、毎回200字～400字の作文を書く。また、学習した表現や文法項目については、次の授業の冒頭に小テストを行い、学習到達度の確認をします。						
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)
事前	事後					
1	第1課 表記のしかた 第2課 文体と書きことば	文字、記号、句読点、書きことばの文体、連用中止形を理解し、使えるようになる。			2	
2	第3課 段落に分ける	中心文、支持文を考え3段落で書く。			1.5	0.5
3	第4課 「は」と「が」	「は」と「が」の使い方を理解し、正しく使い分けることができる。			1.5	0.5
4	第5課 テーマを述べる	助詞相当語を理解し、正しく使うことができる。			1.5	0.5
5	第6課 理由・経過を述べる	理由の表現、時間の表現を使って説明することができる。			1.5	0.5
6	第7課 定義をする	「こと」「の」の用法を正しく理解し、名詞文を書いたり、定義をしたりすることができる。			1.5	0.5
7	第8課 判断していることを述べる	助詞相当語を理解し、それを使って判断していることを述べることができる。			1.5	0.5
8	第9課 問題点を述べる	間接疑問文を理解し、問題点を指摘して書くことができる。			1.5	0.5
9	第10課 引用する	引用の仕方を理解し、自身の考え・意見と区別して書くことができる。			1.5	0.5
10	第11課 解決策を述べる	接続詞を正しく理解し、使うことができる。問題を述べ、提言をすることができる。			1.5	0.5
11	第12課 手順を述べる	接続表現を正しく理解し、それを使って手順を明確に述べることができる。			1.5	0.5
12	第12課 手順を述べる				1.5	0.5
13	第13課 指示詞を使う	文脈指示を理解し、適切に使うことができる。			1.5	0.5
14	第13課 指示詞を使う				1.5	0.5
15	まとめ	授業で学んだことを整理する。			1.5	0.5
事前学習		本文の設問(【問題】)にこたえておくこと。				
事後学習		教科書の内容、添削された作文を十分に復習すること。				
教科書		改訂版 大学・大学院留学生の日本語(2) 作文編、アカデミック・ジャパンーズ研究会、アルク				
参考書		授業中に指示します。				
成績評価の基準		期末試験(40%)、課題(50%)、参加意欲(10%)を総合的に評価します。				
欠席の取り扱い		欠席した回の内容を自習してください。				
備考		授業で使用したプリントはファイル(保管)してください。 この単位は卒業要件に含まれません。				

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
日本語表現法Ⅱ	LE-JPN802	選択	1	1	前期	渡邊 有紀恵／高井 麻衣子
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1

授業の概要

本授業では、専門分野のレポート、論文、専門書などの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を養成します。文章の構造を理解するとともに、読解に必要な文法項目についても時間をかけて学習します。

授業の目的

- ①文章構造に関する知識、文章の論理構造に関する知識、文法に関する知識を身につける。
- ②前読み、段落読み、情報検索などの読解スキルを習得する。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

テーマを身近なこととして捉えるための話し合いをした後本文を読み、【問題】を通して内容について全体の把握から細部の理解をする。さらに、段落構造や文章構造を理解したうえで、論理的文章に使われる頻度の高い文法項目を学習する。

単元ごとの課題を通して学習到達度の確認を行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	レベルテスト	自己の日本語能力を客観的に把握する。		2	
2	1課	文章の構造および段落内の構造について理解を深める。また、書きことばの文体が使えるようになる。	1.5	0.5	
3	2課	中心文、支持文について理解する。連用中止形が使える。	1.5	0.5	
4	3課	文章構造を知るためアウトラインについて学ぶ。分類を表す表現、主語・述語、名詞句について理解し、使えるようになる。	1.5	0.5	
5	4課	定義をするための表現、「こと」の用法を習得する。	1.5	0.5	
6	5課	時間の経過を述べる表現、展開パターンを理解する。助詞相当語について理解し、使えるようになる。	1.5	0.5	
7	6課	比較・対照の表現、展開パターンを理解する。指示語が適切に使えるようになる。	1.5	0.5	
8	7課	原因・結果を表す表現、展開パターンを理解する。従属節が適切に使えるようになる。	1.5	0.5	
9	8課	位置を表す表現、従属節について理解し、適切に使える。	1.5	0.5	
10	9課	論理的な文章の構成、列挙と順序に関する表現、接続表現について理解する。	1.5	0.5	
11	10課	理由・根拠を表す表現、展開パターン、接続表現を理解する。	1.5	0.5	
12	11課	筆者の意見を表す表現、反語疑問文を習得する。	1.5	0.5	
13	12課	レポート形式の文章を読み、構成を把握し、段落の要旨を理解する。また、図形を読み解き、日本語で説明できるようになる。	1.5	0.5	
14	12課		1.5	0.5	
15	まとめ	文章の構造や読解のための文法項目について、学んだことをまとめる。	1.5	0.5	

事前学習 【語句】の学習を行い、本文を読んでおいてください。

事後学習 教員の指示に従い、【読んだあとで】等で課の復習を行う。

教科書	改訂 大学・大学院留学生の日本語 読解編、アカデミック・ジャパンーズ研究会、アルク出版
参考書	授業時に随時指示する。
成績評価の基準	期末試験(50%)、課題(30%)、参加意欲(20%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習してください。次回の授業の初めに理解度をチェックします。
備考	授業で使用したプリントはファイル(保管)してください。 この単位は卒業要件に含まれません。

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
日本事情	LE-JPN803	選択	1	1	前期	渡邊 有紀恵／高井 麻衣子			
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1			
授業の概要									
本授業では、留学生にとって身近であり、かつ考える意義がある様々なケースの読みものから、その内容を理解するとともにいくつかの問題解決方法を見出します。そして、ディスカッションやレポートにより、ケースに対する考え方を相互に伝える練習を行います。学生が主体的に考え、協働的に学ぶ姿勢が大切となります。									
授業の目的									
① ケースを読み、複数の解決方法を見出し、その状況にあった自分の解決方法を選択する力を育成する。 ② 自己の考え方や主張を他者にわかりやすく説明するための表現力を身につける。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業ではグループワークなどで状況理解や意見交換を行う。 毎回授業の最後にミニレポートを書き、自分の考えを日本語でまとめことによって、学習到達度の確認を行う。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	1課 暮らし ケース1	アパートの上階の人、寮のルームメイト、アパートの大家、ホームステイ先のホストマザー、親戚、不動産屋、近所の人、恋人との間に起こった問題について理解し、日本語で自分の考えを話すことができる。			2	日本語表現法 I 日本語表現法 II			
2	1課 暮らし ケース2				1.5				
3	1課 暮らし ケース3				1.5				
4	2課 友だち ケース1	人間関係、性格、同国人との付き合いを含めた友人関係でのトラブルについて理解するとともに、その背景を考え、解決策を日本語で述べることができる。			1.5				
5	2課 友だち ケース2				1.5				
6	2課 友だち ケース3				1.5				
7	3課 アルバイト ケース1	アルバイト先で起こる接客、予算、給料、人間関係等の問題を理解し、自身の問題として捉えたうえで、自身の考えを話すことができる。			1.5				
8	3課 アルバイト ケース2				1.5				
9	4課 大学生活 ケース1	大学で学ぶことの意義、クラス発表の準備、グループワーク、大学院への進学、研究計画、先生との関係、論文執筆、学園祭での出店等、大学生活で直面する身近な話題について理解し、日本語で自身の考えを述べることができる。			1.5				
10	4課 大学生活 ケース2				1.5				
11	4課 大学生活 ケース3				1.5				
12	5課 将来と仕事 ケース1	卒業後の進路、自分と家族の希望のすれ違い、仕事の意義、人間関係、SNSでのやり取り等、進路決定やその後の社会人生活における問題について理解し、日本語で自分なりの意見を述べることができる。			1.5				
13	5課 将来と仕事 ケース2				1.5				
14	5課 将来と仕事 ケース3				1.5				
15	まとめ	自分の興味のあることについて調査し、発表することができる。			1.5	0.5			
事前学習	単語や文法など表現を確認しながら本文を読んでおくこと。								
事後学習	授業内容の復習を必ずすること。								
教科書	留学生のためのケースで学ぶ日本語、宮崎七湖編、江後他著、ココ出版								
参考書	授業中に随時指示する。								
成績評価の基準	期末試験(40%)、課題(40%)、参加意欲(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習してください。								
備考	授業で使用したプリントはファイル(保管)してください。 この単位は卒業要件に含まれません。								

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員
キャリア形成プログラム	LE-HMS902	選択	1	1	通年	鈴木真人, 他
		関連するディプロマポリシー番号		5	関連するカリキュラムポリシー番号	1

授業の概要

社会に入って自分を生かし輝くためには在学中からキャリアについて考え、実現のための準備をすることが重要です。先輩たちのキャリアを見聞きすることは疑似体験になり大いに役立つはずです。また、キャリア形成において自己実現能力を高めることは不可欠であり、そのための手段も学ぶ必要があります。そのために本プログラムを実施します。

授業の目的

講演会やグループワークを通して、他人の意見に耳を傾け、自分の考えを相手に的確につたえるコミュニケーション能力を養い、問題解決手法を学び実践することで自己実現能力を高め、キャリア形成につなげていくことを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

本科目は不定期で実施します。実施時期や課題については掲示で確認してください。

単元ごとにレポートの提出を行い目標達成度の確認を行います。

単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後	
イントロダクション ノート・レポートの書き方	実施方法、効果的なノート・レポートの書き方を理解する		1	
工場見学	自動車製造工場を見学し、本学で学ぶ対象である自動車の製造工程の雰囲気、匂いや質感を体感し、レポートにまとめ、伝える。 (事前説明会で課題が与えられるので、十分に下調べを行う必要があります。) メーカー技術者による技術講演を聞き、感想をレポートにまとめ、伝えられる。	1	2	
企業セミナ(自動車)	自動車メーカーおよびディーラーからのゲスト講師による講演・実演を見聞きし、その内容・感想をレポートにまとめ、伝えられる。	1.5	0.5	
企業セミナ(製造業)	製造メーカーからのゲスト講師による講演を聞き、その内容・感想をレポートにまとめ、伝えられる。	1.5	0.5	
問題解決手法	問題解決手法を理解し、実践できる。 実践においては課題(問題)に対する少人数によるグループワークを実施します。結果は発表またはレポートにより提出する。 企業における具体的な問題点を理解し、解決手法を用いて整理解決・報告できる。	0	2	
OBセミナ	OBゲスト講師による職場体験について講演を聞き、その内容・感想をレポートにまとめ、伝えられる。	0.5	0.5	

事前学習 事前課題が与えられるので、それについて下調べを行ってください。

事後学習 学んだ内容・感想についてレポートにまとめてください。

教科書	適宜必要なプリントを配布します。
参考書	
成績評価の基準	受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)(60%)、レポートや課題(40%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の配布資料に基づいてその内容について調べ、レポート等を提出してもらいます。

備考 この科目単位は卒業要件単位になりません。 本講義では企業の実務経験者によるセミナが含まれます。

授業科目名	ナンパリング LE-HMS903 インターンシップ研修	必・選	単位数 選択 1	学期	在学期間中	担当教員名 鈴木真人, 他			
授業の概要						関連するディプロマポリシー番号 5			
授業の目的									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
事前の講義・演習と企業での体験実習を行います。									
1日の体験実習最後には必ず報告書を作成し、研修先担当者の確認を受けることでその日の学習成果を振り返ります。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	インターンシップとは	インターンシップの意義を理解し、参加する目的を明確にして目標を設定することができる。			1				
2	会社概要調査 エントリーシート作成	希望研修先企業の概要などを調査し、研修先を決定することができる。エントリーシートを作成することができる。			2				
3	ビジネスマナー	研修時に必要とされる基本的なビジネスマナーを理解し、実践することができる。			2				
4	インターンシップ参加	研修先担当者からの指示に従い、研修を遂行することができる。 研修先担当者への「報・連・相」を意識的して実践することができる。 実際の研修の場においてビジネスマナーを実践することができる。 一日の研修内容や不明点、気づきについて整理し、日報にまとめることができる。			1	1			
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14	インターンシップまとめ	インターンシップ中に気づいた、必要とされる専門知識や社会人基礎力を今後どう身に着けるか具体的に計画することができる。			2				
15	報告	報告書をもとに、自分の考えを口頭で的確に伝えることができる。			2				
事前学習	事前に翌日の研修内容等を確認し、質問事項等の準備をしてください。								
事後学習	1日の研修内容を整理し、日報にまとめ理解を深めてください。								
教科書	適宜、資料を配布します。								
参考書									
成績評価の基準	報告書(40%)および研修先企業の評価(60%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	社会人としてのマナーが問われるため、原則として遅刻・欠席等は認められません。 ただし、やむを得ない場合はインターンシップ先企業の指示に従ってください。								
備考	この科目はキャリア教育科目であり、修得単位は卒業要件単位になりません。								

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
基礎自動車工学	PE-ATE101	必修	2	1	前期	高野 剛

授業の概要

日本の基幹産業である自動車産業において自動車の歴史、自動車の種類、自動車メーカーと販売体系を説明し、自動車の構造と機能を知る上で重要となる製造方法、自動車材料や機械要素の基礎的な知識について体系的に学びます。また、自動車の安全確保等のために行う点検整備と整備士の仕事・役割、点検整備の基礎知識、自動車の諸元について学習します。

授業の目的

この講義では、自動車整備士として必要とされる自動車の基本構造・機能に関する技術知識の習得と自動車産業界における整備士の仕事と役割を理解することを目的としています。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業は講義形式で行います。授業の要所ごとに課題の提出・返却を行い、学習内容の到達度を確認します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	自動車の歴史	自動車の発達史と技術革新を理解し説明できる。	1	3	
2	自動車の定義と種類	自動車の定義と種類、自動車メーカーと販売体系を理解し説明ができる。	1	3	
3	自動車整備士の役割	自動車整備士の仕事と役割を理解し説明できる。	1	3	自動車検査・法規
4	自動車整備の基礎	自動車整備の基礎知識と基礎整備作業を理解し説明できる。	1	3	
5	自動車の基本構造	自動車の基本的な構造・機能を理解し説明ができる。	1	3	
6	自動車の製造	自動車の製造ラインと生産方法を理解し説明できる。	1	3	機械材料と加工概論
7	自動車の構造と材料 1	自動車の構造と使用される鉄鋼材料の関係を理解し説明ができる。	1	3	
8	自動車の構造と材料 2	自動車の構造と使用される非鉄金属、非金属材料の関係を理解し説明ができる。	1	3	
9	自動車の機械要素 1	自動車に使用されている機械要素(ネジ、ばね、ベアリング)を理解し説明ができる。	1	3	材料の強さと機械要素設計
10	自動車の機械要素 2	自動車に使用されている機械要素(ねじ機構、伝達機構、てこ)を理解し説明ができる。	1	3	
11	自動車の燃料と潤滑剤	自動車燃料の種類・特性と潤滑剤の種類・特性を理解し説明できる。	1	3	ガソリンエンジン
12	自動車の点検機器	自動車の点検・検査作業の各種測定機器の知識を理解し取扱いや説明ができる。	1	3	故障探究・整備
13	自動車の諸元 1	自動車の諸元(排気量、圧縮比)を理解し説明できる。各諸元の計算ができる。	1	3	ガソリンエンジン
14	自動車の諸元 2	自動車の諸元(走行抵抗、駆動力)を理解し説明できる。各諸元の計算ができる。	1	3	シャシ構造
15	まとめ	自動車の基本構造・機能を理解し、整備士の仕事の重要性を説明ができる。	1	3	

事前学習 テキスト及び配布資料を読み、質問事項を整理しておいてください。

事後学習 授業内容をノートに整理しておいてください。

教科書	基礎自動車工学、国土交通省自動車交通局監修、日本自動車整備振興会連合会 基礎自動車整備作業、国土交通省自動車交通局監修、日本自動車整備振興会連合会
参考書	
成績評価の基準	定期試験(70%)、課題(20%)、受講態度(10%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。必要と認める場合は、補習を行います。
備考	自動車技術コースの認定科目です。

授業科目名	ナンパリング PE-ATE102	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
ガソリンエンジン		必修	2	1	後期	高野 剛			
		関連するディプロマポリシー番号		2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4			
授業の概要									
自動車エンジンの主たる動力源であるガソリンエンジンの基礎技術・知識などを分かりやすく解説した上で、エンジンの本体構造、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電子制御装置の原理・機能および構造、燃料及び潤滑剤について体系的に学びます。									
授業の目的									
この講義では、自動車整備士として必要とされるガソリンエンジンの基本構造・機能に関する技術知識の習得を目的としています。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は講義形式で行います。授業の要所ごとに課題の提出・返却を行い、学習内容の到達度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	総論 1	外燃機関と内燃機関の基礎的な知識を理解し説明できる。			1	3			
2	総論 2	4サイクルエンジンの作動、エンジン性能、燃焼過程と排出ガスを理解し説明できる。			1	3			
3	エンジン本体 1	シリンダーブロック及びシリンダーヘッド、ピストンの構造と機能を理解し説明できる。			1	3			
4	エンジン本体 2	ピストンリング、コンロッドの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
5	エンジン本体 3	クランクシャフト、バルブ機構の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
6	エンジン本体 4	バルブクリアランスの必要性を理解し、可変バルブ機構の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
7	エンジン本体 5	シリンダ配列と点火順序及びバルブタイミングの関係を理解し説明ができる。			1	3			
8	潤滑装置	潤滑装置の役割を理解し、構造と機能の説明ができる。			1	3			
9	冷却装置	冷却装置の役割を理解し、構造と機能の説明ができる。			1	3			
10	燃料装置	燃料装置の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
11	電子制御装置 1	電子制御式燃料噴射装置の吸気系の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
12	電子制御装置 2	電子制御式燃料噴射装置の燃料系及び点火系の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
13	電子制御装置 3	電子制御式燃料噴射装置の制御系の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
14	吸・排気装置	吸・排気装置の役割を理解し、構造と機能の説明ができる。			1	3			
15	まとめ	ガソリンエンジンに関する構造と機能の技術知識を理解し説明ができる。			1	3			
事前学習	次回の学習範囲の予習として、テキストを読み、疑問点や質問についてまとめてください。								
事後学習	授業内容をノートに整理し、理解を深める復習を行ってください。								
教科書	ガソリンエンジン構造、国土交通省自動車交通局推薦、全国自動車大学校・専門学校協会 三級自動車ガソリンエンジン、国土交通省自動車交通局監修、日本自動車整備振興会連合会								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(70%)、課題(20%)、受講態度(10%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。必要と認める場合は、補習を行います。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
シャシ構造 I	PE-ATE104	必修	2	1	前期	鈴木 真人

授業の概要

自動車が走行するために必要な装置、動力伝達装置や懸架装置、舵取り装置、制動装置、走行装置などを組み合わせたものがシャシです。本講義ではこれらの装置の原理や役割、機能・構造について、三級自動車整備士資格に準じた内容で解説します。

授業の目的

自動車整備士として必要とされるシャシ構造に関する三級自動車整備士資格レベルの技術知識の習得を目的としています。なお、この講義は続く「シャシ構造 II」を学習するための基礎になります。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業は解説や板書を中心とした講義形式で行い、事後学習のための課題を配布します。

授業の最初に前回の学習内容の確認テストと解説を行い、学生各自の目標到達の確認を行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	クラッチ	クラッチの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。 クラッチの不具合について説明できる。	1	3	
2	マニュアルトランスミッション	マニュアルトランスミッションの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。変速比を理解し、トルク・回転数の計算ができる。	1	3	
3	オートマチックトランスミッション	トルクコンバータ、プラネタリギヤの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。プラネタリギヤの速度計算ができる。	1	3	
4	動力伝達シャフトとディファレンシャル	プロペラシャフト、ドライブシャフト、ファイナルギヤ、ディファレンシャルギヤの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。	1	3	
5	アクスルとサスペンション	車軸懸架式、独立懸架式サスペンションの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。	1	3	
6	スプリングとショックアブソーバ	サスペンションスプリングの種類と特徴、ショックアブソーバの構造を理解し、説明できる。	1	3	
7	ステアリング装置	ステアリング装置の操作機構、ギヤ機構、リンク機構の種類と構造を理解し、機能の説明ができる。	1	3	
8	パワーステアリング	パワーステアリング装置の構成、ロータリバルブの構造・機能を理解し、説明できる。	1	3	
9	ホイールとタイヤ	ホイールやタイヤの種類、機能と構造、異常現象について理解し、説明できる。タイヤの呼びから外径寸法の計算ができる。	1	3	
10	ホイールアライメント	キャンバやキャスター、SAI、トーなどのホイールアライメントの役割や特徴について説明できる。	1	3	
11	ドラムブレーキ	マスタシリンダ、ドラムブレーキの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。	1	3	
12	ディスクブレーキ	ディスクブレーキ、パーキングブレーキの構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。	1	3	
13	Pバルブと制動倍力装置	アンチロック装置、制動倍力装置の構造を理解し、各部名称や機能の説明ができる。	1	3	
14	フレームとボデー	フレーム、ボデーの構成を理解して説明できる。	1	3	
15	走行性能、乗り心地	走る、曲がる、止まる性能に加え、実験データ(新潟工科大の共同試験結果)を基に振動に関わる乗り心地について解説する。 走行性能を自動車諸元と走行性能線図を用いて説明できる。	3	1	シャシ構造 II 自動車実験実習

事前学習 事前に教科書を読み、予習プリントを解いて、授業内容や質問事項などを確認してください。

事後学習 教科書の読み直しやノート整理、課題の確認を行うことで理解を深め、次回の確認テストの準備を行ってください。

教科書	三級自動車シャシ、日本自動車整備振興会連合会 シャシ構造 I, シャシ構造 II, 全国自動車大学校・専門学校協会
参考書	
成績評価の基準	定期試験(70%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(15%)、確認テスト(15%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は課題などを用いて自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート・課題などを提出してもらうことがあります。
備考	自動車技術コースの認定科目です。

授業科目名	ナンパリング PE-ATE201	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
シャシ構造 II		必修	2	1	後期	高野 剛			
		関連するディプロマポリシー番号		2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4			
授業の概要									
自動車には、動力伝達装置、懸架装置、操舵装置、制動装置、走行装置などを組み合わせたものとしてシャシがあります。本講義では、「シャシ構造 I」に引き続き、これらの装置の原理や機能・構造について、二級自動車整備士資格の技術に準じた内容で解説します。									
授業の目的									
この講義では、「シャシ構造 I」で学習した内容を基礎として、二級自動車整備士として必要とされるシャシの基本構造に関する技術的な知識の習得を目的としています。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は講義形式で行います。授業の要所ごとに課題の提出・返却を行い、学習内容の到達度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	動力伝達装置 1	動力伝達装置の構成と機能・構造、クラッチ・スプリング特性を理解し説明ができる。			1	3			
2	動力伝達装置 2	トルクコンバータの機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
3	動力伝達装置 3	プラネタリ・ギヤの機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
4	動力伝達装置 4	オートマチックトランスミッション(AT)の制御及び自動変速線図を理解し説明ができる。			1	3			
5	動力伝達装置 5	電子制御式オートマチックトランスミッション(AT)の機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
6	動力伝達装置 6	無段変速機(CVT)の機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
7	動力伝達装置 7	ディファレンシャル及び差動制限装置(LSD)の機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
8	動力伝達装置 8	四輪駆動装置(4WD)の機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
9	懸架装置 1	電子制御式サスペンション(アクティブサスペンション)の機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
10	懸架装置 2	エアサスペンションの機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
11	操舵装置	電動パワーステアリング(EPS), 電子制御式パワーステアリングの機能と構造を理解し説明ができる。			1	3			
12	制動装置 1	複合ブレーキの機能と構造を理解し説明できる。			1	3			
13	制動装置 2	エアブレーキ, 補助ブレーキの機能と構造を理解し説明できる。			1	3			
14	制動装置 3	四輪アンチロックブレーキ装置(ABS)の機能と構造を理解し説明できる。			1	3			
15	自動車の性能	自動車の動力性能, 走行性能線図を理解し説明ができる。			1	3			
事前学習	次回の学習内容範囲の予習として、テキストを読んで質問事項などを整理してください。								
事後学習	授業内容をノートに整理し、理解を深める復習を行ってください。								
教科書	シャシ構造 I 及び II, 国土交通省自動車交通局推薦, 全国自動車大学校・専門学校協会 三級自動車シャシ, 国土交通省自動車交通局監修, 日本自動車整備振興会連合会								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(70%), 課題(20%), 受講態度(10%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。必要と認める場合は、補習を行います。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
故障探究・整備 I		必修	2	1	後期	近藤 克哉*			
		関連するディプロマポリシー番号			関連するカリキュラムポリシー番号				
授業の概要									
自動車は、走行距離や時間の経過に伴い摩耗・劣化する部品が使用されています。これらは点検・整備を定期的に励行することで性能を維持できます。故障探究・整備 I では、実際の整備工場において作業を行う頻度の高い点検整備項目について、点検方法、整備作業手順及び故障探究の進め方を具体的に解説します。									
授業の目的									
基本的な点検・整備知識を身に付けるとともに、不具合現象の正確な把握及び故障原因を探究するための必要な知識を理解することを目的とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は解説や板書を中心とした講義形式で行います。 毎回の授業終了後に小テストを行います。次回授業時に返却し、学生各自の目標到達度の確認を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	授業の進め方と評価、故障探究と整備の必要性	故障探究と整備の必要性を理解し説明できる。			2	2			
2	日常点検項目	ブレーキ液の量、バッテリ液の量について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
3		冷却水の量、エンジンオイルの量について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
4		灯火類の点灯、ワイパ拭取状態等について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
5	1年定期点検項目 (エンジンルーム)	エンジン補機類駆動用ベルトについて、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
6					2	2			
7		スパークプラグの状態、点火時期について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
8					2	2			
9		デスピキヤップの状態、エアクリーナについて、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
10	1年定期点検項目 (室内)	ペダルの遊び、床板とのすき間について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
11	1年定期点検項目 (足廻り)	ディスクブレーキやドラムブレーキについて、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
12					2	2			
13		ブレーキパッドの摩耗について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
14	1年定期点検項目 (下廻り)	エンジンのオイル漏れ等について、点検方法や整備作業手順及び故障探究の進め方、注意事項を理解し説明できる。			2	2			
15	復習及びまとめ	今までの内容の理解度を確認します。			2	2			
事前学習	事前に資料を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。								
事後学習	資料の読み直しやノート整理、例題・問題の確認を行うことで理解を深め、次回の確認課題の準備を行ってください。								
教科書	資料を配布します。								
参考書	自動車定期点検整備の手引き、日本自動車整備振興会連合会								
成績評価の基準	定期試験(60%)、小テスト・レポートなど(20%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合は、レポート課題を提出してもらうことがあります。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。					*自動車整備の実務経験あり			

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
自動車実験・実習 A	PE-ATE303	必修	3	1	前期	高野 剛／他

授業の概要

自動車とそのユニット装置及びそれらのシミュレータなどの教材を使用し、自動車の構造や各部位の作動原理、整備作業の基礎を学ぶための実験・実習を行います。

授業の目的

自動車整備の基礎作業の実験・実習を通じて、整備作業の基礎的技術知識及び基本的技能を修得することを目的としています。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

進め方は、グループ学習をする班を編成し、下記のような実習内容ごとに分けた単元(セクション)を班ごとにローテーションしながら実習を行います。実習単元ごとにレポートを提出、その後レポートに対する評価をフィードバックし、実習内容の理解度の確認を行います。

単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後	
オリエンテーション	班ごとのローテーションによる実験・実習の進め方と成績評価の基準を理解する。			
燃料システム I (近藤 克哉*)	機械式と電子制御式の燃料装置の相違点と原理を理解する。	1	1	ガソリンエンジン
		1	1	
エンジンシステム I (北原 成倫)	エンジンの部品名、基本構造と機能を理解し、分解組立・計測作業ができる。	1	1	ガソリンエンジン
		1	1	
電装システム I (川崎 信隆)	基本回路を理解し、サーキットテスタの取扱い及び基礎計測作業ができる。	1	1	基礎電気工学
		1	1	
動力伝達装置 I (渡部 賢*)	分解組立作業を通じて、部品名及び基本構造と作動が理解できる。	1	1	シャシ構造 I
		1	1	
走行制動装置 I (高橋 和夫*)	基本構造と作動及び保安上の重要性を理解し、分解組立及び調整ができる。	1	1	シャシ構造 I
		1	1	
基礎自動車 (市野瀬 和正*)	日常点検ができ、自動車の基本構造を理解する。	1	1	基礎自動車工学
		1	1	

事前学習	実験・実習指導書をもとに、各装置の役割、目的を事前に調べてまとめておいてください。
------	---

事後学習	毎回の実習報告書の提出と、単元(セクション)終了ごとに内容をまとめ、担当教員の指示に従ってレポートを提出してください。
------	---

教科書	単元(セクション)ごとに自動車実験・実習指導書を配布します。
-----	--------------------------------

参考書	適宜、指示します。
-----	-----------

成績評価の基準	レポート(20%)、実習態度・積極的参加及び試験(80%)により、総合的に評価します。
---------	---

欠席の取り扱い	90%以上の出席を必要とします。必要と認める場合は、補充実習を行います。
---------	--------------------------------------

備考	自動車技術コースの認定科目です。 *自動車整備の実務経験あり
----	-----------------------------------

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
自動車実験・実習 B	PE-ATE304	必修	3	1	後期	高野 剛／他

授業の概要

自動車とそのユニット装置及びそれらのシミュレータなどの教材を使用し、自動車の構造や各部位の作動原理、整備作業の基礎を学ぶための実験・実習を行います。

授業の目的

自動車整備の基礎作業の実験・実習を通じて、整備作業の基礎的技術知識及び基本的技能を修得することを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

進め方は、グループ学習をする班を編成し、下記のような実習内容ごとに分けた単元(セクション)を班ごとにローテーションしながら実習を行います。実習単元ごとにレポートを提出、その後レポートに対する評価をフィードバックし、実習内容の理解度の確認を行います。

単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後	
オリエンテーション	班ごとのローテーションによる実験・実習の進め方と成績評価の基準を理解する。			
燃料システムⅡ (高橋 和夫*)	燃料装置の基本作動を理解し、点検及び調整作業ができる。	1	1	ジーゼルエンジン
		1	1	
エンジンシステムⅡ (渡部 賢*)	ジーゼルエンジンの基本的な点検及び調整作業ができる。	1	1	ジーゼルエンジン
		1	1	
電装システムⅡ (川崎 信隆)	始動、充電及び灯火装置の構造と作動を理解し、調整作業ができる。	1	1	自動車電装 I
		1	1	
走行制動装置Ⅱ・工作 (坂井 淳)	走行装置の基本構造と作動を理解し、分解組立及び調整作業ができる。 基本的な加工方法を理解し、安全に配慮した作業ができる。	1	1	シャシ構造 I 基礎自動車工学
		1	1	
点検整備Ⅰ (近藤 克哉*)	ハイブリッド車の取扱い、1年定期点検の作業項目を理解し、作業ができる。	1	1	故障探査・整備 I
		1	1	
シャシ整備 (北原 成倫)	車両によるサスペンション脱着作業等ができる、作業後の車両確認作業ができる。	1	1	シャシ構造 I
		1	1	

事前学習 実験・実習指導書をもとに、各装置の役割、目的を事前に調べ、まとめておいてください。

事後学習 毎回の実習報告書の提出と、単元(セクション)終了ごとに内容をまとめ、担当教員の指示に従ってレポートを提出してください。

教科書	単元(セクション)ごとに自動車実験・実習指導書を配布します。
参考書	適宜、指示します。
成績評価の基準	レポート(20%)、実習態度・積極的参加及び試験(80%)により、総合的に評価します。
欠席の取り扱い	90%以上の出席を必要とします。必要と認める場合は、補充実習を行います。
備考	自動車技術コースの認定科目です。 *自動車整備の実務経験あり

授業科目名	ナンバリング PE-ATE801	必・選	単位数 1	学年 1	学期 前期	担当教員名 高野 剛
自動車工学入門		選択				
関連するディプロマポリシー番号				1,2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2
授業の概要						
自動車の基本構成を理解するために、自動車を構成する動力源(パワーユニット), 動力伝達装置(ドライブトレーン), 懸架装置(アクスル&サスペンション), 操舵装置(ステアリングシステム), 制動装置(ブレーキシステム), 走行装置(タイヤ&ホイール), 車体(フレーム&ボデー)に関する基礎的な知識について学習します。自動車を構成する各装置の役割と基本構造について説明します。						
授業の目的						
この講義では、自動車の基礎的な知識を深めるために、自動車の基本構造と機能に関する知識の習得を目的としています。						
授業の進め方と学習成果のフィードバック						
授業は講義形式で行います。授業の要所ごとに課題または小テストの提出・返却を行い、学生各自の学習理解度の確認を行います。						
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前	関連科目 (短縮名／項目名)
1	パワーユニット 1	エンジンをはじめとする自動車用の動力源(パワーユニット)の種類を理解する。			1	3
2	パワーユニット 2	エンジンのサイクルと基本構造を理解する。			1	3
3	ドライブトレーン 1	動力源から駆動輪までの動力伝達装置(ドライブトレーン)の役割と構成を理解する。			1	3
4	ドライブトレーン 2	動力伝達装置(ドライブトレーン)のトランスミッションの種類と基本構造を理解する。			1	3
5	ドライブトレーン 3	動力伝達装置(ドライブトレーン)のプロペラシャフト, ファインアルギヤ, ディファレンシャルの基本構造を理解する。			1	3
6	アクスル&サスペンション 1	懸架装置(アクスル&サスペンション)の役割と構成を理解する。			1	3
7	アクスル&サスペンション 2	懸架装置(アクスル&サスペンション)の種類と基本構造を理解する。			1	3
8	ステアリングシステム 1	操舵装置(ステアリングシステム)の役割と構成を理解する。			1	3
9	ステアリングシステム 2	操舵装置(ステアリングシステム)の種類と基本構造を理解する。			1	3
10	ブレーキシステム 1	制動装置(ブレーキシステム)の役割と構成を理解する。			1	3
11	ブレーキシステム 2	制動装置(ブレーキシステム)の種類と基本構造を理解する。			1	3
12	タイヤ&ホイール	走行装置(タイヤ&ホイール)の役割と基本構造を理解する。			1	3
13	フレーム&ボデー	車体(フレーム&ボデー)の役割と基本構造を理解する。			1	3
14	自動車の種類	自動車の定義と種類を理解する。			1	3
15	まとめ	自動車の基礎的な知識として基本構造と機能に関する知識を習得する。			1	3
事前学習	次回の学習内容範囲の予習として、配布資料を読んでおいてください。					
事後学習	授業内容をノートに整理し、特に専門用語の意味など、理解を深める復習を行ってください。					
教科書	資料プリントを講義にて配布します。					
参考書						
成績評価の基準	定期試験(50%), 課題または小テスト(35%), 授業態度(15%)を総合的に評価します。					
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。必要と認める場合は、補習を行います。					
備考	この単位は卒業要件に含まれません。					

授業科目名	ナンバリング PE-ATE802	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車の力学入門		選択	1	1	前期	鈴木 真人			
		関連するディプロマポリシー番号		1,2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2			
授業の概要									
自動車の基本性能である「走る」、「曲がる」、「止まる」は力学の法則により決定されます。この授業では自動車が「走る」、「曲がる」、「止まる」ために必要な力学の法則について解説しながら、具体的な自動車の諸元に基づいた力学問題を解くことでその理解を深めます。この科目は留学生のための日本語学習支援科目です。									
授業の目的									
この科目的履修を通して、日本語による力学の表現になれ、自動車に関わる力学の基礎的内容を理解し、具体的な問題を解いて、日本語で説明できるようになることを目的とします。									
授業の進め方									
授業は解説や板書を中心とした講義形式で行います。 授業の要所で学習内容の課題(確認テスト)と解説を行い、各学生の目標到達度の確認を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	速度と回転速度	速さを理解し、その意味を説明できる。 等速運動の計算ができる。			1	1			
2		エンジンの回転速度、変速比から自動車の速度が計算できる。			1	1			
3	加速度と等加速度運動	加速度を理解し、その意味を説明できる。 等加速度運動の計算ができる。			1	1			
4					1	1			
5	力と運動の法則	運動の法則を理解し、説明できる。 自動車の加速度(減速度)から駆動力、制動力の計算ができる。			1	1			
6					1	1			
7	力とベクトル	ベクトルの意味を理解し、説明ができる。 力の合成と分解ができる。			1	1			
8	摩擦力	自動車にどのような摩擦力が作用するか説明できる。 摩擦力の計算ができる。			1	1			
9	力のモーメント・トルク	スパナ、レンチのトルク計算、タイヤの駆動トルク・駆動力の計算ができる。 モーメント通り合いから軸重計算ができる。			1	1			
10	回転運動	回転速度から角速度が計算できる。 等速円運動を理解し、説明ができる。			1	1			
11		コーナリングフォースが計算できる。			1	1			
12	仕事とエネルギー	仕事量、仕事率の計算ができる。 自動車の所要馬力の計算ができる。			1	1			
13		運動エネルギー、位置エネルギーの計算ができる。			1	1			
14	圧力と応力	圧力について説明ができる。 パスカルの原理を用いてブレーキ装置の計算ができる。			1	1			
15		応力について説明ができる。 応力の計算ができる。			1	1			
事前学習	事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。								
事後学習	教科書の読み直しやノート整理、例題・問題の確認を行うことで理解を深め、次回の確認課題の準備を行ってください。								
教科書	基礎自動車工学、日本自動車整備振興会連合会								
参考書	詳解 工業力学、入江敏博 著、オーム社								
成績評価の基準	定期試験(60%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(20%)、課題(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート課題を提出してもらうことがあります。								
備考	この単位は卒業要件に含まれません。								

授業科目名	ナンバリング PE-ELE101	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
電気電子工学 I		必修	2	1	前期	斎藤 公世*			
		関連するディプロマポリシー番号		2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	2, 4			
授業の概要									
様々な製品で行われている電子制御は、対象物を動作させるメカニズム、駆動力となる電気機器、制御を行う電子回路やプログラムを有機的に結びつけ、対象物を思い通りにコントロールするものですが、身近にある家電製品から、自動車、工場で稼働している産業用設備に至るまで、幅広く採用されています。電気電子工学 I では、電気機器、電子回路を理解するために必要な知識として、電気回路理論、半導体素子、電磁気理論、電気機器の動作原理等の基礎を分かりやすく解説します。									
授業の目的									
本授業では、電気・磁気の理論、半導体素子の動作理論、電気・電子回路の基礎、電動機・発電機の動作原理等を学習し、様々な製品で使用されている電子制御の中で、電気機器・電子回路がどのような原理で動作しているのかを理解することで、自動車や産業用設備の整備に必要な基礎知識を修得することを目的とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は講義形式で行います。毎回課題を出し、到達度を確認し、授業を進めます。返却された課題の結果に基づき自身の学習行動の見直しを行ってください。グループ学習を行い、課題に対するグループ討議、結果発表することでも、学習成果を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	電気回路の基礎1	電気の性質を理解し、説明することができる。 電気抵抗の特性を理解し、説明することができる。			4	自動車電装 I (電気の基礎)			
2	電気回路の基礎2	回路計算に必要な、指数表示、単位を理解し、計算できる。 オームの法則を理解し、回路計算ができる。			1.5				
3	電気回路の基礎3	キルヒホッフの法則を理解し、抵抗の直列・並列回路の計算ができる。 電力、電力量の計算ができる。			2.5				
4	電気回路の基礎4	コンデンサの特性を理解し、説明することができる。 コンデンサの直列・並列回路の計算ができる。			2.5				
5	半導体素子の基礎1	半導体の性質を理解し、各種ダイオードの特性を説明できる。 ダイオードを使用した回路の動作を説明できる。			1.5	自動車電装 I (電気の基礎、半導体)			
6	半導体素子の基礎2	トランジスタの性質を理解し、トランジスタの動作を説明できる。 トランジスタを使用した回路の動作を説明できる。			2.5				
7	半導体素子の基礎3	半導体センサの性質を理解し、センサの動作を説明できる。 論理回路の動作を理解し、説明できる。			2.5				
8	グループ学習1	電気回路、半導体素子に関する課題について、グループ討議を行った後に、担当課題を調整し、その内容を発表できる。			3				
9	電磁気の基礎1	磁気の性質、磁石の性質を理解し、説明できる。 電流と磁界の関係(右ネジの法則)を理解し、説明できる。			1.5	自動車電装 I (始動、充電装置)			
10	電磁気の基礎2	電磁誘導作用、フレミングの法則を理解し、説明できる。 自己誘導作用、相互誘導作用を理解し、説明できる。			2.5				
11	電気機器の基礎1	電流と磁界の関係を応用したサーチットテストの原理を理解し、使用方法を説明できる。			1.5	自動車実験・実習 I (電装システム I)			
12	電気機器の基礎2	電流と磁界と力の関係を理解し、直流モータ、直流発電機、交流発電機の動作原理を説明できる。			2.5				
13	交流回路の基礎	交流回路の性質を理解し、説明できる。 三相交流の性質を理解し、説明できる。			1.5	自動車電装 I (始動、充電装置)			
14	グループ学習2	電磁気、モータ、発電機に関する課題について、グループ討議を行った後に、担当課題を調整し、その内容を発表できる。			1				
15	電気電子工学 I まとめ	電気電子工学 I で学習した原理、法則を理解し、電気回路計算、半導体素子、電気機器の動作を説明できる。			4				
事前学習	事前に教科書の単元に関わる内容を読み、不明な箇所や質問事項などを確認してください。								
事後学習	毎回課題が出されるので、事後学習で教科書や参考書で課題について調べ、翌週の授業時に提出して下さい。 授業で示されたキーワード、課題の内容をノートにまとめる習慣を付けて下さい。								
教科書	電装品構造、全国自動車大学校・整備専門学校協会								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(60%)、課題の提出状況(20%)、グループ学習での積極性(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した場合は、その回の課題を提出してもらうことがあります。								
備考	この科目は自動車技術コースの認定科目です。 機械保全技能検定と電気機器組立技能検定の関連科目です。 *電子回路設計、モータ設計の実務経験あり								

授業科目名	ナンバリング PE-ELE201	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
電気電子工学Ⅱ		必修	2	1	後期	斎藤 公世*			
		関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	2, 4				
授業の概要									
様々な製品で行われている電子制御は、対象物を動作させるメカニズム、駆動力となる電気機器、制御を行う電子回路やプログラムを有機的に結びつけ、対象物を思い通りにコントロールするのですが、身近にある家電製品から、自動車、工場で稼働している産業用設備に至るまで、幅広く採用されています。電気電子工学Ⅱでは、電気電子工学Ⅰよりも更に詳しく電気機器、電子回路を理解するために必要な知識として、モータの動作原理と制御方法、トランジスタの応用回路、パワーエレクトロニクスの基礎を分かりやすく解説します。									
授業の目的									
本授業では、モータの動作原理と制御方法、モータの構成部品、トランジスタの応用回路、パワーエレクトロニクス等について学習し、様々な製品で使用されている電子制御の中で、電気機器・電子回路がどのような原理で動作しているのかを深く理解することで、自動車や産業用設備の整備に必要な知識を修得することを目的とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は講義形式で行います。毎回課題を出し、到達度を確認し、授業を進めます。返却された課題の結果に基づき自身の学習行動の見直しを行ってください。アクティブラーニングとしてグループ学習を行い、討議・発表することでも、学習成果を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	誘導モータ1	誘導モータの動作原理と回転磁界について理解し、モータの動作を説明することができる。			4.0	HV・EV・FCV (モータ技術)			
2	誘導モータ2	かご型回転子の種類と特性を理解し、特性を説明できる。 単相モータの回転磁界発生原理を理解し、動作を説明できる。			1.5				
3	同期モータ	同期モータの特性を理解し、動作と特徴を説明することができる。 始動方法の種類を理解し、動作を説明することができる。			2.5				
4	モータ制御1	直流モータ、交流モータの各種制御方法を理解し、動作と特徴を説明することができる。			1.5	HV・EV・FCV (インバータ技術)			
5	モータ制御2	制御システムの基本構成を理解し、動作と特徴を説明できる。 サーボモータの制御方法を理解し、動作を説明することができる。			1.5				
6	モータ構成部品	モータ構成部品、材料特性、機能を理解し、説明することができる。 部品の保守・点検方法を理解し、説明することができる。			1.5	2.5	保全工学 (電気機器の点検)		
7	グループ学習1	誘導モータ、モータ制御回路に関する課題について、グループ討議を行った後に、その内容を発表できる。			1.5	2.5			
8	トランジスタ回路1	トランジスタ、MOSFETの基本構造を理解し、動作と特徴を説明することができる。			3.0	1.0			
9	トランジスタ回路2	トランジスタの増幅回路について理解し、動作と特徴を説明することができる。			1.5	2.5			
10	トランジスタ回路3	トランジスタの帰還回路、発振回路について理解し、動作を説明することができる。			1.5	2.5			
11	トランジスタ回路4	トランジスタの変調・復調回路、電源回路について理解し、動作を説明することができる。電子放出について説明することができる。			1.5	2.5			
12	パワーエレクトロニクス1	パワーデバイスの基本構造を理解し、動作と特徴を説明できる。 インバータ回路について理解し、動作を説明できる。			1.5	2.5	HV・EV・FCV (インバータ技術)		
13	パワーエレクトロニクス2	パワーエレクトロニクスの応用分野について理解し、説明することができる。			1.5	2.5			
14	グループ学習2	トランジスタ回路、パワーエレクトロニクスに関する課題について、グループ討議を行った後に、その内容を発表できる。			3.0	1.0			
15	電気電子工学Ⅱまとめ	電気電子工学Ⅱで学習した原理、法則を理解し、誘導モータ、トランジスタ回路、パワーエレクトロニクスの動作、内容を説明できる。			4.0				
事前学習	事前に教科書の単元に関わる内容を読み、不明な箇所や質問事項などを確認してください。								
事後学習	毎回、課題が出されるので、事後学習で教科書や参考書で課題について調べ、翌週の授業時に提出して下さい。 授業で示されたキーワード、課題の内容をノートにまとめる習慣を付けて下さい。								
教科書	電気機器概論、深尾 正、実教出版								
参考書	よくわかる電子回路の基礎、堀桂太郎、電気書院								
成績評価の基準	定期試験(60%)、課題の提出状況(20%)、グループ学習での積極性(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した場合は、その回の課題を提出してもらうことがあります。								
備考	機械保全技能検定と電気機器組立技能検定の関連科目です。 *電子回路設計・モータ設計の実務経験あり								

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名				
電子制御概論	PE-ELE102	必修	2	1	後期	脇田喜之／佐藤 孝				
		関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	2, 4					
授業の概要										
電子制御の技術は、自動車に利用され、安定した運転、安全性の確保、地球環境への配慮など、自動車の改良に役立っています。また、身の回りではマイコン家電製品で生活を便利にし、縁の下では製造工場の自動機械で生活品を安価に生産し、社会を豊かにしています。この授業では、これらに用いられている電子制御の技術を、網羅的に学習します。										
授業の目的										
この授業では、制御システムをフィードバック制御とシーケンス制御に分けて学習します。フィードバック制御では、システムの分析と改良の方法について学習します。シーケンス制御では、システム構成の読み解き方と設計方法について学習します。また、制御の実例として、自動車の電子制御について詳しく学習します。										
授業の進め方と学習成果のフィードバック										
授業では、教科書や配布資料を使い、解説を行います。その後に、学習内容に関する演習問題の解答に取り組み、学習内容の到達度を確認します。										
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)				
1	制御システムの概要	制御システムの分類、センサ、アクチュエータ、制御装置の役割を理解し説明できる。			事前 4 事後					
2	フィードバック制御 ①制御システムの構成とブロック線図 ②伝達関数の計算 ③性能評価 ④性能改善	ブロック線図を用いたフィードバック制御システムの図的表現について理解し、説明することができる。			2 2	ガソリンエンジン 自動車電装 I				
3		伝達関数の重要性と導出方法について理解し、実際にブロック線図から伝達関数を導出することができる。			2 2					
4		伝達関数から過渡応答特性の式とグラフの導出方法について理解し、得られたグラフから性能を評価することができる。			2 2					
5		グラフから得られた性能に対して、性能を改善する方法を理解し、説明することができる。			2 2					
6		ガソリンエンジンで行われる電子制御の基本的な考え方について、理解し説明することができる。			2 2					
7	自動車の電子制御 ①ガソリンエンジンの電子制御 ②センサ・アクチュエータの種類と信号形式 ③アナログ信号電圧の計算 ④デジタル信号電圧の計算 ⑤燃料噴射制御 ⑥点火時期制御	ガソリンエンジンの電子制御に関わるセンサとアクチュエータについて、理解し説明することができる。			2 2	ガソリンエンジン 自動車電装 I				
8		センサやアクチュエータに関わる信号形式について、理解し説明することができる。			2 2					
9		アナログ信号の入力回路における、動作原理を理解し説明できる。また、信号電圧やセンサ推定量を計算することができる。			2 2					
10		デジタル信号の入出力回路における、動作原理を理解し説明できる。また、出力回路のパルス信号の平均電圧を計算できる。			2 2					
11		エンジンの燃料噴射制御について、その目的、構成、制御の方法を理解し、説明することができる。			2 2					
12		エンジンの点火時期制御について、その目的、構成、制御の方法を理解し、説明することができる。			2 2					
13	シーケンス制御 ①シーケンス制御の概要 ②組合せ論理回路 ③自己保持回路と順序制御回路	シーケンス制御の用途と事例、ラダー回路の構成と動作について理解し、説明することができる。			2 2	電子制御工学 I, II 基礎制御実習 I, II 電子制御実験・実習 A				
14		組合せ論理回路の種類、動作原理について、理解し説明することができる。			2 2					
15		自己保持回路と順序制御回路の動作原理について、理解し説明することができる。			2 2					
事前学習	次回の授業範囲の教科書や配布資料を読み、特に、図は見るだけでなく書き写すなどの学習を行って下さい。									
事後学習	ノートを整理するだけでなく、ノートを見ずに演習問題を再度解答することにより、理解を深めてください。									
教科書	「自動車の電子制御」の単元では、以下の二冊を教科書に使用します。その他の単元では、資料を配布します。 電子制御を理解するポイント、利根英二、整研出版社 三級自動車ガソリン・エンジン、日本自動車整備振興会連合会									
参考書	図解入門よくわかる機械制御の基本とメカニズム、城井田勝仁、秀和システム									
成績評価の基準	授業態度(20%)、演習問題(20%)、定期試験(60%)を総合評価します。									
欠席の取り扱い	欠席した授業は、自習によるノート作成と演習問題の解答を提出してもらいます。									
備考										

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車電装 I	PE-ELE103	必修	2	1	後期	脇田 喜之			
		関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	2, 4				
授業の概要									
自動車用電装品とは自動車に用いられる電気部品のこと、特にエンジン電装品とシャシ電装品に大別することができます。本講義では、エンジン電装品としてバッテリ、始動装置、点火装置、充電装置について学習します。それぞれの装置に関して、電装品を正しく取り扱う為の基礎的な知識として、機能、構造、回路、点検方法について解説を行います。									
授業の目的									
エンジン電装品であるバッテリ、始動装置、点火装置、充電装置について、エンジンを機能させるためのそれぞれの役割を理解し、装置の機能、構造、作動、点検方法等について理解し、説明できるようになることが目的です。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業では教科書を中心に解説します。準備学習で宿題問題を解き、事後学習で自己採点を行い、自主的に学習します、単元終了の翌週は単元試験を実施し、学習内容の到達度を確認します。また、宿題問題やノートを提出し、自己学習の状況もチェックします。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	バッテリ	バッテリの材料、構造、化学反応について理解し、説明することができる。			2 事前	2 事後			
2	①構造と化学反応 ②比重、充電率の計算 ③充電方法、点検整備	バッテリの性能評価法について理解し、容量、放電率、起電力を計算することができる。			2 事前	2 事後			
3		バッテリの各種充電方法を理解し、適切な充電時間を計算できる。バッテリの点検整備の方法を理解し説明できる。			2 事前	2 事後			
4	始動装置	始動装置の構造と作動、三段階の作用、電流の経路について理解し、説明することができる。			2 事前	2 事後			
5	①構造、作動 ②モータ部、出力特性 ③マグネットスイッチ、動力伝達機構	始動装置のモータ部の構造、出力特性について理解し、グラフより数値を読み取り、出力や効率を計算できる。			2 事前	2 事後			
6		マグネットスイッチおよび動力伝達機構の構造、作動、点検方法について理解し、説明することができる。			2 事前	2 事後			
7	点火装置	点火装置に求められる性質を理解し、説明できる。点火回路の構成部品の役割、作動を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
8	①基本構造、作動 ②高電圧の発生原理 ③トランジスタ式点火装置 ④マイコン式点火装置	高電圧の発生原理、一次電流と二次電圧の波形を理解し、説明することができる。二次電圧を計算できる。			2 事前	2 事後			
9		トランジスタ式点火装置の構造、閉角度制御、定電流制御の役割を理解し、説明することができる。波形から閉角度を計算できる。			2 事前	2 事後			
10		マイコン式点火装置の構造、作動、各種センサ、点火時期制御について理解し説明することができる。			2 事前	2 事後			
11	充電装置	充電装置の構造、作動について理解し、説明できる。三相全波整流回路の作動と電流の経路を図解できる。			2 事前	2 事後			
12	①三相全波整流回路 ②中性点ダイオード ③ボルテージレギュレータ	充電装置のオルタネータ部の構造、結線法、中性点ダイオード付オルタネータの作動について理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
13		充電装置のボルテージレギュレータの構造、作動について理解し、説明することができる。			2 事前	2 事後			
14	スパークプラグ	スパークプラグの構造、熱価、自己清浄作用、過早着火について理解し、説明することができる。			2 事前	2 事後			
15	電気電子工学の復習	オームの法則、合成抵抗や電力の計算、電磁誘導作用、モータと発電機、ダイオード、トランジスタ、センサを理解し説明できる。			2 事前	2 事後			
事前学習	宿題問題が事前配布の場合、教科書を参考に解答し、分かるところと分からぬところを仕分けしてください。								
事後学習	事前学習で未解答の問題を授業でチェックし、宿題問題を完成して下さい。その後、模範解答を見て自己採点してください。								
教科書	電装品構造、全国自動車大学校・整備専門学校協会								
参考書	三級自動車ガソリン・エンジン、日本自動車整備振興会連合会								
成績評価の基準	授業態度等(10%)、ノート・宿題問題(10%)、単元試験(40%)、定期試験(40%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席をした場合は、宿題問題の答案作りと自習によるノート作成を行い、単元試験時に提出してもらいます。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-MEE101	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
力学の基礎と機械のしくみ		必修	2	1	後期	鈴木 真人
		関連するディプロマポリシー番号		1,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4
授業の概要						
自動車のエンジン、トランスミッション、サスペンション、ステアリング装置など、自動車を構成する主要な装置には部品同士が相対的に運動することでその運動や力を伝達するしくみがあります。なぜ、そのようなしくみを必要とするのかは機構学を学ぶことで理解されます。この講義の前半では機械を理解するのに必要な力や運動の基礎について、後半では機械の成り立ちやしくみに関する機構学について解説します。						
授業の目的						
この講義では機械の概念および必要な力学の基礎事項について理解し、機械のしくみ、機構学に関する基礎知識を習得することを目的とします。						
授業の進め方と学習成果のフィードバック						
授業は解説や板書を中心とした講義形式で行います。						
授業の最初に前回の学習内容の課題(確認テスト)と解説を行い、学生各自の目標到達度の確認を行います。						
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前	関連科目 (短縮名／項目名)
1	機械	機械の定義を理解し説明できる。 機械に働く力の作用を理解し説明できる。			1.5	2.5
2	力の合成と分解	力の性質を理解し、力の合成と分解を作図および計算を用いて求めることができる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
3	力のモーメントと偶力	モーメントと偶力を理解し、その大きさを計算で求めることができる。レンチのトルク計算ができる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
4	力のつり合い	基本的なつり合い問題を解くことができる。 自動車の軸重問題を理解し計算することができる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
5	速度と加速度	速度と加速度の大きさを計算できる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
6	等加速度運動	等加速度運動の公式を利用した計算ができる。 自動車の制動距離や時間の計算ができる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
7	運動の法則	運動法則を説明できる。 運動方程式を用いた計算ができる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
8	回転運動	転がるタイヤの速度が計算できる。 旋回する自動車に働く遠心力を計算できる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
9	仕事と動力	機械がする仕事、動力を計算することができる。 自動車に必要な馬力を計算できる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
10	エネルギー	運動エネルギー、位置エネルギーの大きさを計算できる。 エネルギー保存の法則を説明し、計算に用いることができる。			1.5	2.5 物理学 シャシ構造
11	機構	瞬間中心を理解し、機構の運動を説明できる			1.5	2.5 シャシ構造
12	リンク機構	機構の自由度を計算できる。四節回転機構を理解し、説明できる。 エンジンのピストン速度を計算できる。			1.5	2.5 シャシ構造 エンジン
13	カム機構	カムの運動を理解し、変位線図および輪郭を作図できる。			1.5	2.5 エンジン
14	歯車	歯車のモジュール、ピッチを理解し、歯車の大きさを計算できる。 速度伝達比から中心間距離を求めることができる。			1.5	2.5 シャシ構造
15	遊星歯車機構	遊星歯車機構を理解し、速度計算ができる。			1.5	2.5 シャシ構造
事前学習	事前に教科書を読み、予習プリントを解き、授業内容や質問事項などを確認してください。					
事後学習	教科書の読み直しやノート整理、例題などの確認を行うことで理解を深め、次回の確認テストの準備を行ってください。					
教科書	機械要素入門1・2、林洋次 監修、実教出版					
参考書	詳解 工業力学、入江敏博 著、オーム社					
成績評価の基準	定期試験(70%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(15%)、課題(15%)を総合的に評価します。					
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は例題を解くなど自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート・課題を提出してもらうことがあります。					
備考	自動車技術コースの認定科目です。 関数電卓を必ず持参してください。					

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
機械製図	PE-MEE301	必修	1	1	前期	岡田 龍哉
		関連するディプロマポリシー番号		2	関連するカリキュラムポリシー番号	2

授業の概要

機械の製作は図面をもとに部品を加工して作られます。図面は立体的な部品の形状を平面に描いたものです。そこには形状と各部の寸法、加工の精度や加工方法など多くの情報が含まれています。図面の描き方には一定の規則があり、設計者の意図が加工者に正確に伝わるようにしています。この授業ではJISに基づく機械製図の基本的な事項について、作図演習を通して学びます。この授業で習得する機械製図に関する知識は、コンピュータを用いたCAD製図を行う際にも大切です。

授業の目的

課題図面を写図することによって、製図の規則など基本的な事項を確認しながら学びます。平面に描かれた図面から立体的な形状を想像できるようになるとともに、JISに基づく製図の規則を理解し、簡単な図面が規則に従って描けるようになることが目的です。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

各単元の最初に関連する製図の規則を解説します。その後、課題図面を描いて完成させる演習授業を行います。規則に従った製図が行われていない場合には、その箇所を作業時や課題図面の提出時に指摘して、学生各自の目標達成度の測定を行っていきます。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	投影法(1)	第三角法を理解して、正面図・平面図などの名称を用いて投影図を適正な配置にすることが説明できる。		1	
2	投影法(2)	基本的な立体図から三面図を描くことができる。描いた投影図を適正な名称を用いて説明できる。		1	
3	製図通則(1)	図面の管理や構成、線の種類や用途、使用できる文字などを理解し、図面で使用されている線の名称や用途などが説明できる。	1	1	自動車実験・実習 A
4	製図通則(2)	基本的な立体図から製図器具を正しく用いて投影図を描き、適切な線の使い分けをすることができる。		1	
5	寸法補助記号	基本的な立体図から製図器具を正しく用いて投影図を描き、寸法線、寸法数字とともに適切な寸法補助記号が記入できる。	1	1	
6	V ブロック(1)	写図をする図面から、記入されている寸法や精度、表面性状、加工方法が説明できる。方眼紙上でV ブロックを正しく写図できる。	1	1	機械材料と加工概論 (切削・研削加工)
7	V ブロック(2)	写図をするV ブロックの図面から、製図用紙にV ブロックを正しく写図できる。		1	
8	パッキン押え	写図をする図面から、記入されている寸法補助記号や補助的な投影法、加工法が説明できる。製図紙に正しく写図ができる。	1	1	
9	超硬センタ	写図をする図面から、テーパの意味と表記方法や勾配との違いが説明できる。指示された尺度を理解して、正しく写図ができる。	1	1	
10	両口板はさみゲージ	加工精度に伴う寸法公差やはめあいを理解し、はめあいの概要が説明できる。両口板はさみゲージが正しく写図できる。		1	計測・制御 (長さの測定)
11	ボルト・ナット(1)	ボルトやナットが、互換性から規格化された製品であることを理解する。写図をする図面からその規格が説明できる。	1	1	
12	ボルト・ナット(2)	図面を参考に課題の規格を確認し、ボルト・ナットを正しく写図できる。		1	
13	平歯車(1)	写図をする図面を参考に平歯車の製図法や幾何公差を理解して説明ができる。	1	1	シャン構造 I (舵取り装置ほか)
14	平歯車(2)	平歯車を正しく写図できる。		1	
15	まとめ	投影法、図面における線の形状や用途、ボルト・ナット、歯車などの規格に関する基礎的な規則を理解し、それらを説明できる。	1	1	
事前学習	事前に次回の課題を示します。授業の理解がより深くなるよう、教科書の関連する箇所や規格等の下読みと疑問点の整理をしてください。				
事後学習	授業ノートの整理と、提出課題の完成が必要です。所定の時間内に完成できない場合は宿題となります。				

教科書	新編 JIS 機械製図(第5版), 古澤武男, 森北出版
参考書	機械設計製図便覧, 津村利光・大西 清, 理工学社
成績評価の基準	定期試験(30%), 提出課題(50%), 授業への積極的参加状況(20%)を総合して評価します。
欠席の取り扱い	欠席した場合もその時間の課題の製図を行い、完成させて提出することが必要です。宿題となりますので、次回授業までに質問に来てください。
備考	自動車技術コースの認定科目です。製図用具は各自で準備してください。

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
経済学	LE-HMS002	選択	2	2	前期	渡辺 芳久			
		関連するディプロマポリシー番号		1	関連するカリキュラムポリシー番号	1			
授業の概要									
経済学と聞くと難しく硬いイメージがあると思います。しかし、経済は、スーパー・マーケットの店頭での価格の動きから、社会で話題となる賃金交渉、年金や税金の問題まで、多くの経済現象として、私たちの日常生活の様々なところで深くかかわっています。また、今や経済問題は、すべての人にとって無関心ではいられないものになっています。雇用から金融まで、景気から地球環境問題まで、多くの経済問題が私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。これらの現象や問題を、自分たちの身近にかかわる問題として考察していきます。									
授業の目的									
グローバリズムの流れの中での保護主義への逆流の動き、イギリスのEU離脱に由れるEU、貿易戦争、AI・IoT・ロボットに代表される第4次産業革命の到来、カーシェアリングやシェアハウス等のシェアエコノミーの広がりなど、世界経済はめまぐるしく変化しています。こういった世界情勢の中で、日本の経済はどうなっていくのか、自動車業界はどう対応していくのか、私たちの日常生活はどう変わっていくのか、経済学の考え方や理論を学びつつ、実際のトピックを取り上げ、経済に対する自分の考えを養い、深めてもらいます。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
講義形式を中心にしながら、テーマを定めてディスカッションやグループワークを行います。実際に起こっている事柄について、受講者自身の意見を出し合い、全員で考察し、発表を求めます。課題レポートの提出を適宜行い、学生各自の理解度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	講義概要・進め方の説明 経済学の概要説明	経済学が対象とするフィールドとその重要性を理解し、実際の世界でどのように利用されているか説明できる。			2	2			
2	経済学思想の変遷	経済学の思想はどのように発展してきたのかを説明できる。			2	2			
3	経済をマクロの視点で考える①	GDPを中心マクロ経済の概要を理解し、説明できる。			2	2			
4	経済をマクロの視点で考える②	インフレとデフレについて、その経済のメカニズムについて理解し説明できる。又、それらは人間の心理に大きく影響することを学ぶ。			2	2			
5	日本経済の変遷①	日本経済を変えた、石油ショックと変動相場制、レーガンomicsからプラザ合意までの歴史を理解し、説明できる。			2	2			
6	日本経済の変遷②	日本経済を変えた、バブルの形成と崩壊について学び、今日の日本経済について理解し、将来の日本経済について語れる。			2	2			
7	ミクロ経済の基本①_市場メカニズムを科学する	なぜ民営化、規制緩和をするのか、また、資源配分、需要・供給曲線とは何かを理解し、説明できる。			2	2			
8	ミクロ経済の基本②_市場メカニズムを解剖する	計画経済と市場の失敗について理解し、説明できる。			2	2			
9	公共部門の経済学①	公共部門の三つの機能、政府のお金の使い方について理解し、説明できる。			2	2			
10	公共部門の経済学②	財政政策の理論を理解し、政府財政の未来を考察し、説明できる。			2	2			
11	金融システムを理解する	貨幣と、経済を動かすマネーサプライ、金融政策の効能と資金の動きについて理解し、説明できる。			2	2			
12	人と組織の経済学①	市場と企業の関係を科学し、組織を経済学の視点で考察し、説明できる。			2	2			
13	人と組織の経済学②	労働市場の真実を学び、変わりゆく日本の産業について理解し、説明できる。			2	2			
14	国際経済を見る①	海外と日本経済の関係について万尾し、貿易の必要性について理解し説明できる。			2	2			
15	国際経済を見る②	為替レートについて学び、自由貿易と保護主義について考察し、理解を深め、説明できる。			2	2			
事前学習	予習プリントを配付するので、教科書で確認しながら解いてください。								
事後学習	毎回の授業で学生が到達すべき目標があるので、目標をキーワードに経済現象・事例をレポートにまとめてください。								
教科書	初めての経済学[上][下]、伊藤元重、日本経済新聞出版社								
参考書	経済と経営を楽しむためのストーリー(東洋経済新聞社)、学習院大学経済学部・経済経営研究所編								
成績評価の基準	定期試験 60%、課題への取組み 20%、授業への参加態度 20%の総合評価とします。								
欠席の取り扱い	欠席は事前連絡を基本とします。また、やむを得ない欠席には補習課題を出題します。								
備考	定期試験の問題は事前に受講者に告知した記述問題を出題する予定です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ATE103	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
ジーゼルエンジン		必修	2	2	前期	高野 剛			
		関連するディプロマポリシー番号	2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4				
授業の概要									
ガソリンエンジンに比べて熱効率の優れているジーゼルエンジンは、大型車のみならず乗用車用の動力源として用いられています。自動車用ジーゼルエンジンの基礎技術・知識などを分かりやすく解説した上で、エンジンの本体構造、潤滑装置、冷却装置、燃料噴射装置、吸排気装置の原理・機能および構造、燃料及び潤滑剤について体系的に学びます。									
授業の目的									
この講義では、自動車整備士として必要とされるジーゼルエンジンの基本構造・機能に関する技術知識の習得を目的としています。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は講義形式で行います。授業の要所ごとに課題の提出・返却を行い、学習内容の到達度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	総論	ジーゼルエンジンの作動、ジーゼルエンジンの燃焼過程と排出ガスを理解し説明できる。			1	3			
2	エンジン本体 1	シリンダーブロック及びシリンダーヘッド、ピストンの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
3	エンジン本体 2	ピストンリング、コンロッド、クランクシャフトの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
4	エンジン本体 3	バルブ機構の構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
5	潤滑・冷却装置	潤滑装置と冷却装置の役割を理解し構造と機能の説明ができる。			1	3			
6	燃料及び潤滑剤	軽油の基本性質及び潤滑剤の種類・特性を理解し説明ができる。			1	3			
7	燃料装置 1	機械式燃料噴射装置の各構成部品と機能を理解し説明ができる。			1	3			
8	燃料装置 2	列型インジェクションポンプの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
9	燃料装置 3	列型インジェクションポンプのガバナ、タイマの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
10	燃料装置 4	分配型インジェクションポンプの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
11	燃料装置 5	インジェクションノズル、電子制御式列型及び分配型インジェクションポンプの構造と機能を理解し説明ができる。			1	3			
12	燃料装置 6	コモンレール式高压燃料噴射装置の各構成部品と機能を理解し説明ができる。			1	3			
13	燃料装置 7	ユニットインジェクタ式高压燃料噴射装置の各構成部品と機能を理解し説明ができる。			1	3			
14	吸・排気装置	吸・排気装置の役割を理解し、構造と機能の説明ができる。			1	3			
15	まとめ	ジーゼルエンジンに関する構造と機能の技術知識を理解し説明ができる。			1	3			
事前学習	次回の学習範囲の予習として、テキストを読み、疑問点や質問についてまとめてください。								
事後学習	授業内容をノートに整理し、理解を深める復習を行ってください。								
教科書	ジーゼルエンジン構造、国土交通省自動車交通局推薦、全国自動車大学校・専門学校協会 三級自動車ジーゼルエンジン、国土交通省自動車交通局監修、日本自動車整備振興会連合会								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(70%)、課題(20%)、受講態度(10%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。必要と認める場合は、補習を行います。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンパリング PE-ATE105	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車検査・法規 I		必修	2	2	前期	渡部 賢*			
		関連するディプロマポリシー番号		2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4			
授業の概要									
自動車の安全確保、環境保全等自動車の維持に自動車整備の果たす役割は大きく、それに対応するため、自動車及び整備に関する法令として道路運送車両法が定められています。その内容とそれに関連する法規等を説明します。									
授業の目的									
自動車整備士の基本的な知識である道路運送車両法の総則、登録制度、点検・整備制度、保安基準及び整備事業等を学び、自動車の安全性確保や環境保全等自動車に関する法令制度を理解することが目的です。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
教科書を使用した講義形式で行い、単元ごとに例題の解答に取り組み、その解説を行うことにより目標到達度の確認をします。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	道路運送車両法の概要 自動車の種別	法体系と条文の構成、用語の意味、道路運送車両の種類と自動車の種別を理解する。			2 事前	2 事後			
2	自動車の登録と登録ファイル	登録の種類と対象自動車、登録が必要な事由を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
3	自動車登録番号標と車両番号標	登録番号標、車両番号標、封印の見方や取扱等を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
4	車台番号の打刻と臨時運行、回送運行	職権による車台番号の打刻理由及び自動車の臨時運行と回送運行の許可基準を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
5	自動車の保守管理責任と日常点検整備	自動車使用者の保守管理責任、日常点検の点検項目内容、点検時期を説明できる。			2 事前	2 事後			
6	定期点検整備と点検整備記録簿	定期点検整備の区分、対象自動車の技術基準及び点検整備記録簿の保存期間を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
7					2 事前	2 事後			
8	自動車の分解整備	自動車の分解整備に該当する整備内容を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
9	整備管理者の職務、整備士の技能検定	整備管理者の職務と資格、自動車整備士の技能検定制度を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
10	自動車検査及び自動車検査証、検査標章	自動車検査の種類と対象自動車、登録との関連及び検査証、検査標章の記載内容と有効期間等を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
11					2 事前	2 事後			
12	自動車分解整備事業	自動車分解整備事業の種類と対象自動車、事業者の義務、記録簿の管理について理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
13	自動車分解整備事業	認証基準や認定基準及び指定基準の内容を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
14	自動車検査員及び保安基準適合証	自動車検査員の要件及び保安基準適合証、保安基準適合標章等を理解し、説明できる。			2 事前	2 事後			
15	道路運送車両法のまとめ、ポイント整理	道路運送車両法の重要なポイントを整理し説明できる。			2 事前	2 事後			
事前学習	このシラバスを参考に、事前に関連法令に目を通し、疑問点などをまとめてください。								
事後学習	教科書を読み直し、理解を深める復習をしてください。								
教科書	自動車整備士の法令教本、公論出版								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(約 60%), 課題(約 20%), 授業態度(約 20%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した場合は、必要に応じて補習又は課題を提出してもらいます。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。 *自動車検査の実務経験あり								

授業科目名	ナンバリング PE-ATE106	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車検査・法規 II		必修	2	2	後期	渡部 賢*			
		関連するディプロマポリシー番号	2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4				
授業の概要									
自動車の安全確保と公害防止上の技術基準として「道路運送車両法の保安基準」(以下「保安基準」という。)が定められており、これに適合していることが運行要件になっています。また、この基準は整備、検査の扱いどころから、自動車整備士として理解しなければならない必須のものです。その保安基準について説明します。									
授業の目的									
「保安基準」、「保安基準の細目を定める告示」(以下「告示」という。)とともに「自動車検査独立行政法人審査事務規定」(以下「審査規定」という。)を理解し、自動車の点検整備にあたって保安基準の適合性を適確に判断できるようになることが目的です。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
教科書を使用した講義形式で行い、単元ごとに例題の解答に取り組み、その解説を行うことにより目標到達度の確認をします。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
回	単元名	学生が到達すべき目標			事前	事後			
1	保安基準の構成と概要	「保安基準」、「告示」及び「審査規定」の関係と読解及び摘用の仕方を理解できる。			2	2			
2	自動車の構造に関する基準	自動車の大きさ、最低地上高、車両総重量、安定性等の構造に関する基準を説明できる。			2	2			
3					2	2			
4	自動車の装置に関する基準	原動機、かじ取り装置、制動装置、座席ベルト、窓ガラス等乗車人員、歩行者、積載物品の保護のための装置に関する基準を説明できる。			2	2			
5					2	2			
6					2	2			
7	公害防止に関する基準	騒音防止及び一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物、粒子状物質、黒煙等の有害な排出ガス等の発散防止装置に関する基準を理解し、説明できる。			2	2			
8					2	2			
9	灯火及び反射器に関する基準	前照灯、前部霧灯、側方照射灯、車幅灯、番号灯、尾灯、後部反射器、制動灯、後退灯、方向指示器、非常点滅表示灯等の灯火・反射器に関する基準を説明できる。			2	2			
10					2	2			
11					2	2			
12	警報装置に関する基準	警音器、非常信号用具、盜難発生警報装置に関する基準について説明できる。			2	2			
13	運転者の視野の確保・交通状況の確認等の装置に関する基準	後写鏡、窓拭き器、速度計等に関する基準について理解し、説明できる。			2	2			
14	特殊な自動車の構造・装置に関する基準	緊急自動車、旅客自動車運送事業用自動車、危険物を運送する自動車等に関する基準について理解し、説明できる。			2	2			
15	これまでの学んだ構造・装置に関する基準について総合的に要点を解説	「保安基準」等について、特に自動車整備に密接に関係する重要なポイントを総合的に理解し、説明できる。			2	2			
事前学習	このシラバスを参考に、事前に関連法令に目を通し、疑問点などをまとめてください。								
事後学習	教科書を読み直し、理解を深める復習をしてください。								
教科書	自動車整備士の法令教本、公論出版 二級自動車シャシ編、日本自動車整備振興会連合会								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(約 60%)、課題(約 20%)、授業態度(約 20%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した場合は、必要に応じて補習又は課題を提出してもらいます。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。 *自動車検査の実務経験あり								

授業科目名	ナンバリング PE-ATE203	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
故障探究・整備 II	必修	2	2	前期		坂井 淳			
	関連するディプロマポリシー番号		2,3	関連するカリキュラムポリシー番号		2,4			
授業の概要									
自動車は、部品や装置の点検、調整を定期的に励行することにより性能を維持できます。故障探究・整備 II ではエンジンやシャシ関係各装置の構造と機能を正確に知り、点検方法及び関連する装置への故障の状況及びその頻度なども考慮して故障を探究する方法、また整備方法について具体的に解説します。									
授業の目的									
故障状態を正しくつかみ、故障を素早く取り除き機能を回復させる整備技術を学習します。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業はスライドや板書を中心とした講義形式で行います。									
授業の終わりに小テストを行い、次回の始めに解説を行います。これにより、学生各自の目標到達度の確認を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	授業の進め方と評価、故障探究と整備の必要性	故障探究と整備の必要性を理解し、説明できる。			1	3			
2	ガソリンエンジンの構造・点検・故障現象	「エンジン始動困難」や「アイドリング不調」などについて、その原因と絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
3				2	2				
4	M/T とクラッチの構造・点検・故障現象	M/T における「切れ不良」や「ギヤが入り難い」などについて、その原因と絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
5				2	2				
6	A/T の構造・点検・故障現象	A/T における「発進できない」などについて、その原因と絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
7				2	2				
8	駆動装置の構造・点検・故障現象	駆動系装置における「異音」などについて、その原因と絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
9	アライメントの点検・故障現象	「タイヤの偏摩耗」などから推察されるアライメントの変化とその原因や絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
10				2	2				
11				2	2				
12	制動装置の構造・点検・故障現象	制動装置における「効きが悪い」などについて、その原因と絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
13	エアコン装置の構造・点検・故障現象	エアコン装置における「効きが悪い」などについて、その原因と絞込み方法を理解し説明できる。			2	2			
14				2	2				
15	複習及びまとめ	今までの内容の理解度を確認します。			1	3			
事前学習	事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。								
事後学習	教科書の読み直しや、ノート及びプリントの整理を行って理解を深めてください。								
教科書	自動車の故障と探究、全国自動車大学校・整備専門学校協会								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(40%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(40%)、小テストまたはレポート(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の小テストを受け取り、自習しておいて下さい。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ATE204	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
故障探究・整備Ⅲ		選択	2	2	後期	北原 成倫
		関連するディプロマポリシー番号		2	関連するカリキュラムポリシー番号	2

授業の概要

自動車は、故障等の不具合が発生した場合には的確に素早く故障原因を取り除き、機能を回復しなければなりません。この授業では、診断技術の高度化に伴う複雑化する故障探究(診断)法を解説します。また、自動車整備業務を遂行するために、必要な知識及び心構えについても説明します。

授業の目的

自動車が故障した場合、整備前に実施する問診から機能確認までの基本的な考え方や、工具・測定器の取扱い方法などの故障探究法を理解し、安全に留意した作業や効率の良い点検・整備技術を学習することを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

教科書及び配布資料を使用した講義形式で行います。

課題、試験等に対するフィードバックを実施し、学習内容の到達度を測ります。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	はじめに	自動車故障全般の概要について説明できる。	2	2	故障探究・整備 I
2	安全管理と災害防止	災害防止の要点を理解し、一般的な作業安全知識を身に付ける。	2	2	自動車実験・実習 A, B, C, D
3			2	2	
4			2	2	
5	診断技術と測定機器の活用	スキヤンツールを活用した基本的な整備作業を理解し、説明できる。	2	2	故障探求整備 I , II 点検整備 I , II
6			2	2	
7	故障探求の作業手順	故障探求の作業手順の要点と留意点を理解し、説明できる。 系統的な点検や五感を活用した探究法を理解し、説明できる。	2	2	エンジン電子制御 I , II
8			2	2	
9	電子制御式燃料噴射装置の故障原因と探究	系統別の基本的な考え方及び点検の方法を理解する。	2	2	故障探求・整備 I , II ガソリンエンジン
10			2	2	
11	電子制御式燃料噴射装置に特有の点検	点検整備をする上で適切な機器の選択と役割ならびに取り扱い方法を理解し、説明できる。	2	2	故障探求・整備 I , II ガソリンエンジン
12			2	2	
13	総合的な故障探求	国家試験において出題率の高い故障探求問題を、基本システム構成から理解し、解けるようになる。	2	2	自動車工学演習 I , II
14			2	2	
15	まとめ	今までの内容を理解し、説明できる。	2	2	

事前学習 各単元で関連する内容を教科書で確認を行い、質問事項をまとめておいてください。

事後学習 教科書や授業ノート及びプリントの見直しを行い、理解を深めてください。

教科書	自動車の故障と探求、全国自動車大学校・整備専門学校協会
参考書	二級ガソリン自動車エンジン編およびシャシ編、日本自動車整備振興会連合会
成績評価の基準	定期試験(60%)、授業態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(20%)、課題(20%)を総合評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は例題を解くなど自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート・課題を提出してもらうことがあります。
備考	

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車工学演習 I	PE-ATE301	必修	1	2	前期	高野 剛／川崎信隆			
関連するディプロマポリシー番号			2,3	関連するカリキュラムポリシー番号		2,4			
授業の概要									
1年次に修得した科目を身につけるため、三級自動車整備士試験問題を中心に演習と解説を行います。									
授業の目的									
1年次に学習した自動車のエンジン、シャシ、電装品などの技術知識を定着させることが目標です。到達目標は三級自動車整備士の技術知識レベルの習得です。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
予習として単元ごとの分野別問題を配布します。自動車整備士試験問題解説(三級ガソリン、三級シャシ)を参考に事前学習を行ってください。授業時に学習成果の確認として「演習問題」を行い、その後「演習問題の解説、または再確認(事後学習)」を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	オリエンテーション	シラバスを基に科目の学習目標、概要や授業の流れを理解する。 基礎知識を確認する。			事前 1				
2	基礎工学 I	基礎計算・基礎問題・工学一般を理解でき問題を解くことができる。			1 1	物理学 I			
3	基礎工学 II				1 1	基礎自動車			
4	エンジン	エンジン本体・潤滑装置・冷却装置・燃料装置・吸排気装置燃焼を理解でき問題を解くことができる。			1 1	ガソリンエンジン			
5					1 1				
6					1 1				
7					1 1				
8	電気装置	電気一般・始動装置・充電装置・点火装置を理解でき問題を解くことができる。			1 1	自動車電装 I			
9					1 1				
10					1 1				
11	電子制御装置	電子制御装置(吸気系統・燃料系統・制御系統・コントロール・ユニット)を理解でき問題を解くことができる。			1 1	ガソリンエンジン			
12	シャシ	動力伝達装置・サスペンション・ステアリング装置・ホイール・タイヤ・アライメント・ブレーキ装置・フレーム・ボデーを理解でき問題を解くことができる。			1 1	シャシ構造 I , II			
13					1 1				
14					1 1				
15	法令	車両法に基づく点検・保安基準を理解でき問題を解くことができる。			1 1	基礎自動車			
事前学習	事前に教科書を読み、分野別毎に配布するプリントの問題を解いておいてください。								
事後学習	教科書の読み直しやノート整理、例題・問題の確認を行うことで理解を深めてください。								
教科書	自動車整備士試験3級ガソリン問題と解説、自動車公論社 自動車整備士試験3級シャシ問題と解説、自動車公論社								
参考書	三級自動車ガソリン・エンジン、国土交通省自動車局監修、一般社団法人日本自動車整備振興会連合会								
成績評価の基準	14回の演習(70%)、定期試験(30%)								
欠席の取り扱い	必要と認める場合は、補習を行います。 毎回課題が出ますので欠席時は必ず課題を担当教員まで受け取りに来てください。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ATE302	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車工学演習 II		必修	1	2	後期	鈴木真人／北原成倫			
		関連するディプロマポリシー番号		2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	2,4			
授業の概要									
1年次の自動車工学専門科目及び2年前期の「自動車工学演習 I」で習得した知識を基本とし、自動車のエンジン、シャシ、電装品の構造・作動・性能、基礎工学の技術知識並びに計算能力及び自動車関係法令に対する演習と解説を行ないます。									
授業の目的									
自動車のエンジン、シャシ、電装品の構造・作動・性能、基礎工学の技術知識並びに計算能力、法令に対する知識を高めることができます。また、到達目標は、二級自動車整備士の技術知識レベルです。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
下記の学習内容にそって、授業前の学習として「予習課題」により学習を行います。授業時に学習成果の確認として「演習問題」を行い、その後に復習(解説または自己採点学習)を行います。演習結果は掲示し、学習内容の到達度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	履修ガイダンス 学習方法指導	履修内容を理解して演習の学習体制を作り上げる。			1				
2	実力判定試験	各自の二級自動車整備士資格試験問題に対する解答能力を理解する。			1				
3	動力伝達装置	動力伝達装置の演習問題を解くことができる。			1				
4	アクスル及びサスペンション、ステアリング装置	アクスル及びサスペンション、ステアリング装置の演習問題を解くことができる。			1	シャシ構造			
5	タイヤ、ホイール・アライメント、ブレーキ装置	タイヤ、ホイール・アライメント、ブレーキ装置の演習問題を解くことができる。			1				
6	シャシ電装	シャシ電装の演習問題を解くことができる。			1	自動車電装			
7	シャシまとめ	シャシ技術の演習問題を解くことができる。			1	シャシ構造 自動車電装			
8	法令	法令の演習問題を解くことができる。			1	自動車検査・法規			
9	エンジン本体	エンジン本体の演習問題を解くことができる。			1				
10	潤滑・冷却装置、燃料装置、吸排気装置	潤滑・冷却装置、燃料装置、吸・排気装置の演習問題を解くことができる。			1	ガソリンエンジン			
11	燃焼及び排出ガス対策、電子制御装置	電子制御装置、燃焼及び排気ガス対策技術の演習問題を解くことができる。			1				
12	エンジン電装	エンジン電装の演習問題を解くことができる。			1	自動車電装			
13	エンジンまとめ	エンジン技術の演習問題を解くことができる。			1	ガソリンエンジン 自動車電装			
14	工学一般、計算問題	工学一般、計算の演習問題を解くことができる。			1	基礎自動車工学			
15	全分野まとめ	二級自動車整備士資格試験の演習問題を解くことができる。			3				
事前学習	毎回、予習プリントを配布するので、次回授業開始時に解答用紙を提出してください。								
事後学習	演習問題の解答を掲示するので、自己採点の上、不正解問題を中心に復習を行ってください。								
教科書	三級・二級自動車ガソリン、シャシ、日本自動車整備振興会連合会 自動車整備士のための自動車整備用語辞典、自動車公論社 自動車整備士2級ガソリン問題と解説、2級ガソリン回数別 問題と解説、自動車公論社								
参考書									
成績評価の基準	毎回の演習結果と課題提出状況(60%)、定期試験(40%)により総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	必要と認める場合は、補習を行ないます。								
備考	自動車技術コースの認定科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ATE205 自動車安全技術・新技術	必・選	単位数 2	学年 2	学期 後期	担当教員名 高野 剛			
授業の概要	自動車には「走る」「止まる」「曲がる」の基本性能の他に、耐久性、快適性、経済性、安全性、社会環境適合性などの性能が求められます。これらの求められる性能を具現化するには、新しく開発されるものや既存技術の改良によるものがありますが、本講義では、これらの研究段階も含めた技術について解説します。								
授業の目的	この講義では、自動車整備士として必要とされる次世代の自動車に用いられる、または既に標準化が進む自動車の安全技術と新技術に関する基礎知識の習得を目的としています。								
授業の進め方と学習成果のフィードバック	授業は講義形式で行います。授業の要所ごとに課題の提出・返却を行い、学習内容の到達度を確認します。								
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	自動車技術の方向性 1	自動車技術の現状から進化の方向性を理解し説明ができる。			1	3			
2	自動車技術の方向性 2	CASE 及び MaaS について理解し説明ができる。			1	3			
3	エコロジー技術の変遷	省エネルギー技術の変遷について理解し説明ができる。			1	3 ガソリンエンジン			
4	車両統合制御技術	レイアウト自由度の向上するXバイ・ワイヤ技術を理解し説明ができる。			1	3 ガソリンエンジン シャシ構造			
5	タイヤの新技術	燃費と操縦安定性の両立を求めるタイヤ技術を理解し説明ができる。			1	3 シャシ構造			
6	素材の新技術	強度性と軽量化が進む新素材について理解し説明ができる。			1	3 機械材料と加工概論			
7	先進安全自動車	先進安全自動車(ASV)プロジェクトの目的及び役割を理解し説明ができる。			1	3			
8	ASVとITS技術 1	高度道路交通システム(ITS)の支援によるインフラ協調型ASVを理解し説明ができる。			1	3			
9	ASVとITS技術 2	先進安全自動車(ASV)と高度道路交通システム(ITS)の関係を理解し説明ができる。			1	3			
10	安全技術 1	パッシブセーフティ技術の衝突安全ボディ、SRSエアバッグとプリテンショナー・シートベルトを理解し説明ができる。			1	3			
11	安全技術 2	アクティブセーフティ技術の横滑り防止装置、追突軽減ブレーキ装置、インテリジェント・ブレーキ装置を理解し説明ができる。			1	3			
12	運転支援技術 1	運転支援による安全技術のドライバー支援装置を理解し説明ができる。			1	3			
13	運転支援技術 2	プリクラッシュセーフティ技術による衝突回避システムを理解し説明ができる。			1	3			
14	運転支援技術 3	コネクテッドカー技術による運転支援システムの将来性を理解し説明ができる。			1	3			
15	まとめ	自動車における安全技術及び新技術を理解し説明ができる。			1	3			
事前学習	次回の学習内容範囲の予習として、配布資料を読み質問事項などを整理してください。								
事後学習	授業内容をノートに整理し、理解を深める復習を行ってください。								
教科書	資料プリントを講義にて配布します。								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(80%)、課題(10%)、受講態度(10%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。必要と認める場合は、補習を行います。								
備考									

授業科目名	ナンバリング PE-ATE107	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
ビジネス実務		選択	2	2	前期	池井 豊*			
		関連するディプロマポリシー番号	1,3,4	関連するカリキュラムポリシー番号	2				
授業の概要									
現代社会における損害保険の有用性や自動車業界における必要性を学びます。特に自動車保険においては基本知識から実践的な事例で交通事故の処理や保険金請求の仕組みなどの説明を行います。また「損害保険募集人資格」取得試験に向けた傾向と対策を講義します。									
授業の目的									
ビジネスの実務に必要な損害保険の基礎知識を習得し、特に自動車保険の概要を理解することを目的とします。また、自動車関連業界に就職しようとしている学生にとって必要不可欠な「損害保険募集人資格」取得レベルまでの知識を得ることが目的です。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
質疑応答を多用し飽きない授業を行います。また、損害保険募集人資格試験に対応した練習問題を解答します。テキスト内の「理解度チェック」や練習問題集で理解度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	損害保険代理店とキャリアデザイン	損害保険代理店とはどんな仕事なのか、どんな生活が描けるのかを理解する。			4				
2	ケーススタディ「自動車事故の現場」	事故の発生するメカニズムを理解し、事故対応の基本を説明できる。			4				
3	リスクと保険 損害保険の社会的役割	リスクマネジメントの説明が出来、損害保険の社会的役割を理解できる。			2	2			
4	保険の仕組み 保険用語	保険の仕組みが理解でき、保険用語が説明できる。			2	2			
5	損害保険商品	損害保険商品の「すまいの保険」「からだの保険」の特徴を理解し、商品内容の概要を説明できる。			2	2			
6	損害保険商品 「くるまの保険」	「くるまの保険」の社会的役割や自賠責保険・任意保険の違いを理解し、商品内容の概要が説明できる。			2	2			
7	損害保険商品の理解	損害保険商品の要点をまとめ、理解度確認テストの六割は正解できる。			2	2			
8	「損害保険商品の理解」の解説	損害保険商品の理解度の足りない部分を認識し、確実に理解する。			2	2			
9	コンプライアンス 保険業法	保険に関する法令の要点を学び、コンプライアンスとの関連性を理解する。			2	2			
10	保険業法と関連法令①	保険業法の詳細を理解し、関連法令についても説明ができる。			2	2			
11	保険業法と関連法令②	保険業法の詳細を理解し、関連法令についても説明ができる。			2	2			
12	保険募集と契約の引き受け	保険代理店としての実務を学び、その基本姿勢を説明できる。			2	2			
13	事故対応と苦情対応	損保事故対応全般を学び、交通事故対応は実際にできるレベルの知識を身につける。			2	2			
14	損害保険の周辺知識 税務・相続・隣接業界	損害保険周辺知識として隣接業界、社会保障制度、税制を理解し説明できる。			2	2			
15	「損害保険募集人一般試験理解度チェック	損害保険募集人一般試験問題の形式を理解し、概ねの解答ができる。			3	2			
事前学習	次回学ぶテキストの範囲を事前学習として読んで、質問事項をまとめておいてください。								
事後学習	授業ノートの整理を行い、テキスト内の「理解度チェック」や練習問題集で理解度を確認してください。								
教科書	損害保険募集人一般試験教育テキスト 基礎単位								
参考書									
成績評価の基準	筆記試験(約 60%)、練習問題・理解度確認試験(約 20%)、出欠状況及び授業態度(約 20%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	必要と認められた場合には、課題を提出してもらいます。								
備考	自動車業界に就職を希望する者にとって、入社後に必要な知識であり資格です。心して学びましょう。 *保険業務の実務経験あり								

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
自動車実験・実習 C	PE-ATE305	必修	3	2	前期	高野 剛／他

授業の概要

自動車とそのユニット装置及びそれらのシミュレータなどの教材を使用し、自動車の構造や各部位の作動原理、整備作業の基礎を学ぶための実験・実習を行います。

授業の目的

新技術に対応する基礎技術知識を習得し、自動車整備の実務的作業の実験・実習を通じて、整備作業の技術知識及び技能を習得することを目的としています。また、到達目標は、二級自動車整備士の技術知識と技能レベルです。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

進め方は、グループ学習をする班を編成し、下記のような実習内容ごとに分けた単元(セクション)を班ごとにローテーションしながら実習を行います。実習単元ごとにレポートを提出、その後レポートに対する評価をフィードバックし、実習内容の理解度の確認を行います。

単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後	
オリエンテーション	班ごとのローテーションによる実験・実習の進め方と成績評価の基準を理解する。		1	
エンジン電子制御 I (近藤 克哉*)	燃料噴射装置及び排出ガス対策装置を理解し、点検調整の総合診断作業ができる。	1	1	ガソリンエンジン
		1	1	
エアコン装置 (吉田 勝哉*)	エアコン装置の構造作動を理解し、ガス圧の点検作業ができる。	1	1	自動車電装 II
		1	1	
電装システムIII (坂井 淳)	ライティング、ワイパーなどの車両配線図が理解できる。	1	1	
		1	1	
動力伝達装置 II (川崎 信隆)	変速機の構造と作動原理を理解し、点検調整作業ができる。	1	1	シャシ構造 II
		1	1	
エンジン整備 (北原 成倫)	車両からエンジンを降ろし、組付け後に必要な確認作業ができる。	1	1	シャシ構造 I
		1	1	
点検整備 II (渡部 賢*)	検査機器を使用し、保安基準の適否の判断ができる。	1	1	自動車検査・法規 I, II
		1	1	

事前学習	実験・実習指導書をもとに、各装置の役割、目的を事前に調べてまとめておいてください。
-------------	---

事後学習	毎回の実習報告書の提出と、単元(セクション)終了ごとに内容をまとめ、担当教員の指示に従ってレポートを提出してください。
-------------	---

教科書	単元(セクション)ごとに自動車実験・実習指導書を配布します。
------------	--------------------------------

参考書	適宜、指示します。
------------	-----------

成績評価の基準	レポート(20%)、実習態度・積極的参加及び試験(80%)により、総合的に評価します。
----------------	---

欠席の取り扱い	90%以上の出席を必要とします。必要と認める場合は、補習を行います。
----------------	------------------------------------

備考	自動車技術コースの認定科目です。 *自動車整備の実務経験あり
-----------	-----------------------------------

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
自動車実験・実習 D	PE-ATE306	必修	3	2	後期	高野 剛／他

授業の概要

自動車とそのユニット装置及びそれらのシミュレータなどの教材を使用し、自動車の構造や各部位の作動原理、整備作業の基礎を学ぶための実験・実習を行います。

授業の目的

新技術に対応する基礎技術知識を習得し、自動車整備の実務的作業の実験・実習を通じて、整備作業の技術知識及び技能を習得することが目的です。また、到達目標は、二級自動車整備士の技術知識と技能レベルです。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

進め方は、グループ学習をする班を編成し、下記のような実習内容ごとに分けた単元(セクション)を班ごとにローテーションしながら、実習を行います。実習単元ごとにレポートを提出、その後レポートに対する評価をフィードバックし、実習内容の理解度の確認を行います。

単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後	
オリエンテーション	班ごとのローテーションによる実験・実習の進め方と成績評価の基準を理解する。		1	
エンジン電子制御Ⅱ (高橋 和夫*)	エンジンの故障診断及び整備作業ができる。	1	1	ガソリンエンジン
		1	1	
ボデー電装 (坂井 淳)	ボデー電装システムの故障診断作業ができる。	1	1	自動車電装Ⅱ
		1	1	
動力伝達装置Ⅲ (川崎 信隆)	動力伝達装置の点検整備と故障診断作業ができる。	1	1	シャシ構造Ⅱ
		1	1	
走行制動装置Ⅲ (北原 成倫)	ホイールアライメントの働きを理解し、アライメントテストなどによる調整作業ができる。	1	1	シャシ構造Ⅰ
		1	1	
車検整備 (渡部 賢*)	2年定期点検整備項目を理解し、車検整備ができる。	1	1	自動車検査・法規Ⅰ,Ⅱ
		1	1	
実務整備 (吉田 勝哉*)	実務に則した作業ができる。 2020年4月から施行される、特定整備制度に関する実務要件の修得。	1	1	故障探究・整備Ⅰ
		1	1	

事前学習 実験・実習指導書をもとに、各装置の役割、目的を事前に調べてまとめておいてください。

事後学習 毎回の実習報告書の提出と、単元(セクション)終了ごとに内容をまとめ、担当教員の指示に従ってレポートを提出してください。

教科書	単元(セクション)ごとに自動車実験・実習指導書を配布します。
参考書	適宜、指示します。
成績評価の基準	レポート(20%)、実習態度・積極的参加及び試験(80%)により、総合的に評価します。
欠席の取り扱い	90%以上の出席を必要とします。必要と認める場合は、補習を行います。
備考	自動車技術コースの認定科目です。 *自動車整備の実務経験あり

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
自動車電装 II	PE-ELE104	(自)必	2	2	前期	脇田 喜之
		(電)選				

授業の概要

自動車用電装品とは自動車に用いられる電気部品のことで、特にエンジン電装品とシャシ電装品に大別することができます。本講義では、シャシ電装品として、計器、ランプ、ワイパー、エアコンディショナ、SRSエアバッグ、カーナビゲーションシステム、外部診断器について学習します。電装品を正しく取り扱えるようになる為に、シャシ電装品の機能、構造、回路、点検方法について解説を行います。

授業の目的

シャシ電装品である計器、ランプ、ワイパー、エアコンディショナ、SRSエアバッグ、カーナビゲーションシステム、外部診断器について、それぞれの装置が担っている役割を理解し、装置の機能、構造、作動、点検方法等について理解し、説明できるようになることが目的です。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業では教科書を中心に解説します。準備学習で宿題問題を解き、事後学習で自己採点を行い、自主的に学習します。単元終了の翌週は単元試験を実施し、学習内容の到達度を確認します。また、宿題問題やノートを提出し、自己学習の状況もチェックします。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	計器 ①速度計 ②ゲージの構成要素、燃料計 ③水温計、油圧計、各種警報装置	速度指示計、積算距離計、区間距離計の構成要素、および交差コイル式計器について理解し、説明することができる。	2	2	自動車実験・実習 (電装システムIII) (ボデー電装)
2		センダユニットやレシーバユニットに使用される各種センサおよび指示器の構造。燃料計の作動について理解し、説明できる。	2	2	
3		水温計、油圧計の作動について理解し、説明できる。各種警報回路の作動について理解し、回路図を用いて図解できる。	2	2	
4	ボデー電装品 ①ヘッドライト ②各種ランプ、リレー回路等 ③ホーン、ワイパー、ウォッシャ	光源の発光原理、レンズと反射鏡の構造、ヘッドライトスイッチの作動を理解し、説明することができる。	2	2	故障探究整備II 自動車実験・実習 (エアコン装置)
5		各種ランプを駆動するリレー回路、点滅回路、断線検出回路の作動について理解し、説明することができる。	2	2	
6		ホーン、ワイパー、ワイパー駆動回路、ウォッシャの構造と作動について理解し、説明することができる。	2	2	
7	エアコンディショナ ①暖房装置 ②冷凍サイクル ③冷房装置 ④マニュアルエアコン、オートエアコン	暖房装置の構成部品の構造と役割、作動を理解し、説明することができる。	2	2	故障探究整備II 自動車実験・実習 (エアコン装置)
8		冷凍サイクルの原理、構成部品の構造と役割、作動を理解し、説明することができる。フロンの環境問題を説明することができる。	2	2	
9		冷房装置の構成部品の構造と役割、作動を理解し、説明することができる。	2	2	
10		エアコンの構成部品の構造と役割、オートエアコンの温度制御の方法とセンサの役割を理解し、説明することができる。	2	2	
11	安全装置・付属装置 ①SRSエアバッグシステム等 ②カーナビゲーションシステム ③外部診断器等	SRSエアバッグシステムとプリテンショナ付きシートベルトの構成部品の構造と役割、作動を理解し、説明することができる。	2	2	故障探究整備III 自動車実験・実習 (電装システムIII)
12		カーナビゲーションシステムの構成部品の役割、自立航法と電波航法の原理と特徴について理解し、説明することができる。	2	2	
13		CAN通信システムと外部診断器の機能について理解し、説明することができる。	2	2	
14	電気装置の配線	自動車配線図の種類として、配線図と回路図のそれぞれの役割について理解し、説明することができる。	2	2	
15		回路図中の、ハーネス、コネクタ、ジャンクションブロックの種別と役割について理解し、説明することができる。	2	2	

事前学習 宿題問題が事前配布の場合、教科書を参考に解答し、分かる所と分からない所を仕分けしてください。

事後学習 事前学習で未解答の問題を授業でチェックし、宿題問題を完成して下さい。その後、模範解答を見て自己採点してください。

教科書	電装品構造、全国自動車大学校・整備専門学校協会
参考書	三級自動車シャシ、日本自動車整備振興会連合会 自動車配線図の見方ハンドブック、田所孝編著、廣済堂出版
成績評価の基準	授業態度等(10%)、ノート・宿題問題(10%)、単元試験(40%)、定期試験(40%)を総合評価します。
欠席の取り扱い	欠席をした場合は、宿題問題の答案作りと自習によるノート作成を行い、単元試験時に提出してもらいます。
備考	自動車技術コースの認定科目です。

授業科目名	ナンバリング PE-ELE205	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
HV・EV・FCV	選択	2	2	後期		脇田 喜之			
	関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	2					
授業の概要									
地球温暖化やエネルギー問題の早期解決が必要となった現代において、次世代の自動車技術は非常に短期間で市場に投入され、普及するようになりました。その中でもハイブリッド車(HV), 電気自動車(EV), 燃料電池車(FCV)については、今後、自動車の中核となる技術です。HV, EV, FCVについて、その要素技術を平易に解説します。									
授業の目的									
まず、HV, EV, FCVで共通の重要な要素技術である、バッテリ技術, モータ技術, インバータ技術, 回生ブレーキ制御について理解することを目的としています。さらに、HVに特有のエンジンとモータを協調させるハイブリッド制御, FCVに特有の燃料電池技術についても理解することを目的とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
各単元では、座学やビデオ教材等で学習し、そのまとめとしてグループディスカッションまたはレポート課題を課します。そして、グループディスカッションの発表やレポート課題によって、学習内容の到達度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	EV概論 ①EV開発の実例 ②EVの技術的課題	EVの基本構造と分類、EVにまつわる環境問題について理解し、説明することができる。			4				
2		EV開発の実例より、技術的課題についてグループディスカッションを行うことで、EVの長所を理解し、説明することができる。			4				
3	バッテリ技術 ①性能評価法 ②各種バッテリや全固体バッテリの性能比較	バッテリの容量、充電率、エネルギー密度、出力密度など、性能評価の方法について理解し、説明することができる。			2	自動車電装 I			
4		各バッテリについて座学、ビデオ学習、グループディスカッションを行い、その長所や短所を理解し、説明することができる。			2				
5	モータ技術 ①駆動性能 ②各種モータの構造と性能比較	モータとエンジンの基本性能の差異や、モータの長所、短所について理解し、説明することができる。			2	電気電子工学 II			
6		各種モータの構造や作動原理、長所や短所について理解し、説明することができる。			2				
7	インバータ技術 ①回路構成と作動原理 ②PWM制御とスイッチング損失	インバータ回路の基本となるHブリッジ回路の構成と作動原理、役割や用途を理解し、説明することができる。			2				
8		PWM制御による出力調整の作動原理と、スイッチング損失について理解し、説明することができる。			2				
9	バッテリEV ①モータ出力の計算 ②航続距離の計算	車両の諸元から、走行抵抗とモータ出力を計算する方法について理解し、実際に計算することができる。			2	基礎自動車工学			
10		バッテリとモータの諸元から、バッテリEVの航続距離と最高速度を計算する方法について理解し、実際に計算することができる。			2				
11	HV ①HVの構成と分類 ②CHVの動力分担とエネルギー回収	HVの構成要素、構成による分類、長所と短所について理解し、説明することができる。			2				
12		動力分割機構による動力分担のパターンと、エネルギー回収の方法について理解し、説明することができる。			2				
13	FCV ①燃料電池の構造と作動原理 ②FCVの構成と改良	燃料電池の構造、作動原理、各種燃料電池の長所や短所について理解し、説明することができる。			2				
14		FCVについて座学、ビデオ学習、グループディスカッションを行い、FCVの現状について理解し、説明することができる。			2				
15	まとめ	再度、EV開発の技術的課題についてグループディスカッションを行い、これまでの学習成果を基にしてEVの長所を説明できる。			4				
事前学習	次回の学習内容における重要な技術を、教科書やインターネット検索で事前に調べておいてください。								
事後学習	単元の学習のまとめとして、グループディスカッションの報告やレポート課題を作成して、期限までに提出してください。								
教科書	電気自動車(第2版), 森本雅之, 森北出版株式会社。その他、必要に応じて資料を配付します。								
参考書	初めて学ぶハイブリッドシステム25のキーワード, 株式会社デンソーサービス部								
成績評価の基準	授業態度(20%), グループディスカッション(40%), 課題レポート(40%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席をした授業は、教科書や参考資料を参考にして、必ず自習レポートを提出してもらいます。								
備考									

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
電子制御工学 I	PE-ELE106	(自)選	2	2	前期	脇田 喜之
		(電)必				

授業の概要

さまざまな電子制御のなかで、自動ドアやエレベータ、エスカレータ等のビル設備や、工場の自動生産設備などに使われている制御システムは、シーケンス制御と呼ばれており、身の回りで欠かすことのできない技術です。この授業では、リレーおよびPLCを用いたシーケンス制御について、その構成部品、回路図の読み方と書き方から、設計の方法までを学習します。

授業の目的

この授業では、シーケンス制御について、構成部品の役割と用途、回路図の読み方と書き方、基本的なシーケンス回路の役割と用途、シーケンス回路の組合せ方、具体的なシーケンス回路の事例について学び、最終的には初步的なシーケンス回路の設計ができるようになることを目標とします。また、機械保全技能検定や電気機器組立て技能検定の実技試験問題を理解できるようになることも、目標の一つです。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

第2～5回、第6～10回、第11～14回を区分として、三つの単元に分けて学習します。それぞれの単元では演習問題を出題し、目標到達度を確認します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	シーケンス制御とは	シーケンス制御の事例を学ぶことにより、シーケンス制御の基本的な構成と特徴を理解し、説明することができる。		4	電子制御概論
2	命令用機器、検出用機器	シーケンス制御において、命令用や検出用に用いられるスイッチ類の機器について理解し、説明することができる。	2	2	電子制御 実験・実習A (リレー・シーケンス) 基礎制御実習 I
3	制御操作用機器	シーケンス制御において、回路を開閉することによって制御操作を行う機器について理解し、説明することができる。	2	2	
4	表示用機器、警報用機器、操作対象機器	シーケンス制御において、作業者に表示や警報する機器や、操作対象となる動力機器について理解し、説明することができる。	2	2	
5	シーケンス制御回路図	第2～4回で学んだ機器の図記号と文字記号、それらを用いた回路図の書き方について理解し、説明することができる。	2	2	
6	タイムチャート	制御機器の動作を、時間の経過とともに描き表すタイムチャートについて理解し、タイムチャートから回路図を描くことができる。	2	2	
7	論理回路	シーケンス回路において、接点の組み合わせの基本となる論理回路について理解し、説明することができる。	2	2	
8	組合せ論理回路	論理回路の組み合わせ方を理解し、特定の入力条件に対してのみ動作する回路を設計することができる。	2	2	
9	自己保持回路、順序制御回路	シーケンス回路の基本となる、自己保持回路と順序制御回路について理解し、説明することができる。	2	2	
10	タイマ回路、カウンタ回路	シーケンス回路の基本となる、タイマ回路とカウント回路について理解し、説明することができる。	2	2	
11	シーケンス制御設計1 状態遷移表の作成	シーケンス制御の設計における、制御の段階を管理するための状態遷移表について理解し、説明することができる。	2	2	
12	シーケンス制御設計2 入力制御表の作成	シーケンス制御の設計における、入力信号を管理するための入力制御表について理解し、説明することができる。	2	2	
13	シーケンス制御設計3 出力制御表の作成	シーケンス制御の設計における、出力信号を管理するための出力制御表について理解し、説明することができる。	2	2	
14	シーケンス制御設計4 回路図の作成	シーケンス制御の設計における、3つの表から回路図を作成する方法について理解し、説明することができる。	2	2	
15	まとめ	これまでの学習内容を復習し、疑問点を解消して、理解を深めることができる。	4		
事前学習		次回範囲の教科書を読み、質問事項をまとめておいてください。特に、回路図やタイムチャートをノートに書き写して学習をしてください。			
事後学習		学習を終えた演習課題では実物教材を提示しますので、実際に動作させて観察するなどを行い、理解を深めてください。			

教科書	図解入門よくわかる最新シーケンス制御と回路図の基本、武永行正著、秀和システム
参考書	電子制御実験・実習Aの実習テキスト
成績評価の基準	授業態度(20%)、定期試験(80%)を総合評価します。
欠席の取り扱い	欠席した授業は、自習によるノート作成と演習問題の解答を提出してもらいます。
備考	3級機械保全技能検定(電気系保全作業)の技能検定の関連科目です。

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
電子制御工学Ⅱ	PE-ELE202	(自)選	2	2	後期	斎藤 博
		(電)必				

授業の概要

電子制御工学Ⅰで学んだリレーシーケンス制御では、制御の複雑さに対して必要とするリレーの数が増大するため、より複雑な自動制御には限界があります。そのようなケースではプログラマブル・ロジック・コントローラ(PLC)が一般的に用いられています。この授業では、PLCによるシーケンス制御について、その構成部品、プログラムの読み方と書き方から、プログラムの設計方法までを学習します。

授業の目的

この授業では、PLCシーケンス制御について、構成部品の役割と用途、プログラムの読み方と書き方、基本的なラダープログラムの構成方法について学び、最終的には初步的なラダープログラムの設計ができるようになります。また、機械保全技能検定や電気機器組立て技能検定の実技試験問題を理解できるようになることも、目的の一つです。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

第1～4回、第5～6回、第7～8回、第9～10回、第11～14回を区分として、五つの単元に分けて学習します。それぞれの単元では演習問題を出題し、目標到達度を確認します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	シーケンス制御の復習	電子制御工学Ⅰで学習したシーケンス制御の概要について理解し、説明することができる。	2	2	電子制御工学Ⅰ 電子制御実験・実習A (PLC制御) 基礎制御実習Ⅱ
2	シーケンス回路図の復習	電子制御工学Ⅰで学習したシーケンス回路図について理解し、回路図を描いたり説明することができる。	2	2	
3	ラダープログラム	シーケンス回路図とラダープログラムの共通点と相違点を理解し、説明することができる。	2	2	
4	プログラマブル・ロジック・コントローラ(PLC)	PLCの構成と、入力機器および出力機器の接続について理解し、説明することができる。	2	2	
5	プログラミングツール	ラダープログラムを作成してPLCに書き込む、プログラミングツールの機能について理解し、説明することができる。	2	2	
6	ラダープログラム作成例	基本的な制御機器をPLCに接続し、ラダープログラムを作成する例を通して、プログラムの作成手順を理解し、説明できる。	2	2	
7	PLCのデバイス	PLCの入力接点、出力コイル、内部リレー、タイマ、カウンタ、データレジスタ等のデバイスについて理解し、説明することができる。	2	2	
8	PLCに対する数値の入出力	PLCのBIN入力、BCD出力、データシフトによるワーク情報の管理について理解し、説明することができる。	2	2	
9	歩進制御によるプログラム作成	制御機器の動作状態を扱う方法として、歩進制御の考え方によるプログラムについて理解し、説明することができる。	2	2	
10	実際のプログラムの流れ	PLCが実際にプログラムを実行する流れとして、スキャンと処理方式について理解し、説明することができる。	2	2	
11	プログラムの設計①	プログラム設計の具体的手順として、制御機器の動作状態の確認とデバイス割り当ての手順を理解し、設計することができる。	2	2	
12	プログラムの設計②	プログラム設計の具体的手順として、出力動作と入力条件の書き出しの手順を理解し、設計することができる。	2	2	
13	プログラムの設計③	プログラム設計の具体的手順として、入力回路から歩進制御のプログラムを描く手順を理解し、設計することができる。	2	2	
14	プログラムの設計④	プログラム設計の具体的手順として、歩進制御の動作状態から出力回路を描く手順を理解し、設計することができる。	2	2	
15	まとめ	これまでの学習を復習し、疑問点を解消して、理解を深めることができる。	4		

事前学習 次回範囲の教科書を読み、特に、回路図をノートに書き写して電流経路をなぞるなど、手を動かす学習をしてください。

事後学習 演習室パソコンのプログラミングツールを利用し、学習した回路の動作をシミュレーションして、理解を深めてください。

教科書	図解入門よくわかる最新シーケンス制御と回路図の基本、武永行正著、秀和システム
参考書	電子制御実験・実習Aの実習テキスト
成績評価の基準	授業態度(20%)、定期試験(80%)を総合評価します。
欠席の取り扱い	自習によるノート作成と演習問題の解答を提出してもらいます。
備考	電気機器組立て技能検定の関連科目です。電子制御工学Ⅰを履修していることが望ましいです。

授業科目名	ナンバリング PE-ELE301	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名	
電子制御実験・実習A	必修	2	2	前期	村山 健一		
		関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	3, 4		
授業の概要							
実社会で用いられている電子制御装置は、動力機械等のリレーシーケンス制御、工場で複雑な制御を行うPLC制御、家電製品等のマイコン制御の三種類に分類されます。この授業では、電子制御の基礎技術である三種類の制御システムを実際に操作し、網羅的に学習する実習です。							
授業の目的							
リレーシーケンス制御、PLC制御、マイコン制御の三種類をテーマとして実習を行います。それぞれのテーマでは、スイッチやセンサなどの入力装置、ランプやアクチュエータなどの出力装置と、それぞれの制御装置を教材として使用し、制御システムの部品構成、作動、製作方法等を修得することを目的とします。							
授業の進め方と学習成果のフィードバック							
基本的に一人一台の教材で、実習指導書に沿って作業を行います。実習の終わりには日報を作成し、報告結果に対して理解度を確認し、次の改善に役立てます。また、実習テーマごとにレポートを作成し、最終的な理解度の確認を行います。							
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)	
		事前	事後				
1	ガイダンス リレーシーケンス基礎1	実習の取り決め、日報とレポートの書き方を理解する。 工具の取扱いについて理解し、作業を行うことができる。			1	基礎制御実習 I	
2	リレーシーケンス基礎2	リレーによる制御回路の配線や製作方法について理解し、作業を行うことができる。			1		1
3	リレーシーケンス応用1	組合せ論理回路、インターロック回路の作動を理解し、製作や点検等の作業を行うことができる。			1		1
4	リレーシーケンス応用2	自己保持回路、タイマ回路の作動を理解し、製作や点検等の作業を行うことができる。			1		1
5	PLC制御基礎1	ラダープログラムの作成方法と、制御回路の作動をモニタする方法を理解し、作業を行うことができる。			1	基礎制御実習 II	
6	PLC制御基礎2	リレーシーケンスで学習した制御回路をラダープログラムで製作する方法を理解し、実際に作業を行うことができる。			1		1
7	PLC制御応用1	順序制御回路の作動を理解し、製作や点検等の作業を行うことができる。			1		1
8	PLC制御応用2	フリッカ回路、オルタネイト回路の作動を理解し、製作や点検等の作業を行うことができる。			1		1
9	PLC制御応用3	実際に則したテーマで制御回路を作成する。これにより、仕様に沿った製作方法を理解し、実際に製作することができる			1		1
10	マイコン制御基礎1	C言語によるプログラムの作成方法を理解し、作業することができる。			1		1
11	マイコン制御基礎2	マイコンにセンサを接続してセンサ値を読み取るプログラムを作成することで、センサの利用方法を理解し、作業することができる。			1		1
12	マイコン制御基礎3	マイコンにアクチュエータを接続して駆動プログラムを作成することで、アクチュエータの利用方法を理解し、作業することができる。			1		1
13	マイコン制御応用	実際に則したテーマ(電子制御スロットル、オートライト等)で制御システムを作成する。これにより、仕様に沿った回路の製作方法を理解し、実際に製作することができる。			1		1
14					1		1
15	全実習のまとめ	これまでの実習の疑問点を解消し、理解を深めることができる。			1		
事前学習	実習指導書をもとに、作業の内容や方法について箇条書きにまとめるなどして実習内容を確認してください。						
事後学習	一回の実習のまとめを日報に、テーマごとの課題をレポートにして提出してください。						
教科書	テーマごとに実習指導書を配付します。						
参考書	電子制御工学の教科書を持参し、活用してください。						
成績評価の基準	実習態度(50%)、日報(20%)、レポート(30%)により、総合的に評価します。						
欠席の取り扱い	実習のため、90%の出席を必要とします。また、必要に応じて補習を行います。						
備考							

授業科目名		必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
PE-ELE302 電子制御実験・実習B		必須	2	2	後期	村山 健一			
		関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	3, 4				
授業の概要									
<p>就職後の実務において、技術者は予め決められた作業を行うだけではなく、自ら考えて作業する能力も求められます。本実習は、与えられたテーマの制御装置を実際に製作する実習です。製作にあたっては学生でプロジェクトチームを結成し、企画立案から、製作、報告会までを、学生主導で進めていきます。</p>									
授業の目的									
<p>まず、自らが考えて自らが進める、実際のモノづくりを体験することが、この授業の第一の目的です。しかし、社会においては一人で仕事をすることは稀です。そこで、制御装置の立案から、設計、試作、製作、報告会までのプロジェクトを体験することで、プロジェクトチームのメンバーで協力しあう実践力を修得することが、この授業の第二の目的です。</p>									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
<p>毎回、スケジュールのチェックと、当日の作業を確認します。また、当日の終業時は日報を提出し、プロジェクト管理を行います。プロジェクトの節目にはプレゼンテーションを作成し、学習成果の確認を行います。</p>									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	アイスブレーク 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームを結成し、協力体制を築くことができる。 ・実習全体の流れを理解し、取り組む製作テーマについて討議し、意見を集約することができる。 			事前 1				
2	企画・計画の立案 発表資料の作成	<p>企画・計画の立案と、その発表資料の作成において、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企画内容に関し、既存技術を調査する。 ②調査結果を基に企画のセールスポイントをまとめる。 <p>以上より、企画・計画を明確にすることの重要性を理解する。</p>			1 1				
3					1 1				
4	企画発表会	発表・討論により、計画内容について有識者の意見を聴取し、企画を練り上げる。他者の意見を求めることが重要性を理解する。			1 1				
5	設計、試作、作動テスト	<p>製作の前半段階として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①アイデアを試作モデルで検証する。 ②検証によりアイデアを修正し、実現の見通しをつける。 ③アイデアを設計図面にする。 <p>以上の三段階を体験して、モノづくりに必要な試行錯誤の段階を、体験し、理解する。</p>			1 1				
6					1 1				
7					1 1				
8					1 1				
9	中間ミーティング	関係者ミーティングで企画発表会以降の進捗状況を報告し、計画を修正する。これにより、振り返りの重要性を理解する。			1 1				
10	製作、調整、作動テスト	<p>製作の後半段階として、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①試作ではない、信頼性が十分な部品を製作する。 ②作動テストと調整により、作動を確実なものとする。 ③設計図面にはない、製作上のノウハウを資料に残す。 <p>以上の三段階を体験して、モノづくりに必要な製作の段階を、体験し、理解する。</p>			1 1				
11					1 1				
12					1 1				
13					1 1				
14	成果報告用プレゼンテーションの作成	プロジェクトの成果報告とその資料作成を通して、計画の到達度と今後の課題を総括することの重要性を理解する。			1 1				
15	成果報告会	発表・討論により、客観的な意見を聴取し、今後のプロジェクトチームへ、改善案と引継資料を作成することができる。			1				
事前学習	実習指導書をもとに、作業の内容や方法について事前に学習してください。								
事後学習	一回の実習のまとめを日報にして提出してください。また、指示された回にはプレゼンテーションを提出してください。								
教科書	実習指導書を配布します。								
参考書	特定の参考書はありません。また、あらゆる授業の教科書が参考書になりますので、復習を心掛けてください。								
成績評価の基準	実習態度(50%)、日報(20%)、プレゼンテーション(30%)により、総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	実習のため、90%の出席を必要とします。また、必要に応じて補習を行います。								
備考	この実習は、二年間の学習の総まとめとなる実習です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ELE303	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
基礎制御実習 I		必修	1	2	前期	脇田 喜之			
		関連するディプロマポリシー番号		2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	3, 4			
授業の概要									
工場やビル等で稼働する機械装置・設備のうち、特に電気的・電子的に制御された機械を取り扱う技術者は、社会に不可欠な人材です。これらの技術者のうち、機械の保全(整備)に携わる技能の資格が機械保全技能士(電気系保全作業)です。この授業では、当技能士に求められる技能である、機械の制御回路を取り扱う各種技能について、実習を行います。									
授業の目的									
機械保全技能士に求められる技能として、有接点シーケンス(リレーシーケンス)制御回路について、回路組立て、仕様変更、構成部品の点検、回路の点検及び修復等の技能を修得することが目的です。また、機械保全技能検定(電気系保全作業)の受検に備えることも目的の一つです。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
実習では、テーマに従って作業を行い、終了時に日報を作成します。この日報により、習熟度の確認と苦手作業の自己分析を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	履修ガイダンス	機械保全技能士に求められる技能について理解する。実習の手順について理解し、今後の学習に備える。			1	(4月16日) (※修正予定)			
2	配線の製作作業	配線の切断、被覆剥き、圧着端子のカシメ等を、規定のとおりに、正確かつ迅速に作業することができる。			1	(4月23日) (※修正予定)			
3	配線図による結線作業	実体配線図をもとにした結線作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1	(4月30日) (※修正予定)			
4	結線の確認作業 配線図の作図作業	実体配線図の結線を確認する作業、回路図から実体配線図を作図する作業を、正確かつ迅速に行うことができる。			1	(5月7日) (※修正予定)			
5	回路図による結線作業	回路図をもとにした結線作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1	(5月14日) (※修正予定)			
6	回路の仕様変更作業	結線済みの回路に対する回路の仕様変更作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1	(5月21日)			
7	構成部品の点検作業	リレーおよびタイマをサーチットテスタを用いて点検する作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1	(5月28日)			
8	回路の点検及び修復作業	不良個所のある結線済みの回路の点検・修復の作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1	(6月4日)			
9	(復習)配線の製作～結線の確認作業	配線の製作から、結線の確認作業までのテーマ別実習で、苦手作業を分析し、正確さ、速さを向上することができる。			1	(6月11日)			
10	(復習)回路の仕様変更～点検・修復作業	回路の仕様変更から、点検・修復作業までのテーマ別実習で、苦手作業を分析し、正確さ、速さを向上することができる。			1	(6月18日)			
11	(復習)全作業	全ての作業について、苦手作業を克服し、正確さ、速さを向上することができる。			1	(6月25日)			
12	総合作業1				1	1			
13	総合作業2	全ての作業を一連で行い、正確かつ円滑に作業することができる。			1	1			
14	総合作業3				1	1			
15	まとめ	苦手作業を自己分析することができる。			1				
事前学習	実習指導書を熟読するだけでなく、円滑に作業を行えるように作業方法を記憶し、実習に臨んでください。								
事後学習	実習時以外にも実習室を開放しますので、教員に申し出てください。事後学習として、苦手作業の克服に励んでください。								
教科書	テーマごとに実習指導書を配付します。								
参考書	電子制御工学Iの教科書を参考にしてください。								
成績評価の基準	実習態度(40%)、日報(20%)、総合作業の成績(40%)により、総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	必要に応じて補習を行います。								
備考	機械保全技能検定の関連科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ELE304	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
基礎制御実習 II	必修	1	2	後期		脇田 喜之			
	関連するディプロマポリシー番号	2, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	3, 4					
授業の概要									
工場やビル等で稼働する機械装置・設備のうち、特に電気的・電子的に制御された機械を取り扱う技術者は、社会に不可欠な人材です。これらの技術者のうち、制御装置の製作に携わる技能の資格が電気機器組立て技能士(シーケンス制御作業)です。この授業では、当技能士に求められる技能である、機械の制御装置を取り扱う各種技能について、実習を行います。									
授業の目的									
電気機器組立て技能士に求められる技能として、制御装置(PLC)と機械装置間の配線、配線の点検、ラダープログラムの作成、動作確認、ラダープログラムの修正、等の技能を修得することが目的です。また電気機器組立て技能検定(シーケンス制御作業)の受検に備えることも目的の一つです。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
実習では、テーマに従って作業を行い、終了時に日報を作成します。この日報により、習熟度の確認と苦手作業の自己分析を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	履修ガイダンス	電気機器組立て技能士に求められる技能について理解する。実習の手順について理解し、今後の学習に備える。			1				
2	装置間の配線作業	I/O割付表をもとにしたPLCと機械装置間の配線作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
3	ラダープログラムの作成 作業1	リレーシーケンス回路図をもとにしたラダープログラムの作成作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
4	ラダープログラムの作成 作業2	仕様書をもとにしたラダープログラムの作成作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
5	配線の点検作業	サーキットテスタおよびPLCを利用した配線の点検作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
6	動作確認作業	ラダープログラムの動作確認作業を、正確かつ迅速に作業することができます。			1				
7	ラダープログラムの修正 作業1	ラダープログラムの動作確認作業をもとにした修正作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
8	ラダープログラムの修正 作業2	仕様書の変更をもとにした修正作業を、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
9	(復習)苦手作業の習熟 その1	テーマ別作業実習で、苦手作業を分析し、正確さ、速さを向上することができる。			1				
10	第1回総合作業	全ての作業を一連で行い、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
11	第2回総合作業				1				
12	(復習)苦手作業の習熟 その2	第1～2回総合作業の結果を元に、苦手作業を分析し、正確さ、速さを向上することができる。			1				
13	第3回総合作業	全ての作業を一連で行い、正確かつ迅速に作業することができる。			1				
14	第4回総合作業				1				
15	まとめ	苦手作業を自己分析することができる。			1				
事前学習	実習指導書を熟読するだけでなく、円滑に作業を行えるように作業方法を記憶し、実習に臨んでください。								
事後学習	演習室パソコンのプログラミングツールを利用し、学習した回路の動作をシミュレーションして、理解を深めてください。								
教科書	テーマごとに実習指導書を配付します。								
参考書	以下の電子制御工学Ⅰの教科書を必ず持参してください。 図解入門よくわかる最新シーケンス制御と回路図の基本、武永行正著、秀和システム								
成績評価の基準	実習態度(40%)、日報(20%)、総合作業の成績(40%)により、総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	必要に応じて補習を行います。								
備考	3級電気機器組立て技能検定(シーケンス制御作業)および2級機械保全技能検定(電気系保全作業)の関連科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ELE305	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
電子制御工学演習 I		必修	1	2	前期	齋藤 博			
		関連するディプロマポリシー番号	2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	3,4				
授業の概要									
工場やビル等で稼働する機械装置・設備のうち、特に電気的・電子的に制御された機械を扱う技術者は、社会に不可欠な人材です。これらの技術者のうち、機械の保全(整備)に携わる技能の資格が機械保全技能士(電気系保全作業)です。この授業では、当技能士に求められる5つの専門分野について、演習と解説を行います。									
授業の目的									
機械保全技能士に求められる、機械一般、電気一般、機械保全法、材料一般、安全衛生の5つの専門分野について、関連科目と並行(または先行)して概略を学習することが目的です。また、機械保全技能検定(電気系保全作業)の受検に備えることも目的の一つです。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
分野別学習の単元では、「解説講義」と「演習問題」を行います。模擬試験の単元では「模擬試験」を行います。また、採点結果に対して誤答問題の解説を行い、学生各自の学習理解度の確認を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	履修ガイダンス	機械保全技能士に求められる専門知識の分野について理解する。演習の学習方法を理解し、今後の学習に備える。			2				
2	(分野別学習1) 機械一般 解説と演習	機械一般の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	1			
3	(分野別学習2) 電気一般 解説と演習	電気一般の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	1 電気電子工学			
4	(分野別学習3) 機械保全法 解説と演習	機械保全法の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	1 保全工学			
5	(分野別学習4) 材料一般 解説と演習	材料一般の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	1 機械材料と加工概論			
6	(分野別学習5) 安全衛生 解説と演習	安全衛生の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	1			
7	第1回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
8	第2回演習問題				2				
9	第3回演習問題				2				
10	第4回演習問題				2				
11	苦手分野の分析と復習	これまでの総合問題より苦手分野を分析し、理解不十分な内容を補うことができる。			1	1			
12	第5回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
13	第6回演習問題				2				
14	第7回演習問題				2				
15	第8回演習問題				2				
事前学習	教科書の単元に関わる内容を読んで、不明な箇所などをまとめてください。								
事後学習	学習内容の整理と演習問題の誤答の復習を行ってください。								
教科書	最短攻略 技能検定 機械保全 電気系保全作業 学科・実技 -1・2級対応- 改訂新版、電気書院								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(50%)、模擬試験結果(35%)、授業態度(15%)により総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の演習問題や模擬試験は次週までに答案を作成し提出してもらいます。								
備考	機械保全技能検定の関連科目です。								

授業科目名	ナンバリング PE-ELE306	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
電子制御工学演習Ⅱ		必修	1	2	後期	齋藤 博			
		関連するディプロマポリシー番号	2,3	関連するカリキュラムポリシー番号	3,4				
授業の概要									
工場やビル等で稼働する機械装置・設備のうち、特に電気的・電子的に制御された機械を扱う技術者は、社会に不可欠な人材です。これらの技術者のうち、制御装置の製作に携わる技能の資格が電気機器組立て技能士(シーケンス制御作業)です。この授業では、当技能士に求められる7つの専門分野について、演習と解説を行います。									
授業の目的									
電気機器組立て技能士に求められる、電気機器組立て一般、電気、製図、機械工作法、材料、安全衛生、関係法規、の7つの専門分野について、関連科目と並行して概略を学習することが目的です。また、電気機器組立て技能検定(シーケンス制御作業)の受検に備えることも目的の一つです。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
前半の分野別学習の単元では「解説講義」と「演習問題」を行います。後半の演習問題の単元では「模擬試験」を行います。また、採点結果に対して誤答問題の解説を行い、学生各自の学習理解度の確認を行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	履修ガイダンス	電気機器組立て技能士に求められる専門分野について理解する。演習の学習方法を理解し、今後の学習に備える。			2				
2	(分野別学習1) 電気機器組立て一般	電気機器組立ての分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	電気電子工学 品質工学			
3	(分野別学習2) 電気	電気の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	電気電子工学			
4	(分野別学習3) 製図	製図の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	機械製図			
5	(分野別学習4) 機械工作法	機械工作法の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1	力学の基礎と機械のしくみ 機械材料と加工概論			
6	(分野別学習5) 材料	材料の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1				
7	(分野別学習6, 7) 安全衛生、関係法規	安全衛生と関係法規の分野について理解し、演習問題を解くことができる。			1				
8	第1回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
9	第2回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
10	第3回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
11	第4回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
12	苦手分野の分析と復習	これまでの総合問題より苦手分野を分析し、理解不十分な内容を補うことができる。			1				
13	第5回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
14	第6回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
15	第7回演習問題	全分野の総合問題(模擬試験問題)を解くことができる。			2				
事前学習	教科書の単元に関わる内容を読んで、不明な箇所などをまとめてください。								
事後学習	学習内容の整理と演習問題の誤答の復習を行ってください。								
教科書	最短攻略 技能検定 機械保全 電気系保全作業 学科・実技 -1・2級対応- 改訂新版、電気書院								
参考書									
成績評価の基準	定期試験(50%)、模擬試験結果(35%)、授業態度(15%)により総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の演習問題や模擬試験は次週までに答案を作成し提出してもらいます。								
備考	電気機器組立て技能検定の関連科目です。								

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
PE-MEE102 材料の強さと機械要素設計	PE-MEE102	選択	2	2	前期	鈴木 真人
		関連するディプロマポリシー番号	1,3	関連するカリキュラムポリシー番号		2
授業の概要						
我々の周りには自動車や工作機械など数多くの機械が存在し、これらの機械に力が作用した場合の強さや変形を力学的に正しく評価することは重要です。これら機械や構造物は一見複雑な形状をしていますが、部品単位では単純な棒や板として扱うことが可能です。この授業の前半ではそのような部材の強さや安全性、評価方法について力学的な取扱い方を学習し、後半ではより具体的な機械要素の設計について学習します。						
授業の目的						
この科目では機械の強さと変形に関する基礎的な知識や計算手法について学び、各種機械や構造物の設計との関わりについて理解することを目的とします。						
授業の進め方						
授業は解説や板書を中心とした講義形式で行います。						
授業の最初に前回の学習内容の課題(確認テスト)と解説を行い、学生各自の目標到達度の確認を行います。						
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後			
1	応力とひずみ	材料に加わる荷重と変形、その結果生ずる応力とひずみを理解し、基礎的な引張に関する応力とひずみの計算ができる。			1.5	2.5
2	応力-ひずみ線図	応力-ひずみ線図を見てその特徴について説明できる。 フックの法則より応力とひずみ、縦弾性係数の計算ができる。			1.5	2.5
3	せん断荷重	せん断荷重によるせん断応力、せん断ひずみ、横弾性係数の計算ができる。			1.5	2.5
4	演習 応力とひずみ	節末問題を中心とした応力とひずみに関する練習問題を解くことができる。			3.5	0.5
5	熱応力 材料の破壊と強さ	熱応力の計算ができる。 安全率を考慮した許容応力の計算ができる。			1.5	2.5
6	演習 热応力・許容応力	節末問題を中心とした応力とひずみに関する練習問題を解くことができる。			3.5	0.5
7	曲げ荷重	曲げ荷重を受けるはりの反力計算ができる。 はりに作用するせん断力と曲げモーメントの計算ができる			1.5	2.5
8	曲げ応力	せん断力図と曲げモーメント図を描くことができる。 曲げモーメントから曲げ応力を計算できる。			1.5	2.5
9	ねじり荷重	軸に生ずるねじり応力、ねじれ角の計算ができる。			1.5	2.5
10	ねじ	ねじの規格を適切な締め付けトルクを計算できる。			1.5	2.5
11	ボルトとナット	強度計算からボルトの大きさを決定できる。			1.5	2.5
12	軸	軸の強度計算から軸径の決定ができる。			1.5	2.5
13	ばね	板ばね、コイルばねのばね定数の計算ができる。			1.5	2.5
14	構造物	トラス構造物に作用する反力、内力、応力の計算ができる。			1.5	2.5
15	演習 まとめ	節末問題を中心とした機械要素に関する練習問題を解くことができる。			3.5	0.5
事前学習	事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。					
事後学習	教科書の読み直しやノート整理、例題などの確認を行うことで理解を深め、次回の確認テストの準備を行ってください。					
教科書	機械要素入門1・2、林洋次 監修、実教出版					
参考書	基礎材料力学、小泉堯 監修、養賢堂					
成績評価の基準	例定期試験(70%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(15%)、課題(15%)を総合的に評価します。					
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート課題を提出してもらうことがあります。					
備考	関数電卓を持参してください。本講義の受講には数学I、物理学I、機械力学のGPAが1.6以上必要です。					

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名				
PE-MEE103 流体の力学と熱エネルギー	PE-MEE103	選択	2	2	後期	牛田 晃臣／佐藤 大祐				
		関連するディプロマポリシー番号	1,3	関連するカリキュラムポリシー番号		2				
授業の概要										
流体力学は気体と液体に関わる力学を扱う学問であり、学術的・実用的に多くの分野で用いられていて自動車でも様々なところに利用されています。また、私たちの生活では様々な形態のエネルギーを使用していますが、特に流体と熱のエネルギーは、産業界は勿論我々の身近にも存在し、これを理解することが重要です。授業では流体力学と熱エネルギーの基本について学習します。										
授業の目的										
流体の力学では、必要な基礎事項を十分学習し理解した上で、流体の性質、圧力、パスカルの原理、粘度、ベルヌーイの定理、揚力などを理解してその基礎的問題が解けること、及び、自動車に関連する応用問題が解けることを目的とします。また、熱エネルギー(熱力学)では熱力学の第1、2法則、エンタルピ、エントロピーを学び、理解することを目指します。										
授業の進め方と学習成果のフィードバック										
下記の内容について板書による講義を中心に進め、簡単な実験も取り入れます。授業進行に伴い達成度確認を課題や小テストにより行い、それらの結果を返却し解説を行います。実験後はレポートの提出を義務付けます。小グループに分けグループ別の議論と発表を行います。										
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)				
		事前	事後							
1	流体力学とは	流体力学は何を対象としどのような目的と考えて発展して来たかを理解し説明することができる。			1 3	物理学				
2	圧力の定義・意味	圧力の定義を述べ、圧力の意味を理解し説明することができる。具体的な事象や問題により理解を深める。			1 3					
3	基礎的事項(1)	圧力の単位や基本単位系(SI 単位系)や力を理解し簡単な問題を解くことができる。			1 3					
4	基礎的事項(2)	べき指数による演算、単位の換算について学修する。この演算や換算に習熟し簡単な問題を解くことができる。			1 3					
5	パスカルの原理(1)	パスカルの原理を理解し、圧力による力の増幅を理解することができる。			1 3					
6	パスカルの原理(2)	パスカルの原理を用いた問題を解くことができる。			1 3					
7	圧力による力	タイヤの接地面積や水中に没したクルマのドアにかかる力を算定することができる。			1 3					
8	流体の性質	流体の定義、流体の種類、密度、粘度などの基本的性質を理解し、説明ができる。			1 3					
9	レイノルズ数	粘度と流動抵抗の関係を理解しこれに関する問題を解くことができる。レイノルズ数を求めることができる。			1 3	物理学				
10	管内流れ	流量、流速、層流と乱流の違いを理解し、レイノルズ数により層流と乱流の判別ができる。			1 3					
11	連続の式、ベルヌーイの定理	連続の式やベルヌーイの定理について理解しこれらを用いて流れの基本的性質や現象を説明できる			1 3					
12	流れと揚力に関する実験	水道の蛇口から流出する水の動態から層流と乱流を区別し、スプーンを利用して揚力を実感し、それらの説明ができる。			1 3					
13	課題とまとめ1	今迄学修してきた内容に関する「課題とまとめ1」では、これまでの学習課題の重点問題を理解し解ける。			1 3					
14	課題とまとめ2および温度と熱	課題とまとめ1の解答の説明を受け「課題とまとめ2」で更なる向上をする。温度と熱の違いを理解し説明できる。			1 3	物理学				
15	熱力学	熱力学の第1、第2法則、比熱を理解し説明できる。			1 3					
事前学習	事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。									
事後学習	教科書の読み直しやノートや配布物を基に授業の内容を復習してください。									
教科書	「流体の力学」須藤浩三、長谷川富市、白樺正高 著 コロナ社									
参考書										
成績評価の基準	試験(60%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(10%)、課題(30%)を総合的に評価します。									
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート課題を提出してもらうことがあります。									
備考	補講をすることがあります。									

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
機械材料と加工概論	PE-MEE104	選択	2	2	前期	岡田 龍哉			
		関連するディプロマポリシー番号		2	関連するカリキュラムポリシー番号	2			
授業の概要									
自動車には、金属をはじめとする様々な材料を多様な方法で加工して用いています。機械や装置の設計・製作には、目的とする機能を最大限に発揮させるために最適な材料が選定されており、製品・部品の生産・製造には、材料加工の領域である機械工作法の技術が使われています。機械材料の特徴や加工法を理解することは、品物を製品化する上で基本的な知識となります。本講義では、素材の製造法、組成や機械的性質などの基礎的な知識と材料の加工方法について学びます。									
授業の目的									
この講義では、機械製造技術者や自動車整備士に必要とされる機械材料に関する基礎的な知識と、材料加工及び製品・部品の製造に関する基礎的な生産技術に関する知識の習得を目的としています。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
授業は講義形式で行います。また、授業中に解説した内容に関する課題の報告書提出を行います。提出された報告書の記述内容を点検して次回授業時に返却します。報告書から学生各自の目標到達度の測定を行い、授業への取り組み方についてフィードバックしています。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	自動車ができるまで	自動車が完成するまでの製造工程の基礎を理解し、用いられる材料や加工に関する製造技術について、その概要が説明できる。			1	3			
2	材料の構造と性質	金属材料の結晶構造を理解して、結晶構造のモデルが説明できる。非金属材料の構造と特徴が説明できる。			1	3			
3	機械的性質	材料の機械的性質を調べる各種の試験法を理解し、試験法の特徴が説明できる(万能試験機、硬さ試験機その他)。			1	3			
4	合金の平衡状態図	二元合金系の平衡状態図を理解し、鉄-炭素系の平衡状態図について、その特徴と出現する金属組織が説明できる。			1	3			
5	熱処理	炭素鋼を対象とした熱処理法を理解し、焼入れ、焼戻し、焼なし、焼なまし操作と出現する金属組織の概要が説明できる。			1	3			
6	鉄鋼と鋳鉄(1)	鉄-炭素系の平衡状態図を参考に、炭素鋼の性質や金属組織を理解し、これらの特徴が説明できる。			1	3			
7	鉄鋼と鋳鉄(2)	鋳鉄の炭素の含有量や冷却速度による性質の違いを理解して、鋳鉄の種類や機械的性質の特徴が説明できる。			1	3			
8	非鉄金属材料	鉄以外の金属材料について、金属合金の機械的性質の特徴が説明できる。			1	3			
9	非金属材料	高分子材料を中心に、種類や加工方法、それらの一般的な特徴を理解して説明できる。			1	3			
10	鋳造法	各種の鋳造方法に関する基礎的な製造技術を理解し、説明できる。			1	3			
11	接合加工法	金属の溶接(ガス溶接、アーク溶接、特殊溶接)に関する基礎的な技術を理解し、説明できる。			1	3			
12	塑性加工	鍛造、圧延、プレス加工などの各種塑性加工法を理解し、基礎的な加工技術が説明できる。			1	3			
13	切削加工(1)	切削理論を理解し、その概要が説明できる。			1	3			
14	切削加工(2)	各種の切削加工機械の特徴を理解し、説明できる。			1	3			
15	まとめ	機械材料および機械加工に関する基礎的な知識をまとめ、材料の特徴に関連した使用目的や加工方法が説明できる。			1	3			
事前学習	事前に次回のテーマを示します。授業の理解がより深くなるよう、関連する箇所の下読みと疑問点の整理してください。								
事後学習	授業ノートの整理を行ってください。また、授業時に出された課題の報告書提出が必要です。								
教科書	機械材料入門、佐々木雅人、理工学社 機械工作入門、小林輝夫、理工学社								
参考書	自動車の製造と材料の話、広田民郎、グランプリ出版								
成績評価の基準	定期試験(70%)、提出課題(15%)、授業への積極的参加状況(15%)を総合して評価します。								
欠席の取り扱い	必要とする場合は補習を行い、課題レポートの提出を求めます。わからないところは次回授業までに質問に来てください。								
備考									

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
計測工学	PE-MEE105	(自)選	2	2	前期	齋藤 博
		(電)必				

授業の概要

計測技術は、産業界における技術の基礎を支える上で重要な役割を担っています。様々な専門分野の中で発展してきた技術であるため、計測原理は物理学、化学、電気工学、電子工学、生物学など、多岐にわたっています。ここでは一般的な科学的基礎知識をベースにした計測技術に関する用語、原理、センサ技術、計測装置などについて解説を行います。

授業の目的

自動車や産業用設備では、その性能を確実に実現するために、速度、温度、圧力などの様々な物理量を計測し、コンピュータを介して制御が行なわれています。また、長期間その性能を確保し、かつ安全に稼働させるために、機械の様々な状態を計測し、メンテナンスが行なわれています。ここでは一般的な物理量や状態を計測する技術について理解を深め、自動車や産業用設備の整備に必要な知識を修得することを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業は講義形式で行います。授業の最後にその単元のキーワードを提示します。事後学習でそのキーワードの解説をノートに書き込んで、理解を深めるようにして下さい。授業の要所ごとに小テストを行い、学生各自の学習理解度の確認を行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	イントロダクション	計測の役割と必要性を理解し、説明できる。		4	
2	計測の基礎1	計測の用語や単位、トレーサビリティを理解し、説明できる。	1	3	
3	計測の基礎2	データの統計処理や有効数字の計算ができる。	1	3	
4	物理量の測定1	長さ・角度の測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	物理学 I
5	物理量の測定2	形状・粗さの測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	機械製図
6	物理量の測定3	力・トルク・強度の測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	物理学 I
7	物理量の測定4	変位・速度・加速度の測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	
8	物理量の測定5	圧力・温度の測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	物理学 II
9	物理量の測定6	流体の測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	流体の力学と熱エネルギー
10	電気の測定	電圧・電流・抵抗の測定に関し、原理や特徴を理解し、説明できる。	1	3	自動車実験・実習 I
11	波形測定と周波数分析	オシロスコープ、周波数分析装置の特徴を理解し、説明できる。	1	3	
12	騒音・振動分析	騒音・振動分析の必要性を理解し、説明できる。	1	3	
13	非破壊検査	磁粉探傷器、超音波探傷器、AE測定等の非破壊検査の方法について理解し、説明できる。	1	3	
14	その他の計測器	サーモグラフィ、絶縁抵抗計、クランプ式電流計等の様々な計測器の特徴を理解し、説明できる。	1	3	
15	計測工学まとめ	計測工学で学習した原理、法則について理解し、説明できる。	1	3	

事前学習 教科書の単元に関わる内容を確認し、不明な箇所をまとめて下さい。

事後学習 各授業の最後にその単元のキーワードを提示します。ノートにキーワードの解説をまとめるようにして下さい。

教科書	計測工学入門、中村邦雄・石垣武夫・富井薰、森北出版
参考書	
成績評価の基準	定期試験(60%)、小テスト(30%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(10%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	その回のキーワードをノートにまとめて下さい。
備考	計測の基本を理解することはいろいろな場面で役に立ちます。

授業科目名	ナンパリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
保全工学	PE-MEE106	(自)選	2	2	前期	齋藤 博
		(電)必				
		関連するディプロマポリシー番号	1, 3	関連するカリキュラムポリシー番号	2	

授業の概要

保全とは、製品自体やものづくりに必要な製造設備の性能を安定させ、稼働時間を長く継続させると同時に、万一故障した時には修復を行い、製品、装置の保守管理を行うことです。また製品や設備が故障することなく性能が期待された期間、発揮されていることを信頼性と言います。即ち保全とは信頼性を確保するための方法でもあります。ここでは信頼性に関する基礎的な理論を学ぶと同時に、現場で保全を行うために必要な、個別の知識を分かりやすく解説します。

授業の目的

保全活動を行うためには、信頼性工学の理論を学ぶと同時に、製品や設備に使用される電気部品や機械部品固有の技術も学ぶ必要があります。ここでは信頼性工学の基礎的な理論を修得すると同時に、部品特有の故障形態や故障メカニズム、および点検のポイントについても学ぶことで、保全に必要な知識を身に付けることを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業は講義形式で行います。数回課題を出し、到達度を確認し、授業を進めます。返却された課題の結果に基づき自身の学習行動の見直しを行ってください。アクティブラーニングとしてグループ学習を行い、結果発表することでも、学習成果を確認します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	信頼性と安全性	品質、信頼性、安全性の範囲を理解し、説明できる。		4	
2	耐久性	信頼度とMTTF、平均故障率とMTBFなどの用語の意味を理解し、説明できる。バスタブ曲線の内容を理解し、説明できる。	1.5	2.5	
3	保全性	保全度とMTTRなどの用語の意味を理解し、説明できる。 保全計画、保全記録について理解し、説明できる。	1.5	2.5	
4	未然防止1	FMEAの書き方を理解し、内容を読むことができる。	1.5	2.5	
5	未然防止2	FTAの書き方を理解し、内容を読むことができる。	1.5	2.5	
6	安全設計	本質安全、機能安全、表示安全の内容を理解し、説明できる。 フェイルセーフ、フルプルーフの内容を理解し、説明できる。	1.5	2.5	
7	グループ学習1	講義前半の保全性に関する課題について、グループ討議を行った後に、その内容を発表できる。	3	1	
8	故障モード1	一般環境下(応力、温度、湿度、電源等)での故障メカニズムを理解し、説明できる。	1.5	2.5	
9	故障モード2	特殊環境下(ガス、ソルベント、電解質、電界等)での故障メカニズムを理解し、説明できる。	1.5	2.5	
10	信頼性試験	信頼性試験の種類について内容を理解し、説明できる。	1.5	2.5	
11	誘導電動機の点検	誘導電動機の点検ポイント(外観、軸受、巻線、負荷電流)について理解し、説明できる。	1.5	2.5	電気電子工学II
12	電磁接触器、遮断機の点検	電磁接触器、遮断機の点検ポイントについて理解し、内容を説明できる。	1.5	2.5	
13	装置の異常とその原因	装置の異常原因(短絡、漏電、地絡、断線、欠相、瞬停、接触不良、高調波等)について理解し、説明できる。	1.5	2.5	
14	グループ学習2	講義後半の電気部品の個別技術に関する課題について、グループ討議を行った後に、その内容を発表できる。	3	1	
15	保全工学のまとめ	保全工学で学習した信頼性の基礎知識、電気部品固有技術の知識を理解し、保全活動について説明できる。		4	

事前学習 事前に教科書の単元に関わる内容を読み、不明な箇所や質問事項などを確認してください。

事後学習 課題が出されるので、事後学習で教科書や配付資料で課題について調べ、翌週の授業時に提出してください。
授業で示されたキーワード、課題の内容をノートにまとめる習慣を付けてください。

教科書	品質管理と品質保証、信頼性の基礎、真壁肇・鈴木和幸、日科技連
参考書	
成績評価の基準	定期試験(50%)、課題の提出状況(20%)、グループ学習での積極性(30%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した場合には課題を提出してもらうことがあります。
備考	機械保全技能検定と電気機器組立技能検定の関連科目です。

授業科目名	ナンバリング	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名	
品質工学	PE-MEE107	(自)選	2	2	後期	斎藤 博	
		(電)必					

授業の概要

品質とは期待された要求特性が満たされているレベルを言い、製品などの物だけではなく、サービスや仕事などあらゆるものに存在しています。ここでは品質を確保するための活動である品質管理(QC)の基礎や、統計的手法を用いて行う統計的品質管理(SQC)の基礎を分かりやすく解説します。更に、企業に於ける品質管理に結びつく、様々な管理活動についても解説します。

授業の目的

品質管理活動を行うためには品質管理手法や、統計的品質管理の基礎理論を学ぶことと、様々な管理活動の知識も必要となります。ここでは統計的品質管理の基礎理論を踏まえた品質管理技術や知識を修得すると同時に、企業における様々な管理活動についても学ぶことで、現場で品質管理活動を行うのに必要な知識を身に着けることを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業は講義形式で行います。数回課題を出し、到達度を確認し、授業を進めます。返却された課題の結果に基づき自身の学習行動の見直しを行ってください。アクティブラーニングとしてグループ学習を行い、結果発表することでも、学習成果を確認します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	品質管理	品質管理の変遷(QC, TQC, TQM)について理解し、説明することができる。		4	
2	グラフ、チェックシート	QC七つ道具の中の、グラフ、チェックシートについてそれぞれの特徴や違いを理解し、作成することができる。	1.5	2.5	
3	パレート図	パレート図の特徴を理解し、作成・使用することができる。	1.5	2.5	
4	特性要因図	特性要因図の特徴を理解し、作成・使用することができる。	1.5	2.5	
5	散布図	散布図の特徴を理解し、作成・使用することができる。	1.5	2.5	
6	ヒストグラム	ヒストグラムの特徴を理解し、作成・使用することができる。	1.5	2.5	
7	正規分布	正規分布の特徴を理解し、パラメータを計算し、データの内容を説明することができる。	1.5	2.5	
8	管理図	計量値／計数値、2種類の管理図を理解し、内容を説明することができる。	1.5	2.5	
9	グループ学習1	与えられた課題に対して、グループで討議しながら、問題を分析、検討することができる。	3	1	
10	グループ学習2	グループで討議した分析結果をまとめて、発表することができる。	3	1	
11	検査	検査の種類(受入／工程／出荷検査、全数／抜取検査)や内容について理解し、説明することができる。	1.5	2.5	
12	工程解析と改善	QCストーリーの内容を理解し、工程解析手順、改善方法、標準化の手順を説明できる。	1.5	2.5	
13	5S/QCD	企業における5S運動、QCD(品質、コスト、納期)について内容を理解し、説明できる。	1.5	2.5	
14	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーについて内容を理解し、説明できる。	1.5	2.5	
15	品質工学のまとめ	品質工学で学習した品質管理手法や管理活動の基礎知識を理解し、説明することができる。	1.5	2.5	

事前学習 事前に教科書の単元に関わる内容を読み、不明な箇所や質問事項などを確認してください。

事後学習 課題が出されるので、事後学習で教科書や配付資料で課題について調べ、翌週の授業時に提出してください。
授業で示されたキーワード、課題の内容をノートにまとめる習慣を付けてください。

教科書	品質管理と品質保証、信頼性の基礎、真壁肇・鈴木和幸、日科技連
参考書	
成績評価の基準	定期試験(50%)、課題の提出状況(20%)、グループ学習での積極性(30%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した場合には課題を提出してもらうことがあります。
備考	機械保全技能検定と電気機器組立技能検定の関連科目です。

2. 専攻科自動車工学専攻

授業科目名		必・選	単位	学年	学期	担当教員名			
自動車システム工学 I		必修	2	専1	前期	吉田 勝哉*			
授業の概要									
自動車を構成している各装置や部品について、その結合の方法も含め常に新しい技術が模索されています。この授業では自動車のパワーソースについて、教科書に沿って日本国内で採用されている先進技術を解説します。									
授業の目的									
一級自動車整備士として必要な先進技術の習得と、現在使われている技術についての現状、課題と、将来への展望が説明できることを到達目標とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
講義形式で教科書を使用し、板書を中心に行います。各章毎に確認テストを行い採点後、理解不足と思われる問題はレポート提出により学習理解度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	ハイブリッド車の概要	ハイブリッド車において、システムの違いや特徴を説明できる。			事前 2	事後 2			
2	ハイブリッド車の構造・機能	制御システムと動力分割機構について理解し、パワー系統と回生エネルギー制御について説明できる。			2	2			
3					2	2			
4	ハイブリッド車の点検・整備	ハイブリッド車の整備を安全に行える。			2	2			
5					2	2			
6	圧縮天然ガス車の概要と構造・機能	概要、構造、機能について説明できる。			2	2			
7	圧縮天然ガス車の燃料系制御システムと点検・整備、関係法令	圧縮天然ガス車の燃料供給系と噴射制御について理解し、説明ができる。			2	2			
8					2	2			
9		圧縮天然ガス車の整備を安全に行える。			2	2			
10	筒内噴射式ガソリンエンジンの概要	筒内噴射式ガソリンエンジンの特徴を説明できる。			2	2			
11	筒内噴射式ガソリンエンジンの高压燃料システム	高压燃料システムの構造・作動を説明できる。			2	2			
12		シリンダ内混合気形成のプロセスを知り、説明できる。			2	2			
13	コモン・レール式高压燃料噴射システムの概要	コモン・レール式高压燃料噴射システムの特徴について説明できる。			2	2			
14	コモン・レール式高压燃料噴射システムの高压燃料噴射システムと燃料噴射制御	コモン・レール式高压燃料噴射システムにおける高压燃料システムの構造・作動について説明できる。			2	2			
15		コモン・レール式高压燃料噴射システムの燃料噴射システムについて理解し説明できる。			2	2			
16	定期試験				2	2			
事前学習	ガソリン、ジーゼルエンジンの基礎知識を常に活用できるように整理しておく。								
事後学習	授業内容をノートに整理し、まとめておく。								
教科書	一級自動車整備士 自動車新技術、(社)日本自動車整備振興会連合会								
参考書	適宜、案内します。								
成績評価の基準	定期試験(50%)、各章毎の確認テスト(30%)、授業態度(20%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	必要と認める場合は、補習を行います。								
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を修得することが必要です。 *自動車整備の実務経験あり								

授業科目名	必・選	単位	学年	学期	担当教員名
自動車システム工学Ⅱ	必修	2	専1	前期	高野 剛

授業の概要

シャシ分野を中心とした研究段階を含めた新技術の動向について解説し、市販車に近年導入されている新技術である無段変速機(CVT)、車両安定制御装置、SRS エアバッグ装置及びプリテンショナシートベルトについて、その性能、原理、機能及び構造について学びます。

授業の目的

自動車新技術のシャシ構造に関する分野(無段変速機、車両安定制御装置、SRS エアバッグ装置及びプリテンショナシートベルト)の構造・機能・点検・整備・修理のための技術知識の習得・理解を目的としています。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業は講義及びゼミ(輪講)形式で行います。また、単元ごとに小テスト及び課題を行い、学生各自の学習理解度の確認を行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	新技術の動向 1	最先端の自動車新技術の動向を理解して車両技術の一部としての新技術の位置づけを理解し説明ができる。	1	3	
2	新技術の動向 2	最先端のシャシに関する新技術の動向を理解し説明できる。	1	3	
3	無段変速機 1	無段変速機(CVT)を構成する変速機構の構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
4	無段変速機 2	無段変速機(CVT)を構成する変速機構のスチールベルト、ブリーリの構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
5	無段変速機 3	無段変速機(CVT)を構成するトルクコンバータ、油圧制御機構の構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
6	無段変速機 4	無段変速機(CVT)を構成する制御機構の構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
7	無段変速機 5	無段変速機の構造と機能を理解し、点検・整備・修理のための技術知識を修得する。	1	3	
8	車両安定制御装置 1	車両安定制御装置を構成する四輪アンチロックブレーキ装置(ABS)の構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	高度自動車実験・実習
9	車両安定制御装置 2	車両安定制御装置を構成するブレーキアシスト装置、トラクションコントロール装置の構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
10	車両安定制御装置 3	車両安定制御装置を構成するビーグルスタビリティコントロール装置(VSCS)の構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
11	車両安定制御装置 4	車両安定制御装置の構造と機能を理解し、点検・整備、修理のための技術知識を理解する。	1	3	高度自動車実験・実習
12	車両安定制御装置 5	車両安定制御装置の構造と機能を理解し、点検・整備・修理のための技術知識を修得する。	1	3	
13	SRS エアバッグ及びプリテンショナシートベルト 1	SRS エアバッグの構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	高度自動車実験・実習
14	SRS エアバッグ及びプリテンショナシートベルト 2	プリテンショナシートベルトの構造と機能を理解し説明ができる。	1	3	
15	SRS エアバッグ及びプリテンショナシートベルト 3	SRS エアバッグ及びプリテンショナシートベルトの構造と機能を理解し、点検・整備・修理のための技術知識を修得する。	1	3	高度自動車実験・実習
16	まとめ	シャシ新技術に関する構造・機能・点検・整備、修理のための技術知識を理解する。	1	3	

事前学習 次回の学習内容範囲の予習として、テキスト及び配布資料を読んでおく。

事後学習 授業内容をノートに整理し、理解を深める復習を行う。

教科書	一級自動車整備士自動車新技術、国土交通省自動車交通局監修、日本自動車整備振興会連合会配布資料プリント
参考書	
成績評価の基準	定期試験(60%)、課題及び小テスト(20%)、授業態度(20%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席をした場合は、必ず補習を行ないます。
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を取得することが必要です。

授業科目名		必・選	単位	学年	学期	担当教員名			
自動車電気電子工学		必修	2	専1	前期	脇田 喜之			
授業の概要									
近年の自動車は、安全運転と快適な環境のために、高度な電装品と電子制御装置が数多く装備されるようになりました。その整備のためにも電子回路と電子制御の専門知識が必要不可欠です。この授業では、エンジン電子制御やシャシ電子制御の授業で、自動車で利用している電子技術の基礎知識について説明します。									
授業の目的									
整備士に必要な電子技術の知識として、ECUの入出力回路、テスタやオシロスコープなどの計測技術、DC ブラシモータのPWM制御、ステッピング・モータの駆動制御について、理解することが目的です。特に、直感的に理解の困難な、DC ブラシモータのPWM制御、ステッピング・モータの駆動制御については実験教材を用いて理解を深めます。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
基本的に講義形式で解説を行います。また、理解を深めるために教材を用いて実験を行います。それぞれの実験結果についてレポートを作成し、学習の目標到達度を確認します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
事前	事後								
1	ECUのアナログ入力回路	ポテンショメータ等のリニア信号センサをECUに入力した場合の入力電圧の計算法を理解し、実際に計算することができる。			2	2			
2	ECUのデジタル入力回路	車速パルス等の周波数信号センサをECUに入力した場合のパルス周波数の計算法を理解し、実際に計算することができる。			2	2			
3	ECUの出力回路	PWM信号をECUからリニア駆動回路に出力した場合の出力平均電圧の計算法を理解し、実際に計算することができる。			2	2			
4	テスタの入力インピーダンスと計測誤差	高抵抗の分圧回路をアナログテスタとデジタルテスタで計測した場合の誤差について理解し、実際に計算することができる。			2	2			
5	実験：ECUの入出力回路、テスタの計測誤差	第1～4回の内容について実験を行うことにより理解を深めて、説明をすることができる。			2	2			
6	受動回路の過渡応答特性	ソレノイドバルブやイグニションコイルの過渡応答波形の計算法を理解し、実際に遅れ時間(時定数)を計算することができる。			2	2			
7	実験：デジタル・オシロスコープのトリガ計測法	デジタル・オシロスコープによる過渡現象のトリガ計測法を理解し、実際に過渡現象を記録することができる。			2	2			
8	モータ駆動回路	Hブリッジ回路によるモータ駆動回路の構成、作動、機能について理解し、説明することができる。			2	2			
9	PWM制御によるモータの回転速度制御	Hブリッジ回路をPWM駆動することによるモータの回転速度制御の方法について理解し、説明することができる。			2	2			
10	実験：DCブラシモータの回転速度制御	Hブリッジ回路のPWM駆動によるモータの回転速度制御について、実験により理解を深めて、説明をすることができる。			2	2			
11					2	2			
12	ステッピング・モータの構造	ステッピング・モータのコイルの構成、作動、機能について理解し、説明することができる。			2	2			
13	ステッピング・モータの駆動方法	ステッピング・モータの1相駆動、2相駆動、1～2相駆動の各方式について理解し、説明することができる。			2	2			
14	実験：ステッピング・モータの駆動実験	ステッピング・モータの各駆動方式による、駆動トルク、拘束トルク、最高回転速度を、実験により比較することで理解を深め、説明することができる。			2	2			
15					2	2			
16	まとめ	これまでの学習内容について疑問点を解消し、理解を深めることができる。			4				
事前学習	事前学習が必要な週は、指示された参考書や参考資料を読んでおいて下さい。								
事後学習	講義ではノートの整理を行って下さい。実験では指示に従ってレポートを作成して下さい。								
教科書	一級自動車整備士エンジン電子制御装置、日本自動車整備振興会連合会 一級自動車整備士シャシ電子制御装置、日本自動車整備振興会連合会								
参考書	必要に応じて資料を配布します。								
成績評価の基準	授業態度および実験態度(50%)、レポート評価(50%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した場合は、必ず補習等を行います。								
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を修得することが必要です。								

授業科目名	必・選	単位	学年	学期	担当教員名
自動車応用力学	必修	2	専1	後期	鈴木 真人

授業の概要

この講義は二級自動車整備士資格を取得し、自動車の構造・機能について十分な知識を有する者を対象に、自動車の性能を力学的観点から解説し、理解を深めます。

授業の目的

自動車の力学的特性について理解し、説明できること、また、自動車の力学的特性値が運動性能に与える影響を、シミュレーション結果を用いて具体的に説明できることを目的とします。

授業の進め方

講義形式で行い、必要に応じて演習課題を行ないます。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	自動車に作用する力	自動車に作用する力を分類し、説明できる。	1.5	2.5	
2	空気力学 ボディ形状	抗力係数の意味を理解し、抗力を計算できる。 車体形状が空力に及ぼす影響を説明できる。	1.5	2.5	
3	空気力学 走行安定性	横風安定性について説明ができる。	1.5	2.5	
4	タイヤの力学 転がり抵抗	タイヤに働く力を理解し、説明できる。 転がり抵抗係数から転がり抵抗を計算できる。	1.5	2.5	
5	タイヤの力学 制動力と駆動力	タイヤのすべり比を理解し、計算することができる。 タイヤの摩擦係数より制動力・駆動力を計算できる。	1.5	2.5	
6	運動性能 走行抵抗	走行抵抗を理解し、計算することができる。	1.5	2.5	
7	運動性能 動力性能	自動車の諸元から走行速度、駆動力の計算ができる。 必要とする最高速度から適切な変速比、終減速比を決定できる。	1.5	2.5	
8	運動性能 走行性能線図	自動車の諸元とエンジン性能曲線から走行性能線図を描くことができる。	1.5	2.5	
9	運動性能 加速性能	加速性能線図の説明ができる。 走行性能線図から各変速段における最大加速度を計算できる。	1.5	2.5	
10	運動性能 旋回性能	諸元より重心高さを求め、旋回時の横転速度を計算できる。 旋回半径から最大旋回速度の計算ができる。	1.5	2.5	
11	惰行性能	惰行性能試験方法を理解し説明することができる。	1.5	2.5	
12	シミュレーション1 計算方法	表計算によるシミュレーション計算方法を理解する。	1.5	2.5	
13	シミュレーション2	自由落下問題を題材にシミュレーション計算ができる。	1.5	2.5	
14	シミュレーション3 走行性能	実車の諸元より車のシミュレーション計算ができる。	1.5	2.5	
15	シミュレーション4 カスタマイズ	実車の諸元をカスタマイズし、シミュレーション結果よりその影響について説明ができる。	1.5	2.5	
16	まとめ	自動車に働く力とその結果生ずる運動について理解し、図表や計算結果に基づいて総合的に説明することができる。	3	1	

事前学習 事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。

事後学習 教科書の読み直しやノート整理、例題・問題の確認を行うことで理解を深め、次回の確認課題の準備を行ってください。

教科書	自動車工学、自動車工学編集委員会、東京電機大学出版局
参考書	二級ガソリン自動車・二級ジーゼル自動車シャシ編、(社)日本自動車整備振興会連合会
成績評価の基準	例定期試験(70%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(15%)、課題(15%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問してください。 必要な場合はレポート課題を提出してもらうことがあります。
備考	一級整備士の資格を取得するためには、この授業の単位を修得することが必要です。関数電卓を持参してください。

授業科目名		必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
エンジン制御工学 I		必修	2	専1	前期	高橋 和夫*
授業の概要						
エンジン電子制御装置の故障診断を行う為には、電気・電子回路の基礎知識と計測技術及びエンジン制御システムについてバランス良く理解し、その上で故障診断手法を理解する必要があります。そこで本講義では、電気・電子回路の基礎とその計測技術、そしてエンジン電子制御装置の電源回路とセンサ回路の診断手法について解説します。						
授業の目的						
エンジン電子制御装置の電源回路及びセンサの故障診断の理論を理解し、説明できることを目的とします。						
業の進め方と学習成果のフィードバック						
授業の始めに前回の復習を行い、次にその回で計画されている講義を行い、ディスカッションを通じて理解を深めます。						
授業の要所ごとに課題を提出し、学生各自の学習理解度の確認を行います。						
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)
		事前	事後			
1	電気回路概要	直列接続回路と並列接続回路を活用した制御回路を理解し説明できる。			2	2
2	電気回路故障	断線と短絡の定義を理解し説明できる。また、正常時と各故障モードでの電圧分布を理解し、原因箇所が推定できる。			2	2
3	電気・電子回路の測定技術				2	2
4		計測対象の回路に最適なサーキット・テストを選択できる。分解能、確度、クレスト・ファクタの計算ができ、正しい要求精度で計測できる。			2	2
5		内部抵抗を考慮した分圧回路、分流回路の計測や、電流、抵抗、半導体それぞれの測定方法が理解できる。			2	2
6		対象とする信号形態(速度、周期等)に合わせた最適な電圧／時間／トリガー等の設定原理が理解できる。			2	2
7		信号形態と測定方法について理解できる。			2	2
8		外部診断器の基本機能及び、外部診断器を用いたセンサ、ECU等の故障診断原理について理解し説明できる。			2	2
9					2	2
10	電子制御装置の構造・機能・点検	電子制御装置のシステム・ブロックが理解できる。また、バッテリ電圧等を適切に点検する原理を理解し説明できる。			2	2
11	センサの構造・機能・点検				2	2
12					2	2
13		各種センサの信号形態とその特徴、異常検知原理と範囲、点検方法について理解し説明できる。			2	2
14					2	2
15					2	2
16	定期試験	計測技術、エンジン電子制御の概要とセンサ回路の点検方法が理解し説明できる。			2	2
事前学習		事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。				
事後学習		教科書を配布試料等と併せて再確認をしてください。				
教科書		一級自動車整備士 エンジン電子制御装置、(一社)日本自動車整備振興会連合会				
参考書		各計測機器メーカーの取扱説明書、各自動車メーカーの修理書など適宜指示します。				
成績評価の基準		定期試験(50%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・反答)など(20%)、課題(30%)を総合的に評価します。				
欠席の取り扱い		欠席した場合は、必ず補習を行ないます。必要な場合はレポート課題を提出してもらうことがあります。				
備考		一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を取得することが必要です。 *自動車整備の実務経験あり				

授業科目名	必・選	単位	学年	学期	担当教員名
エンジン制御工学Ⅱ	必修	2	専1	前期	坂井 淳

授業の概要

エンジン電子制御装置の故障診断を行う為には、電気・電子回路の基礎知識と計測技術及びエンジン制御システムについてバランス良く理解し、その上で故障診断手法を理解する必要があります。そこで本講義では、エンジンの電子制御に用いられているアクチュエータの構造と作動、電子制御化されたエンジンの点検・整備手順とその故障診断手法について解説します。

授業の目的

エンジン制御のためのアクチュエータの構造と作動を理解し、回路、センサ、アクチュエータ別に、点検・整備の手順とその故障診断ができるようになることが目的です。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

授業の始めに前回の復習を行い、次にその回で計画されている講義を行い、ディスカッションを通じて理解を深めます。

授業の要所ごとに課題を提出し、学生各自の学習理解度の確認を行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	アクチュエータの構造・機能・点検	正常状態での制御の基本を理解し説明できる。	2	2	高度自動車実験・実習
2			2	2	
3			2	2	
4			2	2	
5		各アクチュエータの構造と機能を理解し説明できる。 各アクチュエータの異常検知とその範囲について理解し説明できる。	2	2	
6		各アクチュエータの点検方法について理解し説明できる。	2	2	
7			2	2	
8			2	2	
9			2	2	
10	通信信号	CAN 通信の概要と点検方法について理解し説明できる。	2	2	基礎自動車工学Ⅱ
11			2	2	
12	ECU の制御	各センサからの情報によって、ECU がどの様にエンジンを制御しているのかを理解し説明できる。	2	2	自動車実験・実習
13			2	2	
14	警告灯点灯時、無点灯時の点検と整備	切り分け法などを用いた、現象を再現できる点検方法を理解し説明できる。	2	2	
15			2	2	
16	定期試験	アクチュエータの構造・機能・点検、CAN 通信、ECU の制御、高度故障診断について理解し説明できる。	2	2	
事前学習	事前に教科書を読み、授業内容や質問事項などを確認してください。				
事後学習	教科書を配布試料等と併せて再確認をしてください。				
教科書	一級自動車整備士 エンジン電子制御装置、(一社)日本自動車整備振興会連合会				
参考書	各計測機器メーカーの取扱説明書、各自動車メーカーの修理書など適宜指示します。				
成績評価の基準	定期試験(50%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(20%)、課題(30%)を総合的に評価します。				
欠席の取り扱い	欠席をした場合は、必ず補習を行ないます。必要な場合はレポート課題を提出してもらうことがあります。				
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を取得することが必要です。				

授業科目名		必・選	単位	学年	学期	担当教員名					
シャシ制御工学 I		必修	2	専1	前期	脇田 喜之					
授業の概要											
シャシ電子制御装置では、シャシで利用されている電子制御技術において、ECUとセンサおよびアクチュエータとの連携について、詳細を学習します。そして、これらが故障した際の診断手法について学習します。特にこの授業では、まずセンサおよびアクチュエータの基本を、次に電子制御式オートマティック・トランスマッisionを学習します。また、車両の振動・騒音理論の概要と、具体的な振動・騒音防止技術についても学習します。											
授業の目的											
シャシ電子制御の基礎知識として、センサおよびアクチュエータの駆動回路の理論が理解できることを目的とします。特に、電子制御式オートマティック・トランスマッisionにおける、通常制御およびフェールセーフ制御の内容、高度診断技術について理解することを目的とします。また、振動・騒音の防止技術を理解することも目的の一つです。											
授業の進め方と学習成果のフィードバック											
教科書を解説し、回路の作動と、故障の検知について基礎知識をしっかりと押さえます。また、単元ごとに演習問題を出題し、目標の到達度を確認します。											
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)					
		事前	事後								
1	導入編	センサの信号方式として、論理信号、リニア信号、周波数信号の機能を理解し、説明することができる。			2	2					
2	①三種類のセンサ信号方式	アクチュエータの駆動方式として、スイッチング駆動、リニア駆動の機能を理解し、説明することができる。			2	2					
3	②二種類のアクチュエータ駆動方式	正常時および異常時の、回路の電圧分布および電流経路について理解し、説明することができる。			2	2					
4	③回路の動作状態	ECUが異常を検知する方法、および回路の点検方法について理解し、説明することができる。			2	2					
5	④回路の点検方法	ECATの構成と機能、通常制御およびフェールセーフ制御について理解し説明することができる。			2	2					
6	電子制御式オートマティック・トランスマッision (ECAT)	ECATのセンサおよびセンサ回路の回路構成、機能について理解し、説明することができる。			2	2					
7	①ECATの構成・制御	ECATのセンサ回路の異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。			2	2					
8	②センサの構造・機能	ECATのアクチュエータおよびアクチュエータ駆動回路の回路構成、機能について理解し、説明することができる。			2	2					
9	③センサの異常検知方法	ECATのアクチュエータ駆動回路の異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。			2	2					
10	法	ECATの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。			2	2					
11	④アクチュエータの構造・機能	ECATの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。			2	2					
12	⑤アクチュエータの異常検知方法	ECATの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。			2	2					
13	⑥高度故障診断の方法	ECATの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。			2	2					
14	振動・騒音	振動・騒音の発生、伝達の原理、および、その量の表し方を理解し、計算することができる。			2	2					
15	①振動・騒音の基礎知識	振動・騒音の計測方法を理解し、説明できる。			2	2					
16	②振動・騒音の計測	エンジン各部の振動・騒音の発生源を理解し、エンジンの作動に対する振動周波数を計算することができる。			2	2					
17	③エンジンの振動・騒音の低減技術	シャシ各部の振動・騒音の発生源を理解し、エンジンの作動に対する振動周波数を計算することができる。			2	2					
18	④シャシの振動・騒音の低減技術	ボデー各部の振動・騒音の発生源を理解し、エンジンの作動に対する振動周波数を計算することができる。			2	2					
19	⑤ボデーの振動・騒音の低減技術	ボデー各部の振動・騒音の発生源を理解し、エンジンの作動に対する振動周波数を計算することができる。			2	2					
20	定期試験	ECAT、振動・騒音の全般において、高度故障診断の方法を理解し、説明することができる。			4						
事前学習		学習範囲の教科書を読むだけでなく、回路図をノートに書き写し、電圧分布を検討する等の学習を行って下さい。									
事後学習		資格試験の過去問題を解答し、学習内容の到達度を確認して下さい。									
教科書	一級自動車整備士 シャシ電子制御装置、日本自動車整備振興会連合会										
参考書	一級自動車整備士 エンジン電子制御装置、日本自動車整備振興会連合会										
成績評価の基準	授業態度(20%)、定期試験(80%)を総合評価します。										
欠席の取り扱い	欠席した場合は、必ず補習等を行います。										
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を修得することが必要です。										

授業科目名	必・選	単位	学年	学期	担当教員名
シャシ制御工学Ⅱ	必修	2	専1	後期	坂井 淳

授業の概要

シャシ電子制御装置は、対象とする装置が広範囲にわたりますが、この授業では、電動式パワー・ステアリング、アンチロック・ブレーキ・システムおよびオート・エア・コンディショナを対象に学習を行います。特にこの授業では、センサ回路とアクチュエータ回路の点検方法と総合的な故障診断手法について網羅的に学習を行います。

授業の目的

それぞれの装置に固有の駆動回路、特に電動式パワー・ステアリングのセンサ回路、オート・エア・コンディショナの駆動回路等について、通常制御およびフェールセーフ制御の内容、高度診断技術について理解することを目的とします。また、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法について理解し、説明できることを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

教科書を解説し、回路の作動と、故障の検知について基礎知識をしっかりと押さえます。また、単元ごとに演習問題を出題し、目標の到達度を確認します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	電動式パワー・ステアリング(EPS) ①EPSの構成・制御 ②センサの構造・機能・異常検知方法 ③アクチュエータの構造・機能・異常検知方法 ④高度故障診断の方法	EPSの構成と機能、通常制御およびフェールセーフ制御について理解し説明することができる。	2	2	シャシ構造Ⅱ (操舵装置)
2		EPSのセンサ回路、特に各種トルクセンサ回路について、回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
3		EPSのアクチュエータ駆動回路の回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
4		EPSのアクチュエータ駆動回路の回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
5		EPSの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。	2	2	
6	アンチロック・ブレーキ・システム(ABS) ①ABSの構成・制御 ②センサの構造・機能、異常検知方法 ③アクチュエータの構造・機能・異常検知方法 ④高度故障診断の方法	ABSの構成と機能、通常制御およびフェールセーフ制御について理解し説明することができる。	2	2	シャシ構造Ⅱ (制動装置)
7		ABSのセンサ回路の回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
8		ABSのアクチュエータ駆動回路の回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
9		ABSの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。	2	2	
10		A/Cの構成と機能、通常制御およびフェールセーフ制御について理解し説明することができる。	2	2	自動車電装Ⅱ (エアコンディショナ)
11	オート・エア・コンディショナ(A/C) ①A/Cの構成・制御 ②センサの構造・機能、異常検知方法 ③アクチュエータの構造・機能・異常検知方法 ④高度故障診断の方法	A/Cのセンサ回路の回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
12		A/Cのアクチュエータ駆動回路、特に各種理サーチュレーション・アクチュエータ駆動回路の回路構成、機能、異常検知範囲、異常検知方法について理解し、説明することができる。	2	2	
13		A/Cの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。	2	2	
14		A/Cの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。	2	2	
15		A/Cの故障探求において、ダイアグノーシス・コードを持つ場合および持たない場合の故障診断方法を理解し、説明できる。	2	2	
16	まとめ	EPS、ABS、A/Cの全般において、高度故障診断の方法を理解し、説明することができる。	4		

事前学習 学習範囲の教科書を読むだけでなく、回路図をノートに書き写し、電圧分布を検討する等の学習を行って下さい。

事後学習 資格試験の過去問題を解答し、学習内容の到達度を確認して下さい。

教科書	一級自動車整備士シャシ電子制御装置、日本自動車整備振興会連合会
参考書	適宜、参考資料や演習問題を配付します。
成績評価の基準	授業態度(40%)、レポート課題(60%)を総合評価します。
欠席の取り扱い	欠席した場合は、必ず補習等を行います。
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を修得することが必要です。

授業科目名		必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
高度総合診断 I		必修	1	専1	前期	市野瀬 和正			
授業の概要									
自動車整備士が担う業務の中に、自動車ユーザーの保守管理を支援するための接客対応があります。ここでは、整備工場における接客時の基本的な応対の流れ(予約、受付、問診、診断、見積もり、作業管理、作業進行、整備完了、整備内容説明、引渡し納車、フォローアップ)について解説し、整備内容説明についてはロールプレイングを行います。									
授業の目的									
自動車ユーザーの整備依頼に対して、的確で分かりやすい情報を提供するために必要な、サービス役務の基本を理解することと、整備結果の内容説明に必要なスキルを身につけることを目的とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
先回までの復習と今回の授業内容を提示した後に講義に入ります。学習内容の到達度を測る為に、課題、試験等に対するフィードバックを実施します。口述試験を想定したロールプレイングや演習も行います。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	ガイダンス	道路運送車両法の構成、サービス産業の概要と自動車整備事業の成り立ちや現在の状況を理解する。			1	1			
2	サービス役務の基本	サービス役務の基本の内、予約時と予約済ユーザーの受付における留意点について理解し説明出来る。			1	1			
3		受付時の留意点の内、ユーザーに対する話し方、ユーザー対応の基本及び対応時の禁句等について理解し説明出来る。			1	1			
4		問診時の留意点の内、ユーザー心理を理解した上で心構えや問診の基本項目を理解し実際のロープレを行うことが出来る。			1	1			
5		診断時の留意点の内、故障の有無を見極めてユーザーに対応することの重要性を理解し説明出来る。			1	1			
6		見積もり作成時、法律により概算見積書を発行する場合やユーザー視点で提示する事を理解し発行出来る。			1	1			
7		具体的な見積書を作成する時、作業工賃と部品代、その他手数料などから構成されていることを理解し発行出来る。			1	1			
8		見積書作成時、作業工賃が重複している場合の工賃請求の仕方を理解し見積書を作成出来る。			1	1			
9		作業管理を行う時、1台毎と工場全体の入庫台数管理を行うことの重要性を理解し説明出来る。			1	1			
10		作業進行、整備完了時の留意点として、中間点検の必要性や完成点検から引渡し迄ダブルチェックの重要性を理解する。			1	1			
11		引渡し納車時、整備内容説明のポイントを理解しユーザーに整備内容説明を行うことが出来る。			1	1			
12	ロールプレイングの実践	フォローアップ時の留意点を理解して実際にロープレを行うことで、実践力を身につけることが出来る。			1	1			
13		口述試験対策として、問診と整備説明のロープレを行い、時間内に行う簡潔な話法を理解し、説明出来る。			1	1			
14	自動車の改造に対する対処と安全の確保	具体的な不正改造の他、構造変更について理解し説明することが出来る。			1	1			
15	まとめ	今まで学習して高度診断 I の考え方、留意点について理解し説明出来る。			1	1			
16	定期試験				2				
事前学習	事前に教科書や配布資料に目を通すことや2回目以降、毎回授業のはじめに前回の振り返りを行うので復習も欠かさず行うこと。								
事後学習	授業ノートの整理を行い、配布された資料も必ず読み、理解を深めると同時に、質問事項なども準備しておく。								
教科書	一級自動車整備士 総合診断・環境保全・安全管理、(社)日本自動車整備振興会連合会								
参考書	自動車関係法令と解説、(社)日本自動車整備振興会連合会								
成績評価の基準	定期試験(50%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(30%)、課題(20%)を総合的に評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した回の内容は自習し、わからないところは次回までに質問すること。必要と認めた場合は補習を行います。								
備考	一級自動車整備士資格を取得する為には、この授業単位を習得することが必要です。「※自動車整備実務経験あり」								

授業科目名	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
高度総合診断Ⅱ	必修	1	専1	後期	渡部 賢*

授業の概要

整備業務に関する実務内容を理解する為、整備作業として、法定点検、車検整備の点検項目ごとの点検要領を学び、実験・実習内容に生かします。それら基本整備を行う為の接客の要点や工場管理の基本なども学びます。

授業の目的

自動車に関わる関係法令を理解し、法定点検、故障整備の受付、問診、整備計画、整備結果、フォローアップまでの一連のお客様対応を分かりやすく、正確に行うことが出来るようになることが目的です。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

先回までの復習と今回の授業内容を提示した後に講義に入ります。学習内容の到達度を測る為に、課題、試験等に対するフィードバックを実施します。口述試験を想定したロールプレイングや演習も行います。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	導入	講義内容の目的や概要、演習の進め方について理解する。	1	1	
2	使用者の行う点検整備	一般に呼ばれている「定期点検・車検」が道路運送法では「使用者の行う点検整備」であることを理解する。	1	1	
3	乗用車1年定期点検 点検・作業要領	乗用車の1年定期点検整備、シビアコンディション、日常点検、それぞれ項目毎の点検・作業要領について理解し、安全で正確な作業漏れの無い、短時間で行う、点検作業を実践する事が出来る。	1	1	高度自動車実験実習
4			1	1	
5			1	1	
6			1	1	
7	乗用車2年定期点検 点検・作業要領	乗用車の2年定期点検(車検整備)項目毎の点検・作業要領について理解し、安全で正確な作業漏れの無い、短時間で行う点検作業を実践する事が出来る。	1	1	
8			1	1	
9			1	1	
10			1	1	
11			1	1	
12	フロント業務の流れと 関係法令	フロント業務における実務内容を理解し、実践する為のスキルを身につける。又関係する法令についても必要な内容を理解する。	1	1	
13			1	1	
14			1	1	
15	まとめ	今まで学習して高度診断Ⅱの考え方、留意点について理解し説明することが出来る。	1	1	
16	定期試験		2		
事前学習	事前に教科書や配布資料に目を通すことや2回目以降、毎回授業のはじめに前回の振り返りを行うので復習も欠かさず行うこと。				
事後学習	授業ノートの整理を行い、配布された資料も必ず読み、理解を深めると同時に、質問事項なども準備しておく。				
教科書	一級自動車整備士総合診断・環境保全・安全管理／自動車定期点検の手引(一社)日本自動車整備振興会連合会				
参考書	自動車関係法令と解説、(社)日本自動車整備振興会連合会				
成績評価の基準	定期試験(50%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(30%)、課題(20%)を総合的に評価します。				
欠席の取り扱い	必要と認めた場合は補習を行います。				
備考	一級自動車整備士資格を取得する為には、この授業単位を習得することが必要です。 *自動車整備の実務経験あり				

授業科目名	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
環境・安全管理	必修	1	専1	後期	市野瀬 和正

授業の概要

自動車は地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、大気汚染や廃棄物・粉塵・感覚公害等に深く関わっており、自動車と環境の調和を図っていくことが重要であり、且つ緊急の課題となっています。一方、自動車整備事業においては、業務を通じて社会に貢献することはもとより、自分自身の生活を向上させ、かつ幸せな生活を営む為に安心して仕事に専念できる、より安全な職場を作り出していくことが必要です。このような環境のもと、自動車整備士として必要な事項について具体的に説明します。

授業の目的

自動車整備事業場においては、環境保全及び安全管理への対応が一層厳しく評価される経営環境にあることから、関係する制度や法令を十分理解し、必要な知識と実践的な手法を身につけ、適切に処置が出来るようにすることが目的です。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

先回までの復習と今回の授業内容を提示した後に講義に入ります。学習内容の到達度を測る為に、課題、試験等に対するフィードバックを実施します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	資源の有効利用	地球環境の全体像や自動車に関わる環境問題、環境保全の取組み状況を理解する。	1	1	
2	産業廃棄物の影響と対応	自動車整備事業場から排出される産業廃棄物及びマニュフェスト制度や使用済自動車等の環境への影響について説明できる。	1	1	
3	産業廃棄物の影響と対応	自動車リサイクル法の規制内容を理解し説明できる。更にバッテリ、タイヤ及び冷却水の環境への影響、適正処理を説明できる。	1	1	
4	整備事業場の環境保全	整備事業場等の固定施設の環境保全と具体的な取組み事例について理解し、工場施設の排水、及び工場の騒音・振動に対する適切な対応、適切な処理について説明できる。	1	1	
5			1	1	
6	安全管理の意義 災害のあらまし	安全管理の意義、重要性と作業能率に寄与することを理解し説明できる。災害発生の仕組み、要因、災害防止の急所を理解し、説明できる。	1	1	自動車実務実習
7	道路運送車両法に関する環境保全	道路運送車両法に関するPM・NOx規制法や、東京都都条例の内容を理解し、継続検査業務の要点を説明できる。	1	1	自動車実務実習
8	定期試験		2		
事前学習	事前に教科書や配布資料に目を通すことや2回目以降、毎回授業のはじめに前回の振り返りを行うので復習も欠かさず行うこと。				
事後学習	授業ノートの整理を行い、配布された資料も必ず読み、理解を深めると同時に、質問事項なども準備しておく。				
教科書	一級自動車整備士 総合診断・環境保全・安全管理、(一社)日本自動車整備振興会連合会				
参考書	自動車関係法令と解説、(一社)日本自動車整備振興会連合会				
成績評価の基準	定期試験(50%)、受講態度・授業への積極的参加(質問・返答)など(30%)、小テスト(20%)を総合的に評価します。				
欠席の取り扱い	必要と認めた場合は補習を行います。				
備考	一級自動車整備士資格を取得する為には、この授業単位を習得することが必要です。「※自動車整備実務経験あり」				

授業科目名		必・選	単位	学年	学期	担当教員名			
自動車整備情報システム		必修	1	専1	後期	脇田 喜之			
授業の概要									
自動車整備業界をはじめとする各業界の基幹業務において、データベースシステムによる情報システムが利用されています。オフィスソフトでは、専用のデータベースシステムもありますが、簡易には表計算ソフトのデータベース機能が学習に適しています。本講義では、表計算ソフトを用いて顧客管理情報データベースを制作し、データベースによる基幹業務システムの機能について学習します。									
授業の目的									
自動車整備の顧客管理情報データベースの制作を通して、さまざまな業務で使われている情報システムの機能について理解し説明できること、データ構造やデータ処理方法について理解し、データベースの制作ができる目標とします。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
単元のはじめに学習内容について解説を行います。そして、学習内容を確認するための課題を制作します。最終的に、課題の制作を積み上げていくことで、顧客管理情報データベースを制作します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 事前 事後	関連科目 (短縮名／項目名)			
1	データの検索と抽出 ①フィルタによる方法	フィルタによる検索や抽出の方法について理解し活用できる。			2 2	情報リテラシー			
2	②プログラムや関数による方法	検索や抽出の条件の記述方法について理解し活用できる。			2 2				
3	複雑なデータ抽出 ①さまざまな条件式	日付検索の例などをとおして、複雑な条件式について理解し活用できる。			2 2				
4	②条件式をセルに記述する方法	条件式をセルに記述することできまざまな工夫を理解し活用できる。			2 2				
5	データの転記 ①新規テーブルに転記	特定のレコードを任意の場所に転記する方法について理解し活用できる。			2 2				
6	②フィルタ結果を転記	フィルタの結果を転記して必要なデータのみのテーブルを作成できる。			2 2				
7	データの統合 ①複数テーブルの統合	複数のデータテーブルを1つに統合する方法について理解し活用できる。			2 2				
8	②外部データの統合	他のデータ形式からデータテーブルを読み込む方法を理解し活用できる。			2 2				
9	データの入力支援 ①フォームの作成	入力フォームの機能と作成方法について理解し活用できる。			2 2				
10	②入力規則の設定	入力規則の機能と設定方法について理解し活用できる。			2 2				
11	データベースの制作	点検整備業務について、取材などをとおして検討を行うことにより、業務内容を理解し説明することができる。 データベースにより業務を改善する方法について提案し、データベースを制作することができる。			2 2	情報リテラシー			
12					2 2				
13					2 2				
14					2 2				
15					2 2				
16	まとめ	出来上がったデータベースに対して、自己評価を行うことができる。			4				
事前学習	表計算ソフトの使用方法に熟達するように、情報リテラシーの復習をすること。								
事後学習	講義時間中に課題の制作作業が間に合わない場合は、事後学習で作業を行い、制作期限に合わせること。								
教科書	仕事に役立つ Excel データベース、古川順平, SBクリエイティブ株式会社								
参考書	情報リテラシーで使用した下記の教科書を、授業の際に持参すること。 イチからしっかり学ぶ！Office 基礎と情報モラル, noa出版								
成績評価の基準	授業態度(50%), 制作課題(50%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席した場合は、必ず補習を行います。								
備考	一級整備士の資格を取得するためには、この授業の単位を修得することが必要です。								

授業科目名	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名
自動車品質管理	必修	1	専1	後期	市野瀬 和正

授業の概要

自動車品質管理の授業では、自動車整備事業の作業工程管理に必要とされる、均一な整備品質の管理と工学的方法を用いた総合的なシステムの効率化(インダストリアル・エンジニアリング=IE)の基礎を学びます。

授業の目的

自動車整備の品質管理では、整備品質の維持/向上の重要性を理解し、管理の仕組みと改善の手法を習得します。
IEでは、整備工場経営の現場管理の基礎及び改善活動を理解することを目的とします。

授業の進め方と学習成果のフィードバック

先回までの復習と今回の授業内容を提示した後に講義に入ります。学習内容の到達度を測る為に、課題、試験等に対するフィードバックを実施します。

回	単元名	学生が到達すべき目標	準備学習時間		関連科目 (短縮名／項目名)
			事前	事後	
1	自動車整備品質の考え方	品質管理の定義、役割、PDCAサイクル、QCストーリー、QCの七つ道具について理解する。 QC七つ道具による品質管理と品質改善の実務の流れを理解する。 TQCのキーワードを用いて整備工場の品質管理のマネジメントの基本を理解する。	1	1	
2	IE	IEの稼動分析、作業分析の手法を簡単な作業改善演習を行うことにより理解する。	1	1	
3			1	1	
4	乗用車 1年定期点検整備 標準作業手順書の作成	ワークサンプリング法を使い効率的な作業動線を確立し、標準手順書を作成する事が出来る。	1	1	高度自動車実験実習
5			1	1	
6			1	1	
7			1	1	
8	定期試験		2		

事前学習 集中講義を行うので、事前配布資料を熟読し授業を受けること。

事後学習 授業ノートの整理を行い、配布された資料も必ず読み、課題提出をすること。

教科書	資料配布
参考書	適時、案内します。
成績評価の基準	定期試験(40%)、授業への積極的参加(質問・返答)など(30%)、レポート課題(30%)を総合的に評価します。
欠席の取り扱い	必要と認めた場合は補習を行います。
備考	一級自動車整備士資格を取得する為には、この授業単位を習得することが必要です。「※自動車整備実務経験あり」

授業科目名		必・選	単位	学年	学期	担当教員名			
高度自動車実験・実習		必修	15	専1	通年	市野瀬 和正/他*			
授業の概要									
自動車工業科の2年間で習得した自動車の装置毎の構造・機能、作動、整備作業技術を踏まえて、各電子制御装置の高度故障診断、振動・騒音故障診断、総合車両診断の実験・実習を行います。又整備技術向上の一環として、お客様対応や新技術に関する、口頭発表等の授業を行います。									
授業の目的									
国家一級自動車整備士資格取得に向けて必要な高度整備技術や診断技術・技能を理解し習得する。 与えられたテーマに対して考えて行動し、整備作業に於ける品質管理技術を習得する。									
授業の進め方と学習成果のフィードバック									
各単元の最初にオリエンテーションを実施し、進め方の説明を行う。その後は各実験・実習指導書や課題等を基に自ら実験・実習を行い、それらの結果をレポートにまとめて提出し実習内容の理解度を確認します。また、最後に修了実技試験を行い評価します。									
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間	関連科目 (短縮名／項目名)			
		事前	事後						
1	電気・電子編 (前期 64 コマ)	電気電子回路の基本構成と故障が理解でき、適切な計測器で測定できる。				シャシ制御工学 I			
2		シャシ電装システムの効率的な故障診断と説明ができる。							
3	エンジン電子制御編 (前期 39 コマ)	エンジンの電源回路、センサ、アクチュエータの適切な点検・整備ができる。				エンジン制御工学 I・II			
4		修理書、配線図及び適切な計測器、外部診断器を用いて故障診断と説明ができる。							
5	電子制御式AT編 (前期 35 コマ)	AT の電源回路、センサ、アクチュエータの適切な点検・整備ができる。				シャシ制御工学 I			
6		修理書、配線図及び適切な計測器、外部診断器を用いて故障診断と説明ができる。							
7	基礎整備技術編 (前期 38 コマ)	自動車整備技術に於ける基礎整備を行い、標準作業時間内に作業を終えることができる。							
8									
9	EPS, ABS, A/C編 (後期 64 コマ)	エアコンの不具合現象から、回路診断を行い原因の絞り込みができる。ABS構成部品の正常な状態を確認し、電気回路と油圧回路の正常異常の判断ができる。EPS車の故障診断時、油圧 PS との違いや、五感と診断器を活用し判断する事ができる。				シャシ制御工学 II			
10									
11	車両診断編 (後期 56 コマ)	定期点検、車検、故障整備業務の総合診断、整備計画、品質管理、引渡しができる。				環境・安全／自動車、品質管理			
12		接客を意識した受付と整備説明ができる。							
13	振動・騒音編 (後期 40 コマ)	適切な計測器を使える。振動・騒音の発生部位と伝達経路の特定と、防振・防音対策ができる。				シャシ制御工学 II			
14	新技術編 (後期 28 コマ)	HV, EV 車等の構造・機能を理解し、的確な点検・整備ができる。自動車新技術についてスライドにまとめてプレゼンテーションが出来る。				自動車システム工学 I・II			
15									
16	修了実技試験 (後期 4 コマ)	国家一級自動車整備士の基本となるスキルを身につける。							
事前学習	実験・実習指導書を基に、各装置の構造、作動、役割、目的を事前に調べてまとめておくこと。								
事後学習	テーマ毎、レポートにまとめ、理解を深めること。								
教科書	テーマ毎、実験・実習指導書を配布します。								
参考書	「一級自動車整備士」シリーズ全4冊、(社)日本自動車整備振興会連合会、その他適宜案内します。								
成績評価の基準	修了実技試験(50%)、各単元でのレポート(30%)、出席状況及び授業態度(20%)を総合評価します。								
欠席の取り扱い	欠席数の全てを補うこととします。								
備考	一級自動車整備士資格を取得するためには、この授業の単位を取得することが必要です。 *自動車整備の実務経験あり								

授業科目名	必・選	単位数	学年	学期	担当教員名			
自動車実務実習	必修	23	専2	通年	市野瀬 和正/他			
授業の概要								
徐々にステップアップできるように以下のような授業を行う。 ①基礎作業を反復することで確実な整備作業を身につける。 ②決められた時間内に作業を終了させるため、効率の良い整備を考え実践する。 ③使用過程車の整備を経験することで予防整備に必要な、「観察しながら判断し作業を行う」事を実践する。 ④部位別の故障診断整備を行う。								
授業の目的								
「整備のスペシャリスト」=「予防整備と高度な故障診断を行える整備士」になることが目的です。								
授業の進め方と学習成果のフィードバック								
前期では、定期点検、車検整備とそれらの付帯作業の実習を中心に行い、インターンシップに生かします。又体験後は報告会も行います。後期は、故障診断実習が中心となり、正常回路の把握と問診を交えた回路診断の実習を行います。各課題に対するフィードバックを実施し、学習内容の達成度を測ります。								
回	単元名	学生が到達すべき目標			準備学習時間 (短縮名／項目名)			
		事前	事後					
1	定期点検整備 (前期164コマ)	車種ごとの定期点検整備記録簿の記入要領や意味を理解し、実践できる。点検整備作業時、項目の漏れがなく、且つ作業が時間内に効率よく正確にできる。使用状況の違いによる車両の劣化具合から予防整備の必要性を理解し実践する事ができる。			高度総合診断 I・II			
2								
3	インターンシップ (前期128コマ)	実際の整備工場を体験することで作業の流れを理解する。自分自身に必要となるスキルを明確にする。						
4	演習 (前期18コマ)	テキスト内容の理解の為、分野別に演習を行う。						
5	原動機装置 (後期28コマ)	エンジン(原動機)と始動制御に係る関係ハーネスを車両から脱着することで、構成部品の役割や安全作業に基づいた脱着要領を身につける。			シャシ制御工学 II			
6		エンジン(原動機)のOH(オーバーホール)後、シャシダイナモにて性能確認を行うことで、分解組立の基本スキルを身につける。						
7	AT総合診断 (後期28コマ)	故障設定を伴う、ATオーバーホールを行うことでAT内部構造の理解を深めると共に、故障現象を確認する走行テスト、故障診断機、油圧ゲージ等を利用し故障の絞り込みができる。						
8								
9	異音・振動故障診断 (後期36コマ)	タイヤのアンバランスが原因による振動を、周波数解析から診断し、実車を使い処置方法を学び、対処方法を身につける。						
10		使用過程車に低級音、振動低減処置を行うことで、作業の前後を比較して効果を判断することが出来る。						
11	車両点検・ユーザー対応 (後期32コマ)	使用過程車の整備を入庫予約から行うことで、問診・診断・説明のスキルを高める。実際の整備も経験することで、使用過程車の整備を学び、卒業後の即戦力に繋げる。			高度総合診断 I・II			
12								
13	演習 (後期80コマ)	登録試験合格に向けて、分野別や総合問題に取り組み実力をつける。						
14	車両故障診断 (後期44コマ)	外部診断機を用いたデーター解析を行いエンジンやATの制御システムを理解し、故障診断に繋げる。			自動車システム工学 I・II			
15		CAN通信システムを習得する為に、オシロ波形と外部診断機の故障診断を学ぶ。						
16	修了実技試験及び演習 (後期24コマ)	高難度の故障診断を含めて、決められた時間内に、定期点検整備が出来る。						
事前学習	作業テーマは事前に案内するので、各装置の構造、作動、役割、目的を事前に調べてまとめておくこと。							
事後学習	作業中に取ったメモなどから、その日の振り返りを行い、作業改善に繋げること。 テーマ毎、レポートにまとめ、理解を深めること。							
教科書	テーマ毎、資料や指導書を配布します。自動車整備士の法令教本 H31年度版、株公論出版							
参考書	「一級自動車整備士」シリーズ全4冊、(一社)日本自動車整備振興会連合会、その他適宜案内します。							
成績評価の基準	修了実技試験(40%)、レポート(15%)、演習(15%)、授業への積極的参加(20%)、インターンシップ(10%)を総合評価します。							
欠席の取り扱い	欠席数の全てを補うこととします。							
備考	一級自動車整備士資格を取得する為には、この授業単位を取得することが必要です。「※自動車整備実務経験あり」							

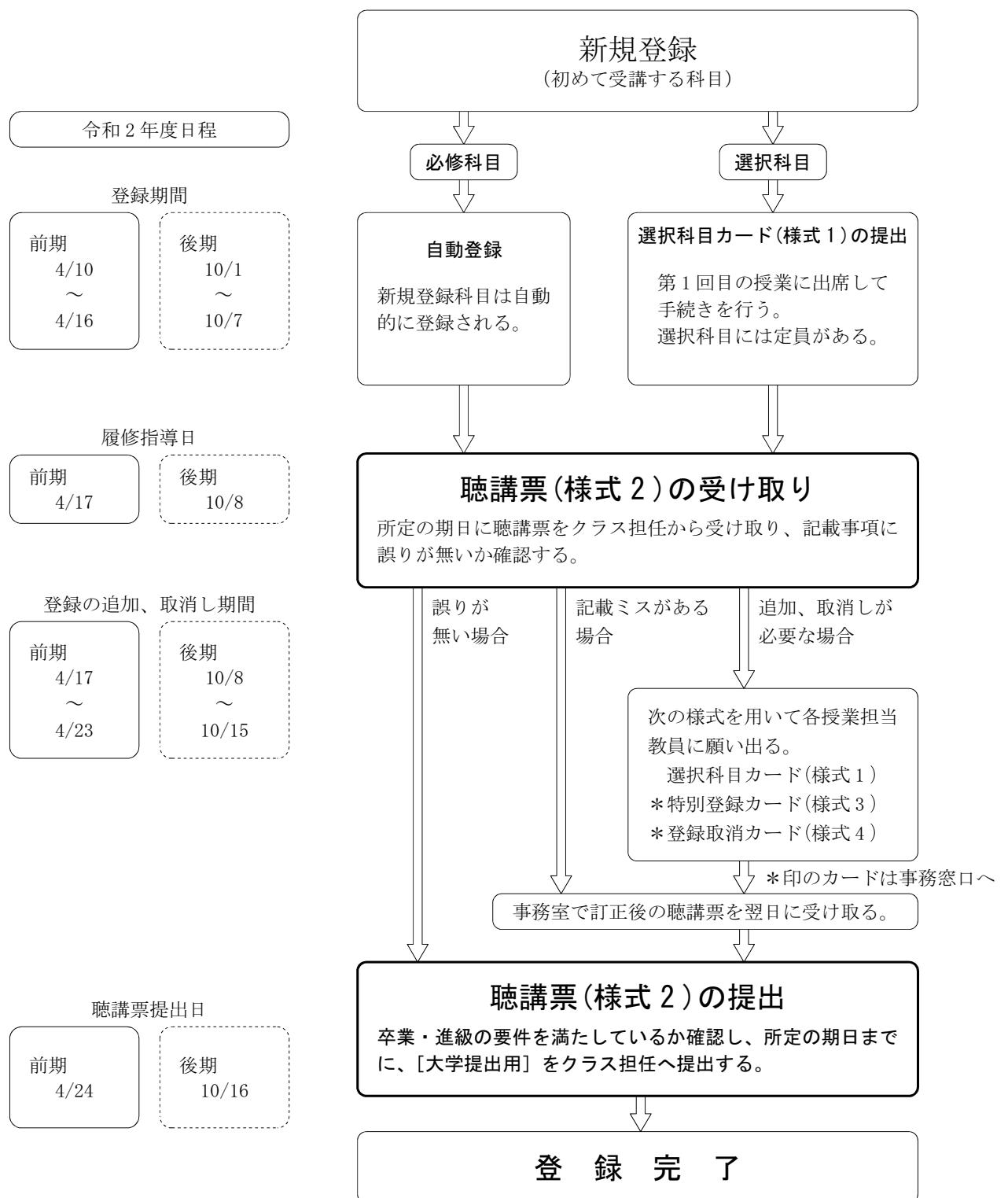
資 料

3. クラス担任等名簿
4. 履修登録の時期と方法
5. 教員別授業担当科目
6. 学年暦
7. 授業時間割表

令和2年度 クラス担任等名簿

自動車工業科			
クラス担任			
1年		2年	
A	近藤 克哉	A B	渡部 賢
B	高橋 和夫	C D	坂井 淳
C	川崎 信隆	E F	吉田 勝哉
D	北原 成倫	G	齋藤 博

専攻科自動車工学専攻	
クラス担任	
2年	市野瀬 和正



履修登録の時期

前・後期とも授業開始日から2週間

※あらかじめ、定められた期間を必ず守ること。

令和2年度 教員別授業担当科目

[]内は、専攻科授業科目
末尾に(※)、(*)のある科目は、卒業要件に含めない

自動車工業科

学 長	佐藤 孝	物理学 I 、電子制御概論
教 授	高野 剛	基礎自動車工学、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン、シャシ構造 II 自動車安全技術・新技術、自動車工学演習 I 、自動車工学入門(※) [自動車システム工学 II]
教 授	鈴木 真人	シャシ構造 I 、力学の基礎と機械のしくみ、材料の強さと機械要素設計 自動車工学演習 II 、自動車の力学入門(※)、キャリア形成プログラム(*)、 インターンシップ研修(*)、[自動車応用力学]
教 授	脇田 喜之	自動車電装 I ・ II 、電子制御概論、電子制御工学 I H V ・ E V ・ F C V 、基礎制御実習 I ・ II [自動車電気電子工学、シャシ制御工学 I 、自動車整備情報システム]
准教授	斎藤 博	電子制御工学 II 、電子制御工学演習 I ・ II 、計測工学、保全工学、品質工学
講 師	市野瀬 和正	自動車実験・実習 A [高度総合診断 I 、環境・安全管理、自動車品質管理 高度自動車実験・実習、自動車実務実習]
講 師	吉田 勝哉	自動車実験・実習 C ・ D [自動車システム工学 I 、高度自動車実験・実習、自動車実務実習]
講 師	坂井 淳	故障探究・整備 II 、自動車実験・実習 B ・ C ・ D [エンジン制御工学 II 、シャシ制御工学 II 、高度自動車実験・実習]
講 師	近藤 克哉	故障探究・整備 I 、自動車実験・実習 A ・ B ・ C [自動車実務実習]
講 師	高橋 和夫	自動車実験・実習 A ・ B ・ D [エンジン制御工学 I 、高度自動車実験・実習]
講 師	渡部 賢	自動車実験・実習 A ・ B ・ C ・ D 、自動車検査・法規 I ・ II [高度総合診断 II]
講 師	川崎 信隆	自動車工学演習 I 、自動車実験・実習 A ・ B ・ C ・ D
助 教	北原 成倫	故障探究・整備 III 、自動車工学演習 II 、自動車実験・実習 A ・ B ・ C ・ D

非常勤講師

- 岡田 龍哉 物理学Ⅰ・Ⅱ、機械材料と加工概論、機械製図
- 阿部 裕孝 体育実技A・B
- 斎藤 公世 電気電子工学Ⅰ・Ⅱ
- 武石 文雄 数学Ⅰ・Ⅱ
- 渡辺 芳久 経済学
- 木村 昌彦 キャリアデザイン
- 吉田 広子 英語Ⅰ・Ⅱ
- 佐藤 雅尚 情報リテラシー
- 渡邊 有紀恵 日本語表現法Ⅰ・Ⅱ(※)、日本事情(※)
- 高井 麻衣子 日本語表現法Ⅰ・Ⅱ(※)、日本事情(※)
- 池井 豊 ビジネス実務
- 村山 健一 電子制御実験・実習A・B
- 牛田 晃臣 流体の力学と熱エネルギー
- 佐藤 大祐 流体の力学と熱エネルギー

令和2年度学年暦

<前期>

	日	月	火	水	木	金	土	学事日程	備考
4 月				1	2	3	4	2日:ブレオリエンテーション 8日:入学式 9日:オリエンテーション 10日:前期授業開始日 10日-23日:履修登録期間 29日:昭和の日	
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30				
					1(水)		2		
5 月	3	4	5	6	7	8	9	1日:水曜授業日 3日:憲法記念日 4日:みどりの日 5日:こどもの日 6日:振替休日	
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
		1	2	3	4	5	6	14日:学園創立記念日	
6 月	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30						
			1	2	3	4		23日:海の日 24日:スポーツの日	
7 月	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	29	30	31			
							1	3日-7日:前期定期試験 10日:山の日	
8 月	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							
			1	2	3	4	5	7日-11日:2年生前期追再試験期間 14-18日:1年生前期追再試験期間 21日:敬老の日 22日:秋分の日	
9 月	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30					
								2日-3日:ガス溶接技能講習	

前学期:4月8日～9月30日 夏期休業日:8月10日～9月30日 後学期:10月1日～

令和2年度学年暦

<後期>

	日	月	火	水	木	金	土	学事日程	備考
10 月					1	2	3	1日:後期授業開始 1日-14日:履修登録期間	8日:履修登録指導日 15日:聴講票提出日
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
11 月	1	2	3	4	5(火)	6	7	3日:文化の日 5日:火曜授業日 23日:勤労感謝の日 26日:月曜授業日	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26(月)	27	28		
	29	30							
12 月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
	27	28	29	30	31				
1 月					1	2		1日:元日 11日:成人の日 15日:月曜授業日	18日:後期定期試験時間割発表
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15(月)	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
	31								
2 月		1	2	3	4	5	6	1日-5日:後期定期試験 11日:建国記念の日 15日-19日:2年生後期追再試験期間 22日-26日:1年生後期追再試験期間 23日:天皇誕生日	
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28								
3 月	1	2	3	4	5	6		17日:卒業・修了証書授与式 20日:春分の日	21日:二級自動車整備士登録試験(予定)
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29	30	31					

後学期:10月1日～3月17日 冬期休業日:12月25日～翌年1月6日 春期休業日:2月17日～3月31日

令和2年度 授業時間割表

前期 自動車工業科(自動車技術コース、電子制御コース)

前期 專攻科自動車工学科

区分		月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日				
		1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5限	1限	2限	3限	4限	5眼	1限	2限	3眼	4限	5眼	1限	2限	3眼	4限	5眼
専攻科	1年	自動車実習室	高度自動車実験・実習 高橋和夫	高度自動車実験・実習 高橋和夫	高度自動車実験・実習 高橋和夫	高度自動車実験・実習 高橋和夫	自動車電気工学科	高度結合診断工学科	高度結合診断工学科	高度結合診断工学科	高度結合診断工学科	自動車電気工学科	高度自動車実験・実習 坂井淳	高度自動車実験・実習 坂井淳	高度自動車実験・実習 坂井淳	高度自動車実験・実習 坂井淳	1眼	2限	3眼	4限	5眼	自動車実習室	高度自動車実習 吉田勝哉	高度自動車実習 吉田勝哉	高度自動車実習 吉田勝哉	高度自動車実習 吉田勝哉
	2年	自動車実習室	自動車実務実習 市野瀬和正	自動車実務実習 市野瀬和正	自動車実務実習 市野瀬和正	自動車実務実習 市野瀬和正	自工室	自動車実務実習 市野瀬和正	自動車実務実習 市野瀬和正	自動車実務実習 市野瀬和正	自動車実務実習 市野瀬和正	自工室	自動車実務実習 吉田勝哉	自動車実務実習 吉田勝哉	自動車実務実習 吉田勝哉	自動車実務実習 吉田勝哉	1眼	2限	3眼	4限	5眼	自動車実習室	高度自動車実習 吉田勝哉	高度自動車実習 吉田勝哉	高度自動車実習 吉田勝哉	高度自動車実習 吉田勝哉

※1 この科目単位は卒業要件には含まれません。
※2 この科目は不定期で実施します

令和2年度 授業時間割表

後期 自動車工業科(自動車技術コース、電子制御コース)

後期專攻科自動車工學專攻

- ※1 この科目単位は卒業要件には含まれません。
- ※2 この科目は不定期で実施します。



学籍番号		氏名	
------	--	----	--